

令和4年度
事業報告書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

学校法人 九州文化学園

目 次

内容

I. 学校法人の概要	1
1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	1
4. 設置する学校・学部・学科等	3
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況	4
6. 収容定員充足率	4
7. 役員の概要	5
8. 評議員の概要	6
9. 教職員の概要	6
10. 中期計画における基本方針と重点戦略	7
II. 事業の概要	8
1. 長崎国際大学	8
2. 長崎短期大学	38
3. 九州文化学園高等学校	52
4. 九州文化学園中学校	60
5. 九州文化学園小学校	65
6. 認定こども園九州文化学園幼稚園	70
7. 九州文化学園調理師専門学校	78
8. 九州文化学園歯科衛生士学院	87
9. 法人事務局	95
10. 学園全体	103
11. 法人全体の計画の進捗・達成状況	105
III. 財務の概要	107
1. 決算の概況	107
2. その他	112
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	114
IV. 令和4年度 計算書類	115
1. 資金収支計算書	116
2. 活動区分資金収支計算書	117
3. 事業活動収支計算書	118
4. 貸借対照表	119
5. 財産目録	120

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

法人の名称	学校法人九州文化学園
主たる事務所の住所等	【学校法人九州文化学園 法人本部】 〒859-3243 長崎県佐世保市ハウステンボス町4番地3 TEL 0956-27-0666 FAX 0956-27-0678
ホームページアドレス	https://www.kyubun.ed.jp/

2. 建学の精神

この法人は、教育基本法・学校教育法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行い、九州文化学園創設の精神に則り、高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間を育成することを目的とする。

(学校法人九州文化学園 寄附行為 第3条「目的」より)

3. 学校法人の沿革

年月	事項
昭和20(1945)年 11月	財団法人九州文化学院設立申請(校地：大黒町 元海軍工廠工員宿舎)
12月	財団法人九州文化学院創立(12月15日、創立記念日)
昭和22(1947)年 2月	九州女子専門学校認可され、法人設立(2月28日)
昭和23(1948)年 9月	校地：矢岳移転
昭和26(1951)年 2月	学校法人九州文化学園へ組織変更(2月24日)
3月	九州文化学園高等学校設置認可(3月24日)
4月	九州文化学園高等学校開校
昭和29(1954)年 6月	九州文化学園幼稚園設置認可(6月24日)
昭和41(1966)年 3月	九州文化学園短期大学設置認可(3月18日)
昭和41(1966)年 4月	九州文化学園短期大学開学(食物科設置)
昭和46(1971)年 3月	九州文化学園調理師専修学校設置認可(3月10日)
昭和47(1972)年 4月	九州文化学園短期大学幼児教育学科設置
昭和50(1975)年 11月	九州文化学園創立30周年記念式典開催
昭和53(1978)年 1月	初代理事長(創設者)逝去(1月31日)
昭和56(1981)年 2月	九州文化学園歯科衛生士学院設置認可(2月26日)
昭和60(1985)年 4月	九州文化学園短期大学を長崎短期大学に名称変更、椎木キャンパスへ移転
平成元(1989)年 4月	長崎短期大学英語科、幼児教育学科専攻科福祉専攻(後に廃止)設置
平成7(1995)年 4月	長崎短期大学英語科専攻科英語専攻設置(後に廃止)
11月	九州文化学園開設50周年記念式典開催・50周年記念誌発行
平成8(1996)年 4月	九州文化学園高等学校衛生看護専攻科開設 長崎短期大学食物科専攻科食物栄養専攻開設(後に廃止)
平成11(1999)年 12月	長崎国際大学設置認可(12月22日)
平成12(2000)年 4月	長崎国際大学開学(校地：ハウステンボスキャンパス) 人間社会学部国際観光学科・社会福祉学科開設 長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更
平成14(2002)年 4月	長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科開設 長崎短期大学を男女共学化
平成16(2004)年 4月	長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻・社会福祉学専攻(修士課程)開設
平成18(2006)年 4月	長崎国際大学薬学部薬学科(6年制)、大学院健康管理学研究科健康栄養学専攻(修士課程) および大学院人間社会学研究科地域マネジメント専攻(博士後期課程)開設 九州文化学園高等学校を椎木キャンパス、九州文化学園調理師専修学校と九州文化学園

年月	事項
	歯科衛生士学院を藤原キャンパス、九州文化学園幼稚園を上町キャンパス、法人事務局をハウステンボス町へ各々移転
	九州文化学園高等学校を男女共学化
	九州文化学園歯科衛生士学院を 3 年制度に変更
平成 20(2008)年 4 月	長崎短期大学専攻科保育専攻開設
平成 22(2010)年 4 月	長崎短期大学保育学科保育専攻および介護福祉専攻開設
平成 25(2013)年 1 月	旧矢岳キャンパス(佐世保中央 IC)記念碑建立
4 月	長崎短期大学英語科を国際コミュニケーション学科へ名称変更
平成 26(2014)年 4 月	長崎国際大学大学院薬学研究科医療薬学専攻(4 年制博士課程)開設
平成 27(2015)年 4 月	九州文化学園幼稚園を認定こども園九州文化学園幼稚園(幼保連携型)に変更開園
11 月	九州文化学園創立 70 周年記念式典・祝賀会 開催
12 月	70 周年記念誌 発行
平成 28(2016)年 4 月	九州文化学園調理師専修学校を九州文化学園調理師専門学校に校名変更し、2 年専門課程開設
平成 30(2018)年 9 月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校設置認可(9 月 10 日)
平成 31(2019)年 4 月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校開設(校地：花園キャンパス)
令和 2(2020)年 4 月	長崎短期大学国際コミュニケーション学科、食物科、保育学科(2 専攻)を改組し、地域共生学科(4 コース)、保育学科(1 専攻)へ変更
令和 3(2021)年 3 月	九州文化学園 SDGs 推進宣言(3 月 17 日)
令和 4(2022)年 3 月	第 1 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)
令和 4(2022)年 4 月	九州文化学園高等学校 普通科を S アカデミー・S グローバル・総合進学・キャリアデザイン の 4 コース制に変更
令和 5(2023)年 3 月	第 2 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)

4.設置する学校・学部・学科等

学校等の名称	住所等
長崎国際大学	●人間社会学研究科 - 観光学専攻[修士課程] - 社会福祉学専攻[修士課程] - 地域マネジメント専攻[博士後期課程] ●健康管理学研究科 - 健康栄養学専攻[修士課程] ●薬学研究科 - 医療薬学専攻[4年制博士課程] ●人間社会学部 - 国際観光学科、社会福祉学科 ●健康管理学部 健康栄養学科 ●薬学部 薬学科[6年制]
長崎短期大学	●地域共生学科 - 食物栄養コース、製菓コース - 介護福祉コース - 国際コミュニケーションコース ●保育学科 ●専攻科保育専攻
九州文化学園高等学校	●普通科 - Sアカデミーコース - Sグローバルコース - 総合進学コース - キャリアデザインコース ●食物調理科 ●衛生看護科 ●保育福祉科 - 保育コース、福祉コース
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	
九州文化学園小学校・九州文化学園中学校	
認定こども園九州文化学園幼稚園	
九州文化学園調理師専門学校	
九州文化学園歯科衛生士学院	

5.学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 4(2022)年 5 月 1 日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
長崎国際大学	人間社会学部	260 人	245 人	1,100 人
	健康管理学部	80 人	74 人	340 人
	薬学部	120 人	103 人	720 人
	人間社会学研究科	23 人	10 人	49 人
	健康管理学研究科	4 人	3 人	8 人
	薬学研究科	3 人	3 人	12 人
長崎短期大学	地域共生学科	135 人	146 人	270 人
	保育学科	100 人	83 人	200 人
	専攻科保育専攻	10 人	5 人	20 人
九州文化学園高等学校	普通科 ※1	120 人	124 人	300 人
	食物調理科	40 人	54 人	120 人
	保育福祉科	80 人	79 人	240 人
	衛生看護科	40 人	55 人	120 人
	衛生看護専攻科	45 人	44 人	90 人
九州文化学園中学校	40 人	16 人	120 人	60 人
九州文化学園小学校 ※2	40 人	35 人	160 人	98 人
認定こども園九州文化学園幼稚園 ※3	—	—	270 人	228 人
九州文化学園調理師専門学校	40 人	13 人	80 人	27 人
九州文化学園歯科衛生士学院	40 人	35 人	120 人	88 人

※1 高校普通科の収容定員は、令和 4(2022)年度からの定員増(+30 人)しており 1 学年分の学年進行を反映した数値

※2 小学校の収容定員は、学年進行(4 学年)までの定員

※3 幼稚園の収容定員は、1 号認定、2 号認定、3 号認定の各利用定員の合計値を記載

6.収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度
長崎国際大学	105.3%	107.5%	107.7%	103.5%	97.8%
長崎国際大学大学院	50.7%	46.4%	50.7%	53.6%	59.4%
長崎短期大学	100.8%	99.0%	97.1%	85.1%	87.2%
長崎短期大学専攻科保育専攻	85.0%	80.0%	55.0%	50.0%	45.0%
九州文化学園高等学校	104.9%	101.0%	100.9%	105.6%	109.7%
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	106.7%	98.9%	106.7%	94.4%	82.2%
九州文化学園中学校	—	50.0%	52.5%	50.8%	50.0%
九州文化学園小学校	—	47.5%	48.8%	55.8%	61.3%
認定こども園九州文化学園幼稚園	88.3%	83.0%	90.7%	85.6%	84.4%
九州文化学園調理師専門学校	47.5%	41.3%	33.8%	31.3%	33.8%
九州文化学園歯科衛生士学院	94.2%	86.7%	78.3%	70.8%	73.3%

※ 九州文化学園高校は入学定員を平成 30(2018)年度より 20 人増。以降、各年度の収容定員は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。また令和 4(2022)年度より 30 人増。

※ 九州文化学園小学校・中学校は平成 31/令和元(2019)年度に開設。令和 4(2022)年度時点で、小学校は 4 学年まで進行中。各年度の収容定員充足率は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。

※ 認定こども園九州文化学園幼稚園は利用定員を平成 30(2018)年度に 12 人増、平成 31/令和元(2019)年度に 6 人増。

7. 役員の概要

■理事(定数 6 人以上 9 人以内 現員 8 人)

(令和 5(2023)年 3 月 24 日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
理事長	安部 直樹	令和 2(2020)年 4 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 理事長
常務理事	安部 雅隆	令和 5(2023)年 3 月 26 日	常勤	学校法人九州文化学園 常務理事・法人本部長
理事	安東 由喜雄	令和 4(2022)年 4 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学学長
	横田 正俊	令和元(2019)年 7 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 九州文化学園高等学校校長
	柿本 雄二	令和元(2019)年 7 月 5 日	常勤	学校法人九州文化学園 法人事務局長
	綾部 賢一郎	令和 3(2021)年 7 月 5 日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学事務局長
	本岡 吉彦	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	長崎日本語学院 代表取締役社長
	吉澤 俊介	令和 4(2022)年 6 月 27 日	非常勤	株式会社十八親和銀行 顧問

■監事(定数 2 人以上 3 人以内 現員 3 人)

(令和 5(2023)年 3 月 24 日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
監事	平木 博之	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	元 銀行員
	松瀬 太郎	令和元(2019)年 6 月 1 日	非常勤	元 公立高校校長
	川口 博樹	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	西肥自動車株式会社 顧問

■責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

見出名	規則条項	条文
責任の免除	学校法人九州文化学園寄附行為 第 8 章 第 47 条	役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。
責任限定契約	学校法人九州文化学園寄附行為 第 8 章 第 48 条	理事(理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 10 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

契約名称	契約先	対象および契約概要
役員賠償保険	東京海上日動火災保険㈱ (代理店：(有)オフィス東海)	【対象】理事・監事・評議員、法人(調査費・第三者委員会費用のみ) 【概要】学校法人役員の任務懈怠による賠償責任(第三者或いは学校法人に対するもの)を補償する。

8.評議員の概要

(定数13人以上19人以内 現員19人)

令和5(2023)年3月24日現在

役職	氏名	就任年月日	主な現職等(選任区分)
評議員	安部 直樹	令和2(2020)年7月5日	学校職員
	安部 雅隆	令和2(2020)年7月5日	学校職員
	木村 勝彦	令和2(2020)年7月5日	学校職員
	川原 ゆかり	令和2(2020)年7月5日	学校職員
	金子 圭一	令和4(2022)年4月1日	学校職員
	大坂 良一	令和3(2021)年4月1日	学校職員
	柿本 雄二	令和2(2020)年7月5日	学校職員
	樋口 由美子	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	田淵 美紀	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	瓜生 陽子	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	大久保 美香	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	徳吉 由香	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	荒巻 桂二郎	令和2(2020)年7月5日	卒業生
	本岡 吉彦	令和2(2020)年7月5日	学識経験者
	久家 謙二	令和2(2020)年7月5日	学識経験者
	口石 長次	令和2(2020)年7月5日	学識経験者
	田淵 幸親	令和3(2021)年4月1日	学識経験者
	百津 真人	令和2(2020)年7月5日	学識経験者
	額原 秀子	令和2(2020)年7月5日	学識経験者

9.教職員の概要

(令和4(2022)年5月1日現在)

■学長・学校長等

学校名	役職名	氏名
長崎国際大学	学長	安東 由喜雄
長崎短期大学	学長	安部 恵美子
九州文化学園高等学校	校長	横田 正俊
九州文化学園中学校	校長	橋本 信博
九州文化学園小学校	校長	橋本 信博

学校名	役職名	氏名
認定こども園九州文化学園幼稚園	園長	金子 圭一
九州文化学園調理師専門学校	校長	大坂 良一
九州文化学園歯科衛生士学院	学院長	大坂 良一

■長崎国際大学

	本務教員							兼務教員数
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	合 計	平均年齢	
人 間 社 会 学 部	15人	16人	17人	4人	1人	53人	50歳	36人
健 康 管 理 学 部	6人	3人	7人	3人	6人	25人	41歳	
薬 学 部	22人	8人	11人	8人	2人	51人	48歳	
合 計	43人	27人	35人	15人	9人	129人	47歳	36人

※理事長を人間社会学部の教授、学長を薬学部の教授、副学長を人間社会学部の教授に算入。

■長崎短期大学

	本務教員							兼務教員数
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	合 計	平均年齢	
地 域 共 生 学 科	6人	4人	7人	4人	3人	24人	45歳	2人
保 育 学 科	4人	3人	1人	2人	0人	10人	49歳	
合 計	10人	7人	8人	6人	3人	34人	46歳	2人

※学長を保育学科の教授、副学長を保育学科の教授に算入。

■高等学校、小中学校、幼稚園

	本務教員					兼務教員数
	教 諭	助 教 諭	講 師	合 計	平均年齢	
九 州 文 化 学 園 高 等 学 校	40人	16人	0人	56人	46歳	27人
九 州 文 化 学 園 中 学 校	11人	0人	1人	12人	39歳	4人
九 州 文 化 学 園 小 学 校	12人	0人	2人	14人	40歳	1人
認定こども園九州文化学園幼稚園	20人	人	人	20人	32歳	6人

※ 高等学校長、小中学校長、副校長、教頭、幼稚園園長、養護教諭をそれぞれの教諭に算入。

■専修学校

	本務				兼務 教員数
	教 員	講 師	合 計	平均年齢	
九州文化学園調理師専門学校	5人	0人	5人	41歳	51人
九州文化学園歯科衛生士学院	9人	0人	9人	43歳	143人

※ 校長兼学院長を学院に算入。

■事務職員

	本務		兼務 職員数
	職員数	平均年齢	
長崎国際大学	67人	45歳	16人
長崎短期大学	16人	42歳	7人
九州文化学園高等学校	9人	54歳	0人
九州文化学園中学校	1人	43歳	0人
九州文化学園小学校	4人	46歳	0人
認定こども園九州文化学園幼稚園	4人	44歳	5人
九州文化学園調理師専門学校	0人	—	1人
九州文化学園歯科衛生士学院	0人	—	0人
法人事務局	17人	46歳	0人
合 計	118人	45歳	29人

10.中期計画における基本方針と重点戦略

■基本方針

1	成長力の確保	学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを目指す。
2	教育力の向上	学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを目指す。
3	約定返済の確実な履行	毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを目指す。

■重点戦略

戦略区分		達成目標
戦略Ⅰ	建学の精神・理念に基づく人財養成と内部質保証の担保	① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成 ② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成 ③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成
戦略Ⅱ	成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実	① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得 ② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化 ③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築
戦略Ⅲ	グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化	① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築 ② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化 ③ 保護者や卒業生、教職員OBとの関係性の強化
戦略Ⅳ	ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化	① ICTを活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施 ② ICTを活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施 ③ ICT環境導入を実現できる資金確保策の実施
戦略Ⅴ	認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足	① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築 ② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施
戦略Ⅵ	財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化	① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化 ② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持 ③ 約定返済の確実な履行 ④ 法人本部および各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備

Ⅱ. 事業の概要

1.長崎国際大学

1) 経営理念・経営目標

経営理念	3S、speed、service、scientific に遂行する。
経営目標	様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。 With コロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る。

2) 1年間の総括と評価

✓ 新型コロナウイルスの感染拡大のリスクを減らす目的から、各部門の事業や行事が中止、延期または縮小を余儀なくされる等、大きな影響を受けたものの、学内に設置した NIU 疾患検査センター(PCR 検査場)による感染者の早期発見・クラスターの発生防止に努め、また学長が院長を務める NIU 利休庵診療所と協調し、学生・教職員および近隣企業の従業員向けに職域接種を実施するなど、前年度に引き続き安全・安心を享受できる教育環境を整備し大学運営を実施した。 ✓ このような教育環境下、効果的な教育・指導を行っていくために、地域の感染状況を的確に把握しながら対面授業の割合を増加させ、キャンパスに活気を取り戻すことが出来た。また、学園祭はコロナ禍前に戻しフルスペックで開催することが出来た。教育課程の体系化の推進、学修成果の把握、教員および職員の資質向上のための SD(Staff Development)・FD(Faculty Development)活動の強化にも努めた。

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	【国際観光学科】 ✓ 社会が求める人材育成を実現するため、少人数での専門演習を基礎とし、担当教員の省察、ポートフォリオを活用した学生情報の共有等を通じ、学生の学業進捗状況を学科レベルで把握、指導する体制を維持した。入学定員は確保できており、退職教員の補充と育成が課題である。 【社会福祉学科】 ✓ 3 ポリシーについては、教員については学科会議、学生についてはオリエンテーション等の機会を通じて内容や意義についての確認を行い、周知の徹底を図った。これにより、教員は 3 ポリシーを基盤とした教育を実践し、地域の福祉事業所、企業、公務員等、地域社会に貢献しうる人材を輩出することができた。 【健康栄養学科】 ✓ 建学の精神や理念に基づいた教育・研究を行うため、新任研修や FD への参加を促した。 【薬学科】 ✓ 令和 2(2020)年度に新カリキュラム(4 次カリキュラム)を導入し、PDCA サイクルをもとに、建学の理念を身につけた地域社会へ貢献できる薬剤師を養成している。 ✓ 共用試験・国家試験対策として、外部講習会や総合系演習科目による専門力の醸成を行った。 ✓ 基礎学力の向上および留年生対策として、薬学教育支援センターを中心に、学修支援体制を強化した。 【人間社会学研究科】 ✓ 建学の精神と理念を理解し、社会が求める高度専門職業人および研究者の育成については、観光学・社会福祉学・地域マネジメントの 3 専攻の講義・研究指導、学位論文中間発表会などの教育活動において実施した。その結果、観光学専攻 5 人、社会福祉学専攻 6 人、地域マネジメント専攻 1 人の計 12 人に修士号および博士号の学位を授与できた。 【健康管理学研究科】 ✓ 本研究科に入学した 3 人の助手に対して、研究活動の支援を図った。 ✓ M マル合教員及び科目担当教員に各 1 人が昇格し、令和 5(2023)年度からの研究指導体制の強化を図った。 【薬学研究科】 ✓ 建学の理念に基づき、高度医療を担い、生命科学の発展に寄与する人材を養成することを継続目標とした。令和 4(2022)年度は新たに 3 人の大学院生(社会人大学院生 2 人)が入学した。 ✓ 18 時 30 分以降の講義開講や土曜日開講などの対応を行い、社会人学生が受講・研究しやすい環境を整えた。また、新型コロナウイルスによるまん延防止措置発令時期等においては遠隔講義も活用し、大学院研究・教育活動を円滑に進めるよう配慮した。
戦略Ⅱ	【国際観光学科】 ✓ 早期からの就職意識の醸成を図るため、全学年において進路意識調査を実施し、ゼミなどでのきめ細かな指導につなげることができた。また、学科内キャリア委員会がインターンシップの受け入れ先の開拓に力を入れ、学生の幅広いニーズに応えることができた。

	✓ 学修意欲の二極分化への対応として、低い学生への基礎力チェックを兼ねた入学前教育を開始した。 【社会福祉学科】 ✓ 新カリキュラム導入3年目を迎え、新カリキュラムに基づく教育の円滑な実施のため新カリキュラム下での実習実施は今年度が初めてとなるため、綿密な打ち合わせの実施、実習受入れ機関・指導者対象の説明会の開催など、十分な準備をもって臨み、無事に終了させることができた。 ✓ 進路決定に関して、早期(6月)に学科独自の就職説明会(3・4年次生対象)をキャリアセンターと連携しつつ実施し、学生の早い段階からの意識の醸成を図ることができた。その結果、100%には及ばなかったものの、90%台の就職率を達成することができた。 【健康栄養学科】 ✓ 学科専門導入科目「健康栄養入門」の履修を促し、実務家教員を中心に管理栄養士としての職業倫理やキャリア教育を実施した。また、元管理栄養士のゲストスピーカーを招聘し、経験に基づいた講義を受講させ、管理栄養士の使命・業務等について早期からの意識付けを行った。 ✓ 管理栄養士免許取得に対する学修支援として、在学生には正課外の管理栄養士国家試験対策を280回実施した。また、卒業生に対して、対面式講義の聴講及びオンデマンド方式のリカレント教育を行った。 【薬学科】 ✓ 地域医療の人材育成およびヒューマンズ教育の一環として、近隣地区の高校生を対象とした体験学習型の事業および地域の期待に応える実践活動(OB、OGの講演等)を実施した。 ✓ 薬剤師を含めた医療関係者や薬学部学生を対象とした生涯教育セミナーを開催した。 【人間社会学研究科】 ✓ 地方創生・地域を支える人材育成を目指し、産業界や地方公共団体と協力したリカレント教育は、2人の履修証明プログラム修了者(社会福祉学)の実績を得たが、観光学においては社会人の履修証明プログラム修了者はいない。 【健康管理学研究科】 ✓ 長期履修制度について周知し、令和5(2023)年度入学生1人が申請を予定している。 【薬学研究科】 ✓ 大学院生1人当たり主研究指導担当1人、副研究指導担当教員2人の指導体制を堅持した。 ✓ 研究進捗状況発表会等を通じて、大学院担当教員全員が大学院生の研究状況を把握し、建設的な議論・批評を行うことで、引き続き大学院生の研究能力取得、水準向上をすすめた。
戦略Ⅲ	【国際観光学科】 ✓ 国際観光研究所主催の地域でのセミナーなど産官学の取組みを積極的に推進し、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示した。 ✓ 高度な観光経営人材の育成を目指し、この分野で評価の高い海外先端大学との連携構築を進めた。 【社会福祉学科】 ✓ 国際交流については、教員のルートを通じて、中国からの留学生受け入れの申し入れがあり、国際交流・留学生支援センターと連携しながら、令和5(2023)年度以降の受け入れに向けた調整を行っている。 ✓ 協定校(上海大学等)との交流は今年度もコロナ禍の影響により実施できなかったものの、今後の規制緩和の状況を見ながら、従前の交流を復活していく。 ✓ 包括連携協定先である佐世保市社会福祉協議会と、地域福祉推進に係る調査研究を共同で実施し、地域貢献を果たすことができた。 【健康栄養学科】 ✓ 1～3年生の保護者に対して担当教員から単位取得状況及び生活状況についてのコメント、4年生の保護者には学部長より卒業判定に関わる単位取得状況及び管理栄養士国家試験模擬試験の成績についての手紙を送付し、保護者と連携した指導を行った。 ✓ 長崎県及び市町と連携して長崎県健康・栄養調査を実施し、栄養課題の抽出や健康増進事業への活用を検討を継続している。 ✓ 長崎県の食育推進活動において、本学科の学生が長崎県大学生食育向上委員会のメンバーとして参画している。 【薬学科】 ✓ 各教員において、国内外の大学や製薬企業との共同研究が進められている。 ✓ 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(以下、QSP)による入試を実施した。 ✓ 留年生の保護者に対して、面談(遠隔含む)や電話・メールによる相談を受け付けた。 ✓ 6年生の保護者を対象とした薬学部保護者懇談会を実施した。 【人間社会学研究科】 ✓ 留学生の多国籍化を推進するためにオンライン入試を実施したが、中国人留学生の確保にとどまり、多国籍化は実現できなかった。 ✓ 本学の訪問研究員制度等を運用した海外学術交流協定校の教員招聘の取り組みは、コロナ禍の影響で

	今年度も実績をあげることができなかった。 【健康管理学研究科】 ✓ 長崎県及び市町と連携し、長崎県健康・栄養調査の研究を継続している。 ✓ 長崎県と協働し、県内の保育所における食物アレルギーに関する研究を行っている。 【薬学研究科】 ✓ 将来国際的に活躍するために、必要な英語能力を修得・向上させる目的で、英語による講義開講を引き続き実施した。
戦略Ⅳ	【国際観光学科】 ✓ ICTを通じた教員間の情報交換、学生情報共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、特にこの分野の研究において先端を行く外国人教員の指導による新入教員への学科内FDを開催するなどして、全体のレベルアップを図ることができた。 【社会福祉学科】 ✓ 実習教育におけるICT活用(実習記録の電子化)の検討を行い、令和5(2023)年度より導入予定である。 ✓ 国家試験対策において、対面授業と並行して動画配信を積極的に活用し、学生の反復学修に資した。これにより、高水準の合格率を確保することができた。 【健康栄養学科】 ✓ 授業の動画配信を反復学習の促進及び欠席者の補講のツールとして活用し、教育効果の向上を図った。 ✓ 臨地実習において、遠方の実習施設との事前打合せや実習指導にICTを活用し、効率化を図った。 【薬学科】 ✓ 対面授業と並行して、一部オンデマンド授業を導入し、継続的に学修できる環境を整えた。 ✓ 授業の動画配信やポートフォリオの活用により、学習効果の向上を図った。 ✓ 文部科学省「With コロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により助成を受け購入した資料を活用し、事前学習(4年生対象)と生涯学習(卒業生・地域薬剤師対象)を実施した。 【人間社会学研究科】 ✓ 遠隔授業と対面授業を併用した講義・研究指導は、国内外の遠隔地で勤務する社会人の大学院生に対しては教育効果を高めた。 【健康管理学研究科】 ✓ 共同研究の打合せや学会発表、研修会等の参加にICTを活用し、研究活動の推進を図った。 【薬学研究科】 ✓ 進捗状況報告会の機会を利用して、大学院担当教員全員が大学院生の発表資料、発表・討議に対する臨み方、受け答え等について助言を行い、プレゼンテーション能力の向上をすすめた。
戦略Ⅴ	【国際観光学科】 ✓ 自治体が主催する各種審議会、懇話会および企業、協会等との共同研究などにより、学科教員の地域での存在感を示すことができた。また、近隣自治体との包括連携協定を2町(川棚町、東彼杵町)追加することができ、特に観光関連の共同研究への足掛かりを築いた。 【社会福祉学科】 ✓ 定員充足は叶わなかったものの、56人(充足率93.3%)を確保することができた。教員個々が出前授業や大学見学等を積極的に実施し、その内容にも工夫を凝らした成果であると思料されるため、次年度以降もこれらの取り組みをさらに積極的に推進していく。 ✓ 国家試験の合格率については、社会福祉士51.4%、介護福祉士および精神保健福祉士については100%を確保することができた。綿密なプログラムに基づき、教員が丸丸となって取り組んだ成果と考えているが、学生の学修への動機づけなど、一部に課題も残されたため、内容や方法についての見直しを行い、目標値(社会福祉士75%、他は100%)の達成を期したい。 【健康栄養学科】 ✓ 第37回管理栄養士国家試験における本学科の合格率は93.8%であり、全国150校の管理栄養士養成施設中40位であった。 ✓ 3年ぶりに対面式で催事を開催し、地域貢献や大学・学科の広報に寄与した。 ✓ 入学者は、1年生が74人、3年次編入生が3人であり、入学定員の充足率は85.6%であった。 【薬学科】 ✓ 研究成果は、特許申請・取得されており、また、研究成果をもとにした製品の販売もされている。 ✓ 新たに海星高校の高大連携選択制講座を開講した。引き続き、近隣の高校との連携を強化する。 ✓ 入試日程の見直しを行い、年内入試の強化を図った。 ✓ 薬剤師国家試験の新卒の合格率は88.9%であり、目標を達成することができた。 【人間社会学研究科】 ✓ 大学院担当教員の紹介、大学院生の研究活動など、大学ホームページを通じた国内外への発信の成果は、令和4(2022)年度秋季入学者7人と令和5(2023)年度春季入学者6人の計13人の半数が国内外の他大学の卒業・修了者であることから証明できる。 【健康管理学研究科】

	✓ 大学ホームページや SNS で大学院生及び教員の研究活動について発信した。 【薬学研究科】 ✓ 本学 HP(学術研究)等を通じて、大学院生等の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースリリースを行い、認知度・ブランドの向上を引き続き進めた。
戦略VI	✓ 中期計画令和3～7年度(5ヵ年)に基づく安定した財務基盤の確立と収支バランスを確保し、経営判断指標をA3段階からA2段階を目指したものの、大学の経常収支差額の黒字幅は4.1%と計画を達成する事が出来なかった。 ✓ 学生数の確保については、新型コロナウイルス感染症拡大による募集環境悪化により、収容定員充足率96.6%となった。 ✓ 寄付金においては、前年度は受配者指定寄付金の配布100百万円により大幅に増加したが、今年度はウクライナ学生人道緊急支援クラウドファンディング(406件、6,447千円)を実施したものの、全体で12百万円の寄付にとどまった。 ✓ 補助金の獲得については、私立大学等改革総合支援事業で2タイプを獲得し、戦略的獲得を実現することが出来た。また外部資金獲得のための研究活動推進としては、産学連携・研究支援室と共催にて科研費応募に係る説明会を開催し推進を図ったものの、新規獲得10件と前年を下回った。 ✓ 支出適正化のために、予算主義に基づく予算執行の周知・徹底を実施した。
学園内の 連携促進	【国際観光学科】 ✓ 高度な観光経営人材、地域創生人材の育成に向けて、中学校、高校、短大、調専との連携を深めることが求められるが、具体的な取り組みには至らなかった。IR(特定複合観光施設)認可後の長期的な人材育成を目指し、来年度以降の課題としたい。 【社会福祉学科】 ✓ 九州文化学園高校から5人、長崎短期大学から1人の3年次編入学があった。 ✓ 法人本部主催による福祉分野連携会議(大学、短大、高校の福祉領域の担当教員と法人本部職員が参加)への参加を通じて、学園内の連携、情報共有を図ることができた。 ✓ 九州文化学園高校福祉コース2年生を対象とした介護体験学習を本学で実施し、介護担当教員を中心に対応にあたった。大学での福祉の学びを喚起することができ、参加生徒からは「進路は就職で考えていたが、大学に変更したい」との相談が寄せられるなど、学園内進学への促進に寄与することができた。 【健康栄養学科】 ✓ 九州文化学園高校から11人の入学、長崎短期大学から2人の3年次編入学があった。 ✓ 長崎短期大学、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院へ非常勤講師を派遣し、協力を行った。 ✓ 薬学部や長崎短期大学と共同研究を行い、論文や学会発表等で成果を報告した。 【薬学科】 ✓ 出前講義による九州文化学園高校との高大連携の強化、九州文化学園小中学生を対象とした理科系の魅力紹介を推進している。 【人間社会学研究科】 ✓ 長崎短期大学および九州文化学園高校の教員の進学者はいなかった。次年度は、本研究科の修了実績がある長崎短期大学への募集活動を促すことにする。 【健康管理学研究科】 ✓ 薬学部や長崎短期大学と共同研究を行い、論文や学会発表等で成果を報告した。 【薬学研究科】 ✓ ニュースリリース等を通じて、研究活動を発信することで、薬学研究の魅力を紹介した。さらにニュースリリース数の増加とアピール向上を進めていく。
付帯計画 と課題	【国際観光学科】 ✓ IR(特定複合観光施設)誘致に向けた人材育成プログラム(社会人を含む)に関し検討を進めているが、予定された国の認可が遅れていることから実施に向けた具体案の策定には至らなかった。 ✓ スポーツサポートセンターと協働し、西海市など自治体への学生スポーツ指導員の派遣を行った。 【社会福祉学科】 ✓ 老朽化した備品の更新については、予定通り実施できた。 ✓ 定員充足率向上のための戦略について、特に社会人やシニア層を対象とした新たな入試・入学形態について、関係部署に提案・協議を行っていく。 【健康栄養学科】 ✓ 入学定員充足に向けて、入試科目及び入試科目数の変更や3年次編入生指定校特別推薦制度の追加等の入試選抜の見直しを行ったが、改善は認められなかった。18歳人口の減少に加え、管理栄養士を志願する生徒も減少していることから、入学定員の検討が必要である。 ✓ 5号館の講義室・実習室・研究室のエアコンの不調やカビ発生に対する教育・研究環境整備は、継続課題である。

	【薬学科】
	✓ 長崎県内の少子化や近隣の競合校への対抗策として、立地条件の悪さをカバーするため、長崎国際大学に隣接した JR 駅の誘致や通学バスの増便、大学独自のスクールバスの運用などを検討していく。
	✓ 大学附属薬局の設置、配信用インフラの整備、講義室や研究スペースの不足についても、引き続き検討していく。
	✓ 令和 6(2024)年度から改訂される「薬学教育モデルコアカリキュラム」に対応すべく、カリキュラム整備を行い、それに伴う教員採用、施設拡充等を検討していく。
	✓ 令和 5(2025)年度受審の薬学教育認証評価に向けた準備を加速させる必要がある。
	【人間社会学研究科】
	✓ 海外学術交流協定校の教員招聘を促進する教育・研究環境整備として、(仮称)人間社会学研究室を整備することは実現できなかった。次年度は、福祉助手室、観光準備室、院生室など既存の施設の活用を検討する。
	【健康管理学研究科】
	✓ 新規研究機器の導入・老朽化した研究機器・備品の更新は、課題である。
	【薬学研究科】
	✓ 令和 4(2022)年度は入学者 3 人(社会人学生 2 人)であった。地域の医療従事者の高度研究活動のサポート、リカレント教育の点で貢献した。引き続き定員充足を目指して広報活動を進めていく計画である。
	✓ 高度研究設備の更新は、研究活動を活性化する点で大きな課題である。本年度は X 線照射装置が共通機器として設置された。

4) 主要情報

(1) 卒業・修了者数、学位・資格等に関する実績

【学部卒業生数】

学部	学科	令和 4(2022)年度		
		9 月秋季	3 月春季	合計
人間社会学部	国際観光学科	15 人	208 人	223 人
	社会福祉学科	2 人	66 人	68 人
健康管理学部	健康栄養学科	9 人	65 人	74 人
薬学部	薬学科(6 年制)	14 人	72 人	86 人
総計		40 人	411 人	451 人
卒業生数の累計				7,720 人

【大学院修了者数】

研究科	学科	令和 4(2022)年度		
		9 月秋季	3 月春季	合計
人間社会学研究科	観光学専攻(修士課程)	0 人	5 人	5 人
	社会福祉学専攻(修士課程)	0 人	6 人	6 人
	地域マネジメント専攻(博士後期課程)	0 人	1 人	1 人
健康管理学研究科	健康栄養学専攻(修士課程)	0 人	1 人	1 人
薬学研究科	医療薬学専攻(4 年制博士課程)	0 人	0 人	0 人
総計		0 人	13 人	13 人
修了者数の累計				200 人

【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：学士	452 人	春季：412 人、秋季：40 人
学位：修士	12 人	春季：12 人、秋季：0 人
学位：博士	1 人	春季：1 人
社会福祉士	19 人	合格率：51.4%
精神保健福祉士	5 人	合格率：100%
介護福祉士	12 人	合格率：100%
管理栄養士	61 人	合格率：93.8%
薬剤師	64 人	合格率：88.9%
教育職員免許状	22 人	高等学校：9 人

		中学校：8人 栄養教諭：5人
--	--	-------------------

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	4月1日(金)	
入学式	4月2日(土)	新型コロナウイルス対策で新入生と保護者1人、教職員のみで実施
オリエンテーション	4月2日(土) ～4月7日(木)	
ハイスクール茶会		新型コロナウイルス感染拡大のため中止
第3回職域・大学ワクチン追加接種	5月25日(水) ～5月27日(金)	第3回職域・大学ワクチン接種 2月28日(月)～3月8日(火)に実施 接種者数：3,341人
ウクライナ受入学生の科目等履修生入学式	7月5日(火)	ウクライナ避難学生2人と在学生代表者1人、教職員のみで実施
第1回オープンキャンパス	7月24日(日)	
第2回オープンキャンパス	8月7日(日)	
第3回オープンキャンパス	8月21日(日)	
秋季卒業式	9月3日(土)	
秋季入学式	9月16日(金)	
第4回職域・大学ワクチン(オミクロン株対応型)接種	10月18日(火) ～11月5日(土)	接種者数：1,911人
開国祭	10月29日(土) ～10月30日(日)	テーマ「Re'action」 新型コロナウイルス感染症拡大前と同様に2日にかけて実施
春季卒業式	3月11日(土)	新型コロナウイルス対策で卒業生、保護者2人、教職員のみで実施
第4回オープンキャンパス	3月19日(日)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合選抜型Ⅰ期	10月22日(土)	
学校推薦型選抜A日程	11月23日(水)	
総合選抜型Ⅱ期	11月23日(水)	
学校推薦型選抜B日程	12月23日(金)	
大学入学共通テスト	1月14日(土) ～1月15日(日)	本学の大学入学共通テスト利用選抜では独自の学力試験は行わない
一般選抜A日程	2月4日(土)～2月5日(日)	
一般選抜B日程	3月4日(土)	
総合型選抜、大学入学共通テスト利用選抜追加日程	3月18日(土)	

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学部・研究科の総括

項目	総括																																																			
(1) 人間社会学部	【学部全体】 ✓ 国際観光学科は、コロナ禍で激減した外国人留学生の入学者を回復させるために、交流協定校との積極的な交流を促進する。 ✓ 社会福祉学科の新カリキュラム(4 コース制)を機能的に運用して、3 福祉国家試験の合格者を増やすことで定員確保に結びつける。 【国際観光学科】 ✓ 高校生を対象とした授業を 33 講義(高校出張および本学開催を含む)実施し(対令和元(2019)年度 122%、対令和 3(2021)年度 194%)、学生募集に成果があった。 ✓ IR(特定複合観光施設)をはじめとした観光事業、遺跡発掘、博物館の新設、改修などの歴史、文化事業、地域住民の健康をテーマとしたスポーツ振興事業、地域の国際化に向けた多文化共生事業など、幅広い領域において本学科主導による産官学の取り組みが実施された。 ✓ 国際観光研究所のウェブサイトの新設した。教員、学生の研究成果を広報し将来の産官学連携に結びつけるプラットフォーム機能の準備ができた。 ✓ 留学生の就職支援を目的とした 2 つの新科目(令和 5(2023)年度から)の設置を確定した。 ✓ 観光による地域創生を目指し、近隣自治体 2 町(川棚町、東彼杵町)との包括連携協定の締結に貢献した。 ✓ 地域のスポーツ振興のため、NIU キッズチャレンジスポーツを 6 回開催した(子供 73 人、保護者 27 人参加)。また、西海市の部活動指導者派遣事業に応じ学生 2 人の派遣を行った。 ✓ 教員の研究活動としては、学科共同研究費を利用した 11 件の研究が実施された。科学研究費については、新規に 6 件申請し、1 件(180 万円)が採択された。また、自治体などからの助成金 3 件(1,236,250 円)と受託事業 2 件(287,402 円)獲得し、地域社会に貢献する研究を進めた。 <資格等の実績> <table><tr><th>資格等名</th><th>実績</th><th>備考</th></tr><tr><td>国内旅行業務取扱管理者</td><td>10 人</td><td>科目合格 0 人</td></tr><tr><td>総合旅行業務取扱管理者</td><td>3 人</td><td>科目合格 0 人</td></tr><tr><td>学芸員</td><td>24 人</td><td></td></tr><tr><td>公務員</td><td>13 人</td><td>市役所等 5 人、教員 3 人、その他 5 人</td></tr><tr><td>日本語教員養成課程修了者</td><td>3 人</td><td>秋卒 1 人、春卒 1 人、卒業生 1 人</td></tr><tr><td>日本語検定</td><td>3 級認定 7 人、2 級準認定 3 人</td><td></td></tr><tr><td>秘書検定</td><td>2 級合格 11 人、3 級合格 12 人</td><td></td></tr><tr><td>ビジネス文書検定</td><td>3 級合格 2 人</td><td></td></tr><tr><td>公認スポーツ指導者</td><td>13 人</td><td></td></tr><tr><td>健康運動実践指導者</td><td>2 人合格</td><td>受験者 5 人(うち 2 人受験辞退)</td></tr><tr><td>マリンスポーツ(ダイビング)</td><td>0 人</td><td>新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習中止</td></tr><tr><td>TOEIC(500 点以上)</td><td>22 人(このうち 700 点以上が 5 人)</td><td></td></tr><tr><td>教育職員一種免許状</td><td>8 人(実人数)</td><td></td></tr><tr><td>茶道鎮信流初歩伝</td><td>16 人</td><td></td></tr><tr><td>茶道鎮信流初伝</td><td>7 人</td><td></td></tr><tr><td>ホテルビジネス検定</td><td>2 級合格 13 人、1 級合格 2 人</td><td>2 級受験者数 23 人、1 級受験者数 8 人</td></tr></table>	資格等名	実績	備考	国内旅行業務取扱管理者	10 人	科目合格 0 人	総合旅行業務取扱管理者	3 人	科目合格 0 人	学芸員	24 人		公務員	13 人	市役所等 5 人、教員 3 人、その他 5 人	日本語教員養成課程修了者	3 人	秋卒 1 人、春卒 1 人、卒業生 1 人	日本語検定	3 級認定 7 人、2 級準認定 3 人		秘書検定	2 級合格 11 人、3 級合格 12 人		ビジネス文書検定	3 級合格 2 人		公認スポーツ指導者	13 人		健康運動実践指導者	2 人合格	受験者 5 人(うち 2 人受験辞退)	マリンスポーツ(ダイビング)	0 人	新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習中止	TOEIC(500 点以上)	22 人(このうち 700 点以上が 5 人)		教育職員一種免許状	8 人(実人数)		茶道鎮信流初歩伝	16 人		茶道鎮信流初伝	7 人		ホテルビジネス検定	2 級合格 13 人、1 級合格 2 人	2 級受験者数 23 人、1 級受験者数 8 人
資格等名	実績	備考																																																		
国内旅行業務取扱管理者	10 人	科目合格 0 人																																																		
総合旅行業務取扱管理者	3 人	科目合格 0 人																																																		
学芸員	24 人																																																			
公務員	13 人	市役所等 5 人、教員 3 人、その他 5 人																																																		
日本語教員養成課程修了者	3 人	秋卒 1 人、春卒 1 人、卒業生 1 人																																																		
日本語検定	3 級認定 7 人、2 級準認定 3 人																																																			
秘書検定	2 級合格 11 人、3 級合格 12 人																																																			
ビジネス文書検定	3 級合格 2 人																																																			
公認スポーツ指導者	13 人																																																			
健康運動実践指導者	2 人合格	受験者 5 人(うち 2 人受験辞退)																																																		
マリンスポーツ(ダイビング)	0 人	新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習中止																																																		
TOEIC(500 点以上)	22 人(このうち 700 点以上が 5 人)																																																			
教育職員一種免許状	8 人(実人数)																																																			
茶道鎮信流初歩伝	16 人																																																			
茶道鎮信流初伝	7 人																																																			
ホテルビジネス検定	2 級合格 13 人、1 級合格 2 人	2 級受験者数 23 人、1 級受験者数 8 人																																																		

	【社会福祉学科】 ✓ 新カリキュラム導入 3 年目を迎え、新カリキュラムの円滑実施のため、各教員が業務を適切に分担・遂行し、学科運営基盤の構築を図ることができた。新カリキュラムには、実施によって新たな課題も見出されているため、その情報共有を図った。今後、新カリキュラム完成年度を目途として、見直しを行っていく。 ✓ 学科の至上命題の 1 つである定員充足は、あと少しのところであつた。教員個々の取り組みによって改善の兆しがみられているため、今後さらに取り組みを強化していく。 ✓ もう 1 つの至上命題である国家試験合格率向上については、一定の成果は得られたものの、県内・九州内の競合校と比して必ずしも満足できる結果ではなかった。学修プログラムの改善と学生の意識向上を図り、新カリキュラムの特性を生かした着実な学修支援を行っていく。 ✓ 学科教員数が減となる中で、教員個々の業務量が相対的に増加している。業務内容や分担を見直し、効率的かつ教員が研究時間を確保できる勤務体制の構築を図る。 <資格等の実績> <table><tr><th>資格等名</th><th>実績</th><th>備考</th></tr><tr><td>社会福祉士</td><td>合格率 51.9%(37 人中 19 人合格)</td><td></td></tr><tr><td>介護福祉士</td><td>合格率 100%(12 人)</td><td></td></tr><tr><td>精神保健福祉士</td><td>合格率 100%(5 人)</td><td>全員社会福祉士とのダブル合格</td></tr><tr><td>スクールソーシャルワーカー</td><td>3 人</td><td></td></tr><tr><td>生きがい情報士</td><td>35 人 (うち登録者 3 人)</td><td></td></tr><tr><td>福祉心理士</td><td>6 人</td><td></td></tr></table>	資格等名	実績	備考	社会福祉士	合格率 51.9%(37 人中 19 人合格)		介護福祉士	合格率 100%(12 人)		精神保健福祉士	合格率 100%(5 人)	全員社会福祉士とのダブル合格	スクールソーシャルワーカー	3 人		生きがい情報士	35 人 (うち登録者 3 人)		福祉心理士	6 人	
資格等名	実績	備考																				
社会福祉士	合格率 51.9%(37 人中 19 人合格)																					
介護福祉士	合格率 100%(12 人)																					
精神保健福祉士	合格率 100%(5 人)	全員社会福祉士とのダブル合格																				
スクールソーシャルワーカー	3 人																					
生きがい情報士	35 人 (うち登録者 3 人)																					
福祉心理士	6 人																					
(2) 健康管理学部	【健康栄養学科】 ✓ 第 37 回管理栄養士国家試験の本学科の合格率は 93.8%であり、全国の管理栄養士養成課程の合格率を上回る成果が得られた。 ✓ 卒業生を対象にしたリカレント教育として管理栄養士国家試験対策講座を開講し、8 人が受講したが、合格者はいなかった。実施方法について検討を行い、次年度も継続実施の予定である。 ✓ 科学研究費の申請を促し、2 件の研究課題が新規に採択された。 ✓ 定員充足に向けた取組みとして、入試科目及び入試科目数の変更、3 年次編入生指定校特別推薦制度の追加等の入試選抜の見直しを行ったが、改善は認められなかった。 ✓ 学科の催事を開催し、地域貢献や大学・学科の広報に寄与した。 <資格等の実績> <table><tr><th>資格名</th><th>実績</th><th>備考</th></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>61 人</td><td>合格率 93.8%</td></tr><tr><td>栄養士</td><td>65 人</td><td></td></tr><tr><td>栄養教諭免許状一種</td><td>5 人</td><td></td></tr></table>	資格名	実績	備考	管理栄養士	61 人	合格率 93.8%	栄養士	65 人		栄養教諭免許状一種	5 人										
資格名	実績	備考																				
管理栄養士	61 人	合格率 93.8%																				
栄養士	65 人																					
栄養教諭免許状一種	5 人																					
(3) 薬学部	【薬学科】 ✓ 入学定員の確保に努めたが、令和 5(2023)年度は定員確保には至らなかった。定員確保に向けた改善策を入試・募集センターなどと協議している。 ✓ 高校生を対象とした体験実験を通して、薬学部の魅力を紹介し、入試募集活動に努めた。出前講義、薬剤師の職業紹介、施設見学、体験実験など、要望があれば、原則として随時受け入れており、今後も継続する。 ✓ 小中学生を対象とした理科系進学の啓蒙活動を行った。 ✓ 大学入学試験の成績をもとに、苦手科目や未修得科目を精査し、薬学教育支援センターを中心に、添削や指導を行った。 ✓ 基礎学力向上・留年生対策のために、薬学教育支援センター専任教員 1 人の採用を決定した。 ✓ 査読付き学術論文の公表、外部資金獲得、学会発表、共同研究の推進を促し、研究業績は長崎国際大学論叢で公表した。 ✓ 科学研究費の申請を促し、6 件の研究課題が新規に採択された。 ✓ 日本薬学会九州山口支部大会を開催した。																					

	✓ 3年間コロナ禍で中断していた薬学部就職説明会を対面で開催した。 ✓ 就職希望者に対する就職率は100%であり、今後もこの実績を維持する。 <資格等の実績> <table><tr><th>資格名</th><th>実績</th><th>備考</th></tr><tr><td>薬剤師(新卒)</td><td>合格者数 64 人 合格率 88.9%</td><td>薬剤師(新卒)</td></tr><tr><td>共用試験(OSCE)</td><td>合格率 100%</td><td>共用試験(OSCE)</td></tr><tr><td>共用試験(CBT)</td><td>合格率 100%</td><td>共用試験(CBT)</td></tr></table>	資格名	実績	備考	薬剤師(新卒)	合格者数 64 人 合格率 88.9%	薬剤師(新卒)	共用試験(OSCE)	合格率 100%	共用試験(OSCE)	共用試験(CBT)	合格率 100%	共用試験(CBT)
資格名	実績	備考											
薬剤師(新卒)	合格者数 64 人 合格率 88.9%	薬剤師(新卒)											
共用試験(OSCE)	合格率 100%	共用試験(OSCE)											
共用試験(CBT)	合格率 100%	共用試験(CBT)											
(4) 人間社会学研究科	【研究科全体】 ✓ 定員を充足するために積極的に研究指導ができる主指導教員を増やす。 ✓ 英語による授業科目を増やすことで、大学院生の多国籍化を図る。 ✓ 地域の観光事業や社会福祉事業等に従事する社会人の入学を促進させる。 【観光学専攻】 ✓ 長崎国際大学国際観光学会での発表を義務付け、研究力の向上を図った。 ✓ 主指導教員 1 人、副指導教員 2 人の 3 人体制による論文指導を実践し、修士論文の質的向上を図ることができた。 ✓ 包括協定を締結した自治体との協働研究により、地域の大学としての教育・研究活動を推進することができた。 ✓ 教員の研究業績の向上、FD の参加による教育力の向上を図り、科学研究費など外部資金の獲得を目指した。 ✓ 指導教員の偏りがないように教育体制を整え、講義内容の改善とカリキュラムの充実を図ることができた。 【社会福祉学専攻】 ✓ 留学生に対する日本語による論文執筆の指導を通して、グローバルな教育・研究を進めた。今年度 4 人の留学生が修了した。 ✓ IR(特定複合観光施設)に関連付けた個人や社会の発展と、コンフリクト等の研究領域の開拓に関しては、具体的成果はなかった。今後の IR(特定複合観光施設)事業の進展に応じて、関連する研究領域の開拓を推進していく。 ✓ 福祉機関との包括連携協定を軸に、学生と共にフィールドワーク研究を推進することで、地域福祉研究のプラットフォームとなるために、令和 4(2022)年 11 月 15 日(火)に、履修証明プログラム履修者 2 人と院生 1 人参加のもと、社会福祉法人「ながよ光彩会」において、施設見学や職員のレクチャー、住民との交流会を実施した。 ✓ 県内の社会福祉職者のキャリア・アップを目的としたリカレント教育を推進し、現職者のスキルの洗練に取り組んだ。2 人の履修証明プログラムの受講応募があり、修了生 2 人には、令和 5 (2023)年 3 月 30 日(木)に行われた授与式において、学長より履修証明書が授与された。 ✓ 秋の入学試験を通して定員確保に努めた。秋の入学試験に応募した留学生 1 人が入学した。 【地域マネジメント専攻】 ✓ 地域マネジメント専攻の主指導教員になれるのは博士号の学位を有する専攻教員である。近年は、博士学位取得のため国内外の社会人進学者が増加傾向にあるため、定員充足の観点から主指導教員を増やすことが喫緊の課題である。												
(5) 健康管理学研究科	【健康栄養学専攻】 ✓ M マル合教員及び科目担当教員に各 1 人が昇格し、令和 5(2023)年度からの研究指導体制の強化を図った。 ✓ 大学院生の学修支援スキル修得を図るため、ティーチング・アシスタントとして採用した。 ✓ 長崎県や市町と連携し、地域に還元できる共同研究を継続している。												
(6) 薬学研究科	【医療薬学専攻】 ✓ 社会人の入学促進のため、引き続き夜間、土曜日に講義を開講した。その結果本年度は社会人 2 人が新たに入学した。 ✓ グローバル化への対応として、博士号取得研究者として必要な英語能力を修得させる目的で、英語による講義の開講を継続した。 ✓ 学生の博士課程レベルの研究能力の修得・向上のため主研究指導担当教員と 2 人の副研究指導担当教員が責任を持って指導する体制を維持した。 ✓ 秋季に実施する研究進捗状況発表会に全研究科教員が参加して、研究内容や進捗状況を客観的に評価することで、博士論文の質や水準向上に努めた。												

	✓ あらたに最終年次進捗状況発表会を春季に開催することとし、大学院生の学位取得を支援する体制を強化した。
--	---

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 令和4(2022)年度の授業体制については、十分な感染対策を実施したうえで、履修者が150人を超える一部の科目以外は対面による授業を実施した。2度の感染拡大時期(7月下旬から9月上旬、12月上旬から1月下旬)が定期試験期間と重なったが、追再試験試験期間延長等の対策を講じ、各学期内に全ての学生の成績を確定することができた。ただし、7月下旬から9月上旬に予定されていた観光研修やマリンスポーツ等の実習科目の実施を見送った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 理念や3ポリシーを通じた学修目標の具体化	✓ 3ポリシーの具現化を図る為、建学の理念であるホスピタリティの獲得を目指し、教員と学生が定期的に面談を行うことで学生の成長過程の確認・助言・指導等を行い、記録する学修ポートフォリオを活用した。
(2) ポリシーに基づく授業科目・教育課程の編成・実施	✓ ポリシーの点検については教務委員会や各学科会議において教育課程も含め確認を行い、全学教育会議においても外部評価員による点検を実施した。加えて、令和4(2022)年度より、全学教育会議において本学のアセスメント・ポリシーに則り各学科の検証結果を確認し、次年度の教育課程に反映させた。
(3) DPの実質化	✓ シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシーにあるホスピタリティを構成する5つの諸能力に対する達成目標を全ての科目において明記した。 ✓ カリキュラムマップ・ツリーを軸にした教育課程の体系化については、各学科会議および教務委員会において点検した。
(4) ポートフォリオの活用	✓ 学生のポートフォリオ利用率については、ほぼ100%を維持している。新入生に対するオリエンテーションでの説明を徹底し、引き続き各種伝達事項や申請・手段手段としてポートフォリオを活用した。
(5) 学修成果・教育成果の把握・可視化	✓ ルーブリック評価による学生との面談については引き続き毎学期実施し、場合によってはZoom等を活用することで遠隔での指導・助言を行った。 ✓ 学生のホスピタリティ・ルーブリックの入力率が低いことが問題点であったが、教務委員会において入力できていない学生を担当教員別に提示し、各学科において再度指導の徹底を図った。
(6) DP達成状況の評価	✓ 令和4(2022)年度は薬学部において正式に卒業ポートフォリオを作成し、単位修得状況、卒業論文要旨と共に正式に外部評価を実施した。このことにより全ての学科において卒業ポートフォリオ制度が運用され、教育の質保証の一環となった。
(7) 入学前教育	✓ 入学前教育については、各学科から提案された実施内容を、教育基盤センターで協議した。加えて、入学者に対するアンケートを実施し、次年度に向けた内容の改善を行った。
(8) 全学共通教育	✓ 留学生の更なる日本語能力向上を図る目的で、秋入学生及び交換留学生に対する対応を含めた日本語関連科目のレベル分けを細分化し、全学共通科目群のカリキュラムを改革した。 ✓ 初年次教育の基幹科目である「ホスピタリティ概論(1年次必修)」にSDGsに関連する内容を盛り込み、新たに「ホスピタリティとSDGs」を遠隔で実施した。授業内アンケートの結果も検証し、次年度も引き続き同内容で実施する。 ✓ 数理・データサイエンス・AI教育の充実を図る為、1年次必修科目である「コンピュータ基礎演習ⅠA・B」に「情報の取り扱いに係る法規・倫理」および「外部団体の実データを活用し、加工や解析から推論を立て、その結果を他者に共有・伝達するプロセス」を新たに盛り込んだ。各授業の修了後、教務委員会において内容を検証した結果、次年度も引き続き同様の内容で実施する。
(9) キャリア教育	✓ 全学共通科目である「ホスピタリティとSDGs」においてキャリア教育への動機づけを教職協働で行い、「学際連携研究」「地域の理解と連携」「在宅医療概論」で他分野・他職種との連携を学んでいる。 ✓ 人間社会学部では「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ(必修)」において、キャリアセンターと協働でキャリアデザインの意義と重要性を理解させている。学外実習が必修となっている健康管理学部及び薬学部においては、「学外実習」に加え、その事前事後指導においてキャリア教育を実施している。
(10) リカレント教育および社会人学生の支援	✓ 大学院における「履修証明プログラム」において、遠隔授業も含め昼夜開講制や集中講義で実施することで、2人がプログラムを修了した。

(11) 語学含めグローバル化への対応	✓ 約半年間の長期海外留学を再開し、国際観光学科の学生 40 人が参加し、無事に終了することができた。 ✓ 約 1 か月間の短期海外留学については、前年同様 ICT 機器を活用し海外大学と連携した遠隔によるプログラムを実施し、23 人(国際観光学科 22 人、薬学科 1 人)が参加した。
(12) 外国人留学生への日本語教育	✓ 入学した留学生全てに日本語プレースメントテストを実施し、適正なレベル分けを行ったうえで授業を実施した。 ✓ 日本語能力が充分でない学生に対しては、SA を積極的に採用し、授業内での支援を充実させた。
(13) 教育・学修・履修・支援の制度・体制の整備	✓ 学生の時間外活動を支えるラーニング・コモンズについて、新型コロナウイルスの影響により年間を通じて閉鎖した。
(14) Society5.0 への対応	✓ 全学共通科目である「ダイバーシティとグローバル市民論」の履修者は若干増加したが、「ビッグデータ」がカリキュラム変更の為、1 単位となったことで履修者が減少する結果となった。
(15) 統合型リゾートへの対応教育	✓ 国際観光学科の専門科目である「MICE 論」及び「MICE 研修」を開講し、MICE の意義や課題等について実質的及び実践的な知識を学生に身に付けさせた。 ✓ IR(特定複合観光施設)誘致に向けた九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会において、本学の国際観光学科が中心となって県立大、事業者及び長崎県、佐世保市と共に、リカレント教育を含めたプログラム策定を行っている。
(16) 安全・安心教育の推進	✓ CH サポートセンターが実施している健康チェック及び SOS メールへの対応を受け、体調の悪い学生の早期発見を行い、新型コロナウイルスへの感染若しくは疑いのある学生に対しては、授業の公欠を認めるなど、学生の心身と健康を守り、学内における教育環境の安全確保に努めた。
(17) QSP の教育活動関係の取組	✓ 共同開発したプログラム学習等の授業科目を本学、長崎総合科学大学、活水女子大学で共同活用している。 ✓ QSP 参画校で人材バンクを構築し、毎年度初めの人事異動に合わせリストを更新、来年度は、新中期計画、新体制(3 つのプロジェクト、9 つの WG)のスタートに伴い、改めて教職員の登録を募集する。 ✓ 「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(JST 採択事業)を、幹事校佐賀大学及び西九州大学、佐世保工業高等専門学校の 4 校で令和 4(2022)年度から推進。4 校合同実験体験会、壱岐市立石田中学校での出張講義、九州文化学園小中学校での実験体験会、先端技術企業(ハウステンボス環境設備)の見学などを実施。

(3) 学部等の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 新たな教育・研究組織の将来展開等については、社会情勢や経営環境を踏まえながら検討を進めた。 ✓ 定員については、令和 3(2021)年度までは大学全体で充足していた状況であるが、令和 4(2022)年度においては充足率が 97.8%となった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 組織改組	✓ 令和 4(2022)年度は、社会のニーズを勘案した学部の増設等について、関係機関と引き続き検討を進めたが、具体的な申請等の段階には至っていない。

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ 各学部・学科・研究科・専攻に加え、産学連携・研究支援センター、研究センター、および研究関係の各種委員会の連携・協力のもと、計画的・効率的な研究活動の推進に向け協力できる体制を目指すとし、その中では達成できた目標もあったが、各部門間の組織的な連携はできなかった。原因としては、各分野の専門性による相互理解の難しさに加え、研究者側、事務局側の双方で日常業務に多忙を極めるため、十分な相互のコミュニケーションが不足していることが挙げられる。そのため、この対策として、あらためて全学的な状況把握が可能である事務局側が、主導的に各組織体間の連携を妨げている課題を抽出、整理した上で、個々に対応、調整して各部署へ具体案を提示し、目指すべき方向を共有できるようにしていくこととしたい。そのうち、全学的にこれらの目標を共有して、相互理解のもと協力できる体制を目指す。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 全般的事項	✓ 各学部・学科・研究科・専攻に加え、産学連携・研究支援センターや研究センター、及び研究関係の各種委員会がそれぞれ連携・協力して、計画的・効率的な研究活動が

	実施できるようにするため、課題情報を共有できる体制を目指す。 ✓ 一年間に発表された学術論文の国際共著率を向上させる。 ✓ 複数の課題を設定したが、一部達成したものもあるが、全般的な評価としては、目標を達成できていないものが多い。
(2) 研究成果の発信と公開による社会貢献	✓ 研究シーズ集の大学ホームページでの公開、及び同シーズ集の地域の事業所への配布の実施等を通じて、本学の知財情報を公開するとしていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、対外的な情報発信が不足していた。ただ、委託事業として4件の佐世保市との連携に実績を上げることができた。その中には新年度の契約につながる成果が出たものもある。引き続き、これらの連携事業を支援していく。
(3) 知財・特許の獲得・活用促進	✓ 保有する知財・特許の利活用と社会実装の推進のため、研究シーズのオープン化を進めて産業界との共同・委託研究の増加を図ることとしていたが、締結実績は例年とほぼ同程度の共同研究契約実績となった。 ✓ 実用化や潜在的価値を有する発明の特許申請を促す。一方で、既存の特許は、知財としての価値を再度確認・点検し、維持費負担の軽減も検討するとしていたが、職務発明については、極力、出願を促した結果、本年は4件の特許出願をおこなうことができた。また、維持費軽減のため、10年を超える特許について、その放棄の検討を発明者と協議した結果、4件の放棄を委員会で審議、承認した。今後も職務発明の届け出は積極的に知財化を進めていくが、維持経費の節減のため、実施許諾が難しいと見込まれる特許に関しては、放棄を進めていく。
(4) 適切な研究活動の促進	✓ 研究機関として研究費獲得に向けた説明会・勉強会を積極的に開催する他、研究倫理、研究費不正使用防止、安全保障貿易等の研修などを計画・実施して、個々の研究者の適正な研究活動を啓発するとしていたが、各種研修会は計画通りに実施することができた。また、受講率についてもすべての研修で90%以上を達成することができた。次年度は利益相反マネジメント研修に代えて、安全保障貿易管理の研修をおこなう。また、研究倫理研修に関しては学外からの研修受講実績の問い合わせに対応できるように、JSPSが運用する倫理教材による研修をおこない、修了証を発行できるようにする。実施中の各種研修の効果は十分に浸透していると考えられるが、次年度からはさらなる深化を目指して、外部の専門業者から派遣された講師による研修を検討する。
(5) 研究環境の整備・改善	✓ 魅力ある研究シーズの創出のため、獲得した間接経費の活用による研究施設・設備の整備を学内で公募しこれらの推進を進めるほか、研究・発明・ベンチャーなどへの支援制度の充実・周知、若手・女性研究者、ポスドクなどに対する適切な研究環境の提供等の支援を推進するとしていたが、十分な間接経費の活用できる体制整備ができなかった。原因としては、間接経費の活用に関する内部の意識改革の不足があった。今後、研究力の向上が教育力の向上に結び付いている旨、啓発を進めて、特定の学部をリストアップして積極的な研究環境の支援を検討する。
(6) その他	✓ 前年度に引き続いて、研究実績や産学連携・特許取得等の実績を昇任人事等に適切に反映し、産学連携に関する研究者のモチベーション向上を促進するとしていたが、その実績の評価ができなかった。今後もこの分野の実績が研究者の評価につながるよう、学内の啓発を進めていく。

《科学研究費 新規申請・採択状況》

学科名	科学研究費			備考
	申請	採択	金額	
国際観光学科	6	2	3,250,000	金額は令和4(2022)年度の交付額を示す。
社会福祉学科	1	0	0	
健康栄養学科	10	2	1,950,000	
薬学科	25	6	20,150,000	
合計	42	10	25,350,000	

《研究外部資金の獲得状況》

学科名	科学研究費			受託事業		その他		合計	
	代表	分担	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際観光学科	4	3	5,525,000	2	297,000	4	1,636,250	13	7,458,250
社会福祉学科	2	3	4,113,750	2	1,700,000	1	300,000	10	6,113,750
健康栄養学科	4	0	4,810,000	1	1,040,000	0	0	5	5,850,000
薬学科	19	11	69,127,000	12	16,004,000	5	2,200,000	47	87,331,000

合計	31	17	83,575,750	17	19,041,000	11	4,136,250	75	106,753,000
----	----	----	------------	----	------------	----	-----------	----	-------------

備考：科研費は直接経費・間接経費を含む。その他は研究支援の特別寄付、および知財収入等。

(5) 学生支援活動

取組の総括	
✓ 【学生課】学生間および学生・教職員間そして保護者とのコミュニケーションを円滑にする各事業において、コロナ禍で実施してきたことを経験値として積み上げ、従前のプランに改善・改良を加えながら実施することができた。 ✓ 【キャリアセンター】卒業時に卒業生全員が自立的に進路を決定できるように各種支援策を積極的に展開し、学生が自発的に参加できる環境を整備した。また、キャリアセンターオンラインをはじめ ICT を活用した支援を充実させるとともに、個別面談スキルの向上を図った。その結果当初の目標を上回り卒業生に対する就職率 85%以上を達成することができた。 ✓ 【スポーツ支援・振興室】本室においては、「学修支援・競技力向上支援・地域スポーツ振興活動支援」の 3 つの柱でスポーツ系学生の支援をすることを目的として、UNIVAS や長崎県・佐世保市から情報を得ながら、スポーツサポートセンター及び強化指定部指導者との連携により進めている。 ✓ 【キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター】学生や教職員が新型コロナウイルス感染症の感染に不安を持たないよう、NIU 利休庵診療所や NIU 疾患検査センターと連携した感染防止体制を整え、細心の注意を払い、感染状況に合わせて対応を変更しながら、CH サポートセンター3 室(保健室・学生相談室・学生生活サポート室)で計画した事業を達成することが出来た。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学長 café	✓ 3 回実施(7/6、11/9、2/1)学生間の交流イベントの実施、LaLa コープとのコラボ企画、5 号館廊下・天井カビ対策、TOEIC 対策参考書最新版などが今年度の実績。学生からのリクエストに対し、「予算の問題で対応が難しい」との回答が増えていることが課題。
(2) 開国祭	✓ 2 日間実施(10 月 29 日、30 日)飲食模擬店、音楽ライブ、トークショー、協賛活動を再開、感染症対策で飲食は学食内に限定、総来場者約 2,700 人、クラスター発生なし。開国祭実行委員会メンバーが少なく各所に影響があったため、メンバーの募集活動が課題。
(3) 卒業パーティ	✓ 感染症対策により従前のハウステンボスではなく学内中庭で実施、開催時間も 1 時間程度。食事はランチボックスを 600 食準備。ノンアルコールでお茶等をペットボトルで配布。卒業生、保護者、教職員で約 600 人が参加。来年度以降は学外会場に戻す予定としている。
(4) スポーツ系学生学修支援プログラム及び強化指定部ガイダンス	✓ 強化指定部 9 競技 13 団体における部員の単位所得状況を調査し、スポーツサポートセンターにおいて単位不足者(30 人)に対し、毎週月・火 8:20～8:50 まで指導を行っている。また 1/18(水)「強化指定部ガイダンス」を実施した。参加者：272 人(指導者、4 年生以外の部員)
(5) 【課外活動】新興ウィルス感染症等における課外活動方針	✓ 学生課、CH サポート室、スポーツ支援・振興室にて、昨今のコロナ禍における本学の「課外活動：新興ウィルス感染症等における課外活動方針」を策定。
(6) 新型コロナウイルス感染対策	✓ 感染拡大防止策の一つとして毎日実施する「健康チェック(全学生および全教職員対象)」と「NIU 利休庵診療所」「NIU 疾患検査センター」との連携により、有症状者には個別に状態を確認した後の受診や迅速な PCR 検査を行い、感染の早期発見とクラスター発生の抑止が出来た。
(7) 学生定期健康診断	✓ 平成 24(2012)年度から継続した 100%の受診率を維持できた(休学者除く)。
(8) 修学上の配慮(合理的配慮の提供)	✓ 「修学上の配慮」の適切な手続きや情報共有を正確に教職員へ伝達し、学部・学科と連携して支援することの啓発を行った。 ✓ 学内外における合理的配慮の提供に関しては、教職員全員を対象とした FD/SD を実施し、対象学生の修学上の配慮情報(学内ネットワークシステムを活用、随時情報更新)の確認と守秘に関することを周知した。 ✓ 合理的配慮の内容検討会議の開催方法にメール検討会議を取り入れ、スピーディーに合理的配慮を提供できるよう改善した。
(9) 障がい学生の就労支援体制の整備	✓ キャリアセンターと連携し、外部の就労移行支援機関(南高愛隣会)と包括協定を結び、障がい学生支援のプラットフォーム事業を立ち上げて産学連携の取組を開始し、長崎国際大学モデルの構想を思案中であり、今後も継続していく。
(10) ピア・サポート体制	✓ NIU ピア・サポート学生組織は、学長裁量経費で採択された「NIU ピア・サポート

	活動によるSDGsの実現Ⅱー目標4・10の実現ー」として、昨年度の活動に連動した自主性をもった積極的な活動が出来た。
(11) 学生の就職支援・進学支援	✓ キャリアコンサルタントの国家資格をさらに2人が取得。NIUキャリアセンターオンラインを学生に定着させた。また、ICTを活用したエクステンション講座の受講者数も伸長している。
(12) 求人企業・職場の開拓、インターンシップの推進等	✓ 新型コロナウイルスはやや終息に向かったものの行動規制等は継続し、職場開拓やインターンシップは本年度も自粛した。
(13) 留学生の就職支援	✓ 留学生向けガイダンスの充実、グローバル検定の受験促進、および担当教員と連動した個別面談・指導を強化した結果、過去最高の国内就職率を達成した。
(14) 支援の必要な学生の就職・進学支援	✓ 本年度も学生からのニーズに応じて個別相談、面接練習、履歴書添削まで対応。また、協定に基づき南高愛隣会と支援の必要な学生の就学支援、就業支援の在り方等について協議しある程度具体的な支援スケジュール等の骨子を固めるところまで進捗させた。

《進路決定状況》(令和5(2023)年5月1日現在)

《進路決定に関する概況》
✓ 令和5(2023)年卒の大卒求人倍率は1.58倍。令和4(2022)年卒の1.50倍から0.08ポイント上昇し、新卒採用意欲は回復傾向にある。ただ、地政学的リスクの上昇や原材料高による景況感の不透明さから、中小企業における採用予定数が伸び悩んだ。またコロナ禍の影響により、外国人留学生の採用意欲も低下傾向にある。そのような環境の中、本学では本年度初めて目標値であった卒業生に対する就職率85%以上を達成することができた。大きな要因として、留学生の日本での就職率の増加と、薬学科の国家試験合格率の上昇が挙げられる。また、就職希望者に対する就職率は96.2%と高い数値で推移しており好調である。

＜令和4(2022)年度卒業生＞(令和4(2022)年9月・令和5(2023)年3月卒業生合計)

学科名		卒業者数	就職 希望者数	就職者数	進学者数	就職率	
						対卒業生	対希望者
国際観光学科	日本人	176	159	153	2	87.9%	96.2%
	留学生	47	30	28	4	65.1%	93.3%
社会福祉学科		68	65	59	1	88.1%	90.8%
健康栄養学科		74	71	69	1	94.5%	97.2%
薬学科		86	75	75	0	87.2%	100%
計		451	400	384	8	86.7%	96.0%

＜令和4(2022)年9月卒業生＞

学科名		卒業者数	就職 希望者数	就職者数	進学者数	就職率	
						対卒業生	対希望者
国際観光学科	日本人	1	1	0	0	0%	0%
	留学生	14	5	5	1	38.5%	100%
社会福祉学科		2	2	2	0	100%	100%
健康栄養学科		9	8	7	0	77.8%	87.5%
薬学科		14	9	9	0	64.3%	100%
計		40	25	23	1	59.0%	92.0%

＜令和5(2023)年3月卒業生＞

学科名		卒業者数	就職 希望者数	就職者数	進学者数	就職率	
						対卒業生	対希望者
国際観光学科	日本人	175	158	153	2	88.4%	96.8%
	留学生	33	25	23	3	76.7%	92.0%
社会福祉学科		66	63	57	1	87.7%	90.5%
健康栄養学科		65	63	62	1	96.9%	98.4%
薬学科		72	66	66	0	91.7%	100%
計		411	375	361	7	89.4%	96.3%

《奨学金の推移》

区分		令和3年(2021)年度	令和4(2022)年度	前年度比較
奨学金		501,598	479,134	△22,464
構成比率	学生生徒等納付金収入比	17.8%	17.6%	△0.2%
	経常収入比	12.8%	13.1%	+0.3%

	経常支出比	14.5%	13.7%	△0.8%
--	-------	-------	-------	-------

《制度別減免奨学費実績》令和5(2023)年3月31日時点(休学者含む)

制度	人数	積算額		
		入学金	授業料	合計
特待生制度	448	3,075,000	20,077,500	23,152,500
九文減免	37	1,750,000	2,637,000	4,387,000
九文特待	45	1,750,000	22,440,000	24,190,000
九文一般	2	250,000	0	250,000
特別奨学生	9	0	5,525,000	5,525,000
英語資格特待	46	0	19,500,000	19,500,000
災害救助法適用地域減免	1	0	650,000	650,000
私費外国人留学生授業料減免制度	149	0	30,420,000	30,420,000
外国人留学生(入学金減免)	22	5,125,000	0	5,125,000
長崎短期大学 (入学金免除・留学生を含む)	5	1,250,000	0	1,250,000
長崎短期大学減免	7	500,000	467,000	967,000
合計	771	13,700,000	101,716,500	115,416,500

《制度別給付奨学金実績》

制度	人数	積算額		
		入学金	授業料	合計
兄弟姉妹在籍奨学金制度	16	0	1,429,000	1,429,000
同窓会特別奨励金	20	0	2,000,000	2,000,000
合計	36	0	3,429,000	3,429,000

《クラブ・サークル等、団体の主な成績》

クラブ・サークル等	大会・イベント名	成績・特記事項
男子バレーボール部	①春季1部リーグ ②全日本バレーボール大学男子選手権大会 ③西日本バレーボール大学選手権大会 ④UNIVAS AWARDS 2022-23 「マイナビ賞：人材育成に関する優秀取組賞」	①2位 ②ベスト16 ③ベスト16 ④入賞
女子バレーボール部	①秋季1部リーグ ②全日本バレーボール大学女子選手権大会 ③西日本バレーボール大学選手権大会 ④長崎県・長崎県スポーツ協会	①2位 ②ベスト16 ③ベスト32 ③国体強化指定クラブ
男子テニス部	①全日本学生テニス選手権 ②1部リーグ ③長崎県・長崎県スポーツ協会 ④UNIVAS AWARDS 2022-23 「マイナビ賞：人材育成に関する優秀取組賞」	①単1人、複1組出場 ②3位 ③国体強化指定クラブ ③入賞
女子テニス部	①全日本学生テニス選手権 ②1部リーグ ③長崎県・長崎県スポーツ協会 ④UNIVAS AWARDS 2022-23 「マイナビ賞：人材育成に関する優秀取組賞」、「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」	①単1人出場 ②4位 ③国体強化指定クラブ ④入賞
駅伝部	①全日本大学駅伝対校選手権大会九州地区選考会	①7位
ゴルフ部	①九州学生・女子学生ゴルフ選手権 ②九州学生ゴルフ連盟春季・秋季リーグ(女子)	①優勝・2人、2位：3人 ②春季2位、秋季優勝
野球部	九州地区大学野球選手権北部九州ブロック大会1部リーグ	4位
男子・女子空手道部	①全九州大学空手道部選手権大会 ②全日本大学空手道選手権大会 ③全日本学生空手道選手権大会	①男子団体組手1部：2位 女子団体組手1部：3位 女子団体形：優勝 ②女子団体組手2回戦進出 ③個人組手1人

アーチェリー部	①九州学生アーチェリー男子・女子王座決定戦 ②全日本学生アーチェリー個人選手権大会 ③全日本学生アーチェリー男子・女子王座決定戦 ④長崎県、長崎県スポーツ協会	①男子・女子：優勝 ②リカーブ女子4位 ③男子9位、女子3位 ④国体強化指定クラブ
サッカー部	①長崎県大学秋季サッカーリーグ	①2位

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 令和2(2020)年度に策定した「国際化ビジョン」にある6つの目標を達成すべく、国際交流事業、外国人留学生支援事業、共修事業等の各種取組を実施した。新型コロナウイルス感染症により、未入国となっていた学生64人の入国がなかった。後期より外国人留学生と日本人学生の共修事業を再開し、多くの学生の参加を得た。 ✓ コロナ禍により中止となっていた派遣交換留学が本格的に再開し、40人が協定大学に留学した。一方で短期留学については、夏季・春季ともに円安によるプログラム費用高騰と感染症の懸念により対面での実施は見送り、バーチャル(オンライン)短期留学を実施した。 ✓ 外国人留学生募集活動は、コロナ禍により現地での募集広報活動や入試が出来ないため、オンラインによるガイダンスや現地入試を実施しながら志願者増を図ったが、秋季入学を含めた入学者は1年次生12人(前年度32人)、3年次編入学生28人(前年度29人)と前年度に続き減少した。令和5(2023)年度はミャンマーやスリランカ、ネパールといった国からの留学生を積極的に受け入れたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 海外大学等との連携事業	✓ 中国福建技術師範学院日本文化研究センター顧問に委嘱された木村勝彦副学長の委嘱式と顧問就任を記念しての学術講演会が6月10日(金)オンラインにて開催された。 ✓ また、令和4(2022)年度は長崎県と福建省との友好県省締結40周年であったため、9月29日(木)安東由喜雄学長が長崎県庁で開催された福建技術学院とのオンライン調印式に出席した。
(2) 海外への学生派遣事業	✓ 派遣交換留学が再開し40人が海外協定大学に秋季より留学した。短期留学は円安によるプログラム費用高騰等の理由でバーチャル(オンライン)短期留学として実施し、24人が参加した。
(3) 地域のグローバル化推進事業	✓ 佐世保地域留学生支援交流推進協議会事務局として、スポーツ交流やモニターツアーを実施した。また、戦火により学びの機会が奪われることがないよう、クラウドファンディングによりウクライナ避難民への支援金を募ったところ、学内外から多くの寄付金が寄せられたため、ウクライナ避難民4人を科目等履修生として受け入れた。彼らが地域社会にコミットするため、多くの行事に参加させるようにした。大学祭では、ウクライナの伝統料理であるピロシキを販売し、好評を博した。加えて地域のパン屋と共同開発によりウクライナ風ピロシキ商品化するなどし、避難民が地域社会に定着するための支援活動を行った。
(4) 留学生の在籍管理	✓ 前期に担当教員が実施する留学生の在籍管理・アルバイト状況調査面談は、ポートフォリオを通じて行った。後期は職員がオンラインにて面談を行った。 ✓ 欠席が続いた留学生については、教職員が連携をとり、早期に自宅訪問するなど強化体制が構築されていることは評価できる。
(5) 共修事業	✓ 以下の交流事業を実施した。学外講座(37人)、日本語弁論大会および異文化トーク(16人)、長崎サンセットロード清掃活動ボランティア(20人)、第1回グローバルトーク(15人) 第2回グローバルトーク(24人) ※()は、参加学生数

《海外大学との協定締結状況》

地域	令和4(2022)年度新規締結		全体合計	
アジア圏	2ヶ国・地域	5校	6ヶ国・地域	68校
欧米圏	0ヶ国・地域	0校	6ヶ国・地域	19校
合計	2ヶ国・地域	5校	12ヶ国・地域	87校

《協定締結の実績》

学校名	学校種	国・地域	協定の概要
福建技術師範学院	大学	中国	連携協力に関する覚書
新郷工程学院	大学	中国	国際教育協力に関する覚書
西安文理学院	大学	中国	協力協定に関する基本協定
商洛学院	大学	中国	基本協定・学生の交流に関する覚書
釜慶大学校	大学	韓国	交流協定に関する覚書 交換留学に関する協定書

《海外派遣・受入の実績》

区分		人数	備考
派遣	長期派遣交換留学	40 人	カナダ 17 人、アメリカ 11 人、イギリス 9 人、フランス 1 人、オランダ 1 人、韓国 1 人
	短期留学	24 人	カリフォルニア州立大学サンマルコス校のバーチャル(オンライン)短期留学に参加
受入	交換留学生	16 人	中国 6 人、台湾 2 人、韓国 2 人、フランス 2 人、ポーランド 1 人、イギリス 1 人、オランダ 1 人、カナダ 1 人
	科目等履修生	9 人	香港 5 人、ウクライナ 4 人

(7) 学生募集・広報活動

＜学生募集・入試関係＞

取組の総括	
✓ 令和 5(2023)年度春季は、465 人(令和 4(2022)年度比△4 人)の入学者で、春季入学定員比 90.3%、1 年次入学定員比 94.9%となり、定員充足には至らなかった。学科別の 1 年次入学定員比は、国際観光学科 113.8%(前年 102.6%)、社会福祉学科 93.3%(前年 75.0%)、健康栄養学科 63.8%(前年 92.5%)、薬学科 85.8%(前年 85.8%)であり、国際観光学科は前年比+22 人、社会福祉学科は前年比+11 人と増加した一方で、健康栄養学科が前年比△23 人と大幅に減少した。薬学科では 3 月末の国立をはじめとした他大学の追加合格発表後に入学手続き者の入学辞退が相次ぎ前年同数の結果となった。本学への志望順位度を高めるために広報手段の拡充など対策を講じて次年度は定員充足を目指す。 ✓ 令和 2(2020)年度から続いている新型コロナウイルス感染症拡大による募集環境悪化により、オープンキャンパスの規模縮小、進学ガイダンスの中止、高校訪問数の減少等の影響がある。進学ガイダンスでの高校生との接触数は、令和元(2019)年度 2,935 人、令和 2(2020)年度 1,306 人、令和 3(2021)年度 2,052 人、令和 4(2022)年度は 2,588 人と回復傾向にあるが、令和元(2019)年度の平常時には及ばない。このうち高校 3 年生は令和元(2019)年度 1,488 人、令和 2(2020)年度 703 人、令和 3(2021)年度 539 人、令和 4(2022)年度 678 人であった。この接触機会の損失は次年度の学生募集にも影響を及ぼすことになるため、可能な限り進学ガイダンス参加、出張講義の受諾、高校訪問を行い、高校生や教員との接触機会増を図っていく。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) アドミッション・ポリシーの対応	✓ 令和 3(2021)年度からの入試改革に伴い、改革内容と現アドミッション・ポリシーとの整合性の確認を行っている。本年一部改訂し、令和 6(2024)年度の入学者受け入れ方針とした。今後も必要に応じて変更内容を検討し、見直し後の検証を入試・募集委員会で行う。
(2) 定員管理	✓ 入学定員と入学者数は下記の《学生募集の計画と実績》の通りである。全学部 1 年生、編入学生、大学院の入学定員充足による安定した収容定員の維持を目指しての学生募集活動であったが、入学定員充足に至らなかった。
(3) 学部学生の募集	✓ 進学説明会については、前年度が新型コロナウイルス感染症の拡大により中止が相次ぎ高校内 120 件、会場 126 件の参加に留まったが、過去に実施した高校内説明会、会場説明会の状況について検証し、継続・不参加・新規参加するものを編成し、令和 4(2022)年度は高校内 150 件、会場 150 件を予算内で実施する計画であったが、高校内 142 件、会場 121 件の参加に留まるも令和 3(2021)年度からは 17 件回復した。次年度も計画的かつ積極的に参画することとしたい。 ✓ 高校訪問については、志願者入学者実績をベースに、訪問校リストを再編し、年 1～4 回の訪問校を設定した。令和 3(2021)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問不可や玄関先での対応となり 151 校 198 回であったが、令和 4(2022)年度は 343 校 496 回の実績。次年度は更なる情報伝達・収集を行い志願者獲得につなげたい。
(4) 外国人留学生の募集	✓ 国際交流・留学生支援センターを中心として、国内・海外における計画的な募集活動を実施している。人間社会学部の 1 年次は、海外学校からの進学者が前年から増加し 20 人(前年度 8 人)の入学。3 年次編入学生については 9 人(前年 16 人)が入学。また薬学部の 1 年次では韓国からの志願者が減少していることもあり、令和元(2019)年度の 17 人をピークに、令和 5(2023)年度は 3 人の入学者であった。今後は新型コロナウイルス感染症の影響が減少することで、秋季入学をはじめとして次年度の入学者増加を図りたい。
(5) 社会人学生の募集	✓ 社会人学生の募集としてはホームページやパンフレットで案内し、特別選抜区分の中で社会人入試を 11 月と 12 月に設定。5 人の志願者(前年 0 人)があり 3 人入学(社

	会福祉2人、薬1人)。
(6) 大学院生の募集	✓ 大学院生募集については、学部在学生を中心に各研究科長・専攻長が責任を持って定員確保に向けて取り組んでいる。令和5(2023)年春季入学者5人(前年11人)。外国人留学生については、4人(前年5人)の入学者であった。
(7) 高校との連携・協力	✓ 高校から依頼される出張講義に可能な限り参加することとし、58件受諾し53件実施(5件中止)した。学科別では、国際観光学科22件、社会福祉学科4件、健康栄養学科13件、薬学科14件。また、九州文化学園高校からの入学者は36人(前年30人)と増加したが、健康栄養学科が前年の11人から2人と減少し学科定員確保に影響した。引き続き次年度も情報交換や説明会により学園内部進学者の安定的な入学を図っていく。
(8) 他大学等と連携した学生募集・入試	✓ 他大学等の連携した学生募集として、QSPで企画した入学者選抜試験「地域創生支援リーダー育成入試」を長崎外国語大学・鎮西学院大学と共同実施した。令和3(2021)年度入試からスタートし、3年目となった令和5(2023)年度入試も、3大学協働で入試要項の作成、高校訪問、長崎新聞広告(12/18)を展開し志願者を募った。令和5(2023)年度の応募者は本学のみ7人、共同入試合格者1人、一般合格者6人だったが、共同入試合格者含め4人が入学辞退。共同入試入学者は3年連続でゼロとなった。次年度以降は、他大学に参加の再検討を働きかけ、少子化が進む長崎県における地域創生の担い手のさらなる募集に努める。
(9) 既存入試制度の実施・改善	✓ 既存入試制度のうち、健康栄養学科の一般選抜の学力検査において、受験者増加を図るために、理科の範囲を「生物基礎」「化学基礎」に留めて、かつA日程を2科目受験に変更し実施した。また、薬学部の総合型選抜I期日程を10月に早めて他学部と同日として早期獲得を図った。結果としては、健康栄養学科は受験者増に至らず、薬学科総合型の受験者は前年から9人増の12人となった。その他の入試区分においては実施に向け順次準備を整え実施した。
(10) 新テストへの対応	✓ 令和3(2021)年度入試より導入された「大学入学共通テスト」については、これまで遺漏なく実施しており、本年も新型コロナウイルス感染症対応のガイドラインを踏まえた上で本学会場463人の試験を円滑に実施した。
(11) 入学制度の妥当性検証	✓ アドミッション・オフィサーを中心とし、入学制度の妥当性を検証するため、在学生の入試区分別・GPA追跡調査を実施し、入試募集委員会を中心に検証を行い、次年度以降も継続して実施する。
(12) スポーツ支援・振興室及び強化指定部指導者	✓ スポーツ支援・振興室及び強化指定部指導者を中心に強化指定部9競技13団体の学生募集について強化した。実績としては、スポーツ系学生募集関係で、125人の入学・入部に繋がった。
(13) その他	✓ オープンキャンパスにおいては、7月・8月に計3回実施し795組1,314人の実績。昨年の782組1,248人からは微増。コロナ禍前の令和元(2019)年の1,128組1,794人には至らないが、新型コロナウイルスの影響等のキャンセルを考慮すれば参加希望者数は改善傾向にある。3月開催においては、高校生194人と94人の同伴参加があり、コロナ禍以前の平成31(2019)年3月の高校生数197とほぼ同数であった。これはコロナ禍における行動制限による対面での情報収集機会が減少したことも要因になっていると推測できる。また、進路選択活動の早期化により高校1・2年生参加者が増加しており、参加後から次年度のフォローにも重点を置いて対応していく。 ✓ 令和5(2023)年度入学者選抜においても昨年同様に、文部科学省の新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドラインに則り、試験場の衛生管理体制等の構築、および受験生に対する要請事項を取りまとめて、遺漏なく準備し円滑に実施した。 ✓ 感染症等の影響による対応として、総合型選抜・大学入学共通テスト利用入試において3月下旬に追加日程入試を設定するとともに、既設の入試当日に受験できなかった者は別日程への振替を可能とした。また地方試験会場においては、試験監督者の一部を現地業者へ外部委託し、一般選抜、推薦型選抜A日程を試験本部とオンラインを活用した取組みにて実施した。

《学生募集の計画値と実績》

項目	令和5(2023)年度入試		令和4(2022)年度入試実績	前年度比較
	計画設定値	実績(春季)		
留学生入学者の目標人数(編入学生含む)	70人	32人	26人	+6人
入学者数	530人	465人	469人	△4人

入学者数	学部	国際観光学科	入学者数	200 人	222 人	200 人	+22 人
			編入学者数	30 人	14 人	21 人	△7 人
		社会福祉学科	入学者数	60 人	56 人	45 人	+11 人
			編入学者数	0 人	1 人	5 人	△4 人
		健康栄養学科	入学者数	80 人	51 人	74 人	△23 人
			編入学者数	10 人	5 人	3 人	+2 人
	大学院	薬学科	入学者数	120 人	103 人	103 人	±0 人
			編入学者数	0 人	4 人	2 人	+2 人
		計		500 人	456 人	453 人	+3 人
		観光学専攻		10 人	3 人	7 人	△4 人
		社会福祉学専攻		10 人	1 人	2 人	△1 人
		地域マネジメント専攻		3 人	2 人	1 人	+1 人
	大学院	健康栄養学専攻		4 人	1 人	3 人	△2 人
		医療薬学専攻		3 人	2 人	3 人	△1 人
		計		30 人	9 人	16 人	△7 人

＜広報関係＞

取組の総括	
✓ 令和 3(2021)年度と比較し、ニュースリリース件数は 8 件減少し 27 件であった。要因として、令和 3(2021)年度は新型コロナウイルスワクチン接種に関するリリースが多かったことが挙げられる。新聞掲載・テレビ報道は令和 3(2021)年度よりわずかながら増加し、本学への取組について外部に周知がなされた。ウクライナ学生を令和 4(2022)年 6 月より受け入れたことで、その内容に関する報道が大きくなされた。また、日常が戻りつつある中で、新型コロナウイルス感染症やウクライナ学生以外の取組についても多くの報道がなされた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) ウクライナ学生受け入れについて	✓ ウクライナ学生の受け入れにあたり、空港での出迎え、科目等履修生としての受け入れ、クラウドファンディングなどを実施し、多くの報道機関にて報道され、本学の取組について広報活動ができた。
(2) 新型コロナウイルスワクチン職域接種について	✓ 令和 3(2021)年度から継続して新型コロナウイルスワクチン職域接種を行ったが、その取り組みが報道機関にて取り上げられた。
(3) EV 充電器設置	✓ 本学が佐世保市により避難所として指定されていることから、電源供給の観点からも EV 充電器の設置を行ったが、その取り組みが報道機関にて取り上げられた。
(4) キッズキャンパス	✓ 地域連携室にて児童及び保護者を対象に、キッズキャンパスを開催し、約 600 人もの人が参加した。報道機関にて本学の取組が報道された。
(5) カーシェアリング	✓ 学生から、大学付近に日用品を購入できるような店が少なく、自家用車を所有していない学生は休日にバスなどを使っており、とても不便であるという意見が出されたことを受けて、カーシェアリングを導入することとなった。その取り組みを各報道機関にて取り上げて頂いた。
(6) 多目的グラウンドの設置	✓ 多目的グラウンドを構内と野球場の間の敷地に整備したことが、令和 5(2023)年度にはなっていたが各報道機関にて報道された。

《メディア等への広報実績》

区分		平成 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
ニュースリリース		35 件	27 件	△8 件
新聞掲載		212 件	215 件	+3 件
ホームページ	トピックス掲載	123 件	172 件	+49 件
	訪問者数	1,198,384 人	1,082,124 人	△116,260 人
特記事項(雑誌掲載、全国テレビ放送、多数取扱記事等) ✓ 令和 4(2022)年 6 月にウクライナ学生を受け入れたことにより、多くの報道機関で取り上げられた。 ✓ アントニオ猪木氏が全身性アミロイドーシスにより逝去したことを受け、アミロイドーシス研究の権威である学長の安東先生のコメントが長崎県及び熊本県の新聞に掲載された。				

(8) FD・SD

取組の総括	
✓ 自己点検・評価委員会において、全学的取組と各部局等で実施する取組の連携を図るように調整を行ない、組織的且つ計画的で円滑な実施できるよう実施計画を策定し目標達成に努めた。 ✓ 全学 FD 活動として、公開授業の推進、授業アンケートの実施、教育向上研究会(各種講演会)、大学間連携の FD	

として、QSPの連携FD・SDを推進した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) FD 活動	✓ FDをはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と、効果的な実施のため、以下の取組を実施した。 【1.公開授業の推進】 前期・後期に全ての学部で授業公開を実施すると共に、授業公開終了後に各学部において報告会を開催して、公開授業に対する課題共有等の意見交換が行われ、その内容は自己点検・評価委員会へ報告された。 【2.授業アンケートの実施】 前期・後期それぞれ、全教員(非常勤を含む)を対象に、WEB方式を併用した授業アンケートを実施した。その結果により各学部で学部長面談を実施し改善向上に努めた。全ての専任教員は、授業アンケートの結果に対して「アクションプランシート」で課題抽出と改善策を自己点検・評価委員会に報告した。 【3.教育向上研究会(各種講演会等)】 開催方式はWEB等を活用して実施し、開催日とテーマは以下の通り。 4月27日～5月11日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関するFD・SD」 4月27日～5月25日(WEB) 「ハラスメント防止に関するFD・SD」 5月9日～5月23日(WEB) 「研究倫理FD研修会」 7月11日～7月25日(WEB) 「公的研究費コンプライアンスFD」 9月1日～9月15日(WEB) 「利益相反マネジメント研修会」 12月1日～12月22日(WEB) 「学生支援に関するFD・SD」 全てのFD実施後にアンケートを実施して、その開催時期や内容等の適切性や授業改善に役立つかな等の確認をおこない、評価は概ね好評であった。 【4.新着任FD及び授業研修会】 4月1日(対面) 「新着任教員対象FD」 4月2日(対面) 「第1回授業研修会」 12月14日(対面) 「第3回授業研修会」 【5.大学間連携のFD活動】 9月27日(WEB) 「大学入試を取り巻く背景の理解と特色ある入試制度設計にむけて(QSP連携と第2回授業研修会)」 2月16日(WEB) 「メタバースの実証実験から得られた今後の展望」(QSP及び包括連携協定校との合同FD)
(2) SD 活動	✓ コロナ禍により開催方式をWEB方式にて、大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組として、一部FDと共催で以下を実施した。 4月27日～5月11日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関するFD・SD」 4月27日～5月25日(WEB) 「ハラスメント防止に関するFD・SD」 6月6日～6月28日(対面) 「新着任職員SD研修」 7月27日(対面) 「大学の財務状況について」(全教職員) 12月1日～12月22日(WEB) 「学生支援に関するFD・SD」 全てのSD実施後にアンケートを実施して、その開催時期や内容等の適切性や業務・運営改善に役立つかな等の確認をおこない、評価は概ね好評であった。
(3) 他大学との連携	✓ 他大学との連携事業として、QSPにおける合同FDを実施、また、別府大学、別府大学短期大学部、西九州大学、西九州大学短期大学部、長崎短期大学の6機関合同で、IR(Institutional Research)機能強化に繋げる研修を実施した。

(9) 社会連携・地域振興

<地域関係・産学連携>

取組の総括
✓ 地域連携室・スポーツ支援振興室と4学科教員との地域連携センター、スポーツサポートセンターが順調に活動を行っている。 ✓ 地域連携活動に展開できる事業整備による自治体コストシェア(補助金等)を拡充。 ・【佐世保市】令和4年度次世代創業者育成プログラム(佐世保市、長崎県立大学、佐世保高専、本学)共同研究：70千円 ・【長崎県若者定着課】県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金：813千円 ・【佐世保市農林水産部有害鳥獣対策室】イノシン対策共同研究：605千円 ✓ 広報力強化：リリース発出8件(地域連携室)

✓ 2022 年度長崎県競技力向上対策本部：【国体強化指定クラブ】女子バレーボール部、アーチェリー部、テニス部 ✓ 2022 年度オリンピックアスリート強化指定選手：1 人 ✓ 2022 年度長崎県競技力向上対策本部委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 剛 ✓ 2022 年度公益財団法人長崎県スポーツ協会評議員兼競技力委員会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 剛 ✓ 佐世保市スポーツ推進計画(仮称)策定委員会委員：2 人(教職員) ✓ 令和 4(2022)年度西海市教育委員会会計年度任用職員：3 人 ✓ 履修証明プログラム：職業実践力育成プログラム：2 人履修及び修了 ✓ UNIVAS AWARDS2022-23：5 団体・1 人入賞 ✓ UNIVAS 総合推進委員会 Data Library 検討部会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 剛 ✓ 第 2 回 Sport in Life アワード 2022 賞受賞 ✓ 2023 年 FISU ワールドユニバーシティゲームズ東西大学男子強化合宿 コーチ派遣：スポーツ支援・振興室兼男子バレーボール部監督 坂本 亘 ✓ 10/15～16：令和 4 年度長崎県高等学校新人体育大会テニス競技⇒運営補助員派遣 11/18～21：令和 4 年度第 45 回全国選抜高校テニス九州地区大会⇒運営補助員派遣 山高 直史(入試・募集センター委員兼男子・女子テニス部コーチ)、男子・女子テニス部員 ✓ 各地区ブロック大会：各県代表選手 学生 26 人、教職員 7 人 ✓ 栃木国体選手団：学生 3 人、教職員 2 人	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) QSP 事業	✓ 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)中期計画 6 年目となった令和 4(2022)年度も、コロナ禍の影響を受け、各委員会・WG の企画や事業活動が大きな制約を受けたものの、リモート開催等により工夫しながらねばり強く事業を推進した。リケジョプログラム事業、健康ウォーキング事業、「幼児教育・保育現場における家庭支援に関する研究」、留学生と地域との国際交流、地場産業振興、共同 IR(Institutional Research)、共同入試、共同 SD・FD、人事交流、人材リストの活用、共同利用施設・設備など意欲的に事業に取り組んだ。 ✓ 第 2 期中期計画(R5-10 年度)を策定し、令和 5(2023)年度以降以降の体制を協議した。私学 14 校のうち 5 校が退会、私学は 9 校での体制となった。 ✓ 令和 4 年度私立大学等改革総合支援事業タイプ 3 申請・採択により、12,650 千円の補助金を受領。また、共同入試実施に伴い、長崎県若者定着課より、県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金 813 千円を受領。 ✓ 令和 3(2021)年度の活動実績や成果をとりまとめ、QSP 外部評価委員会による外部評価を受けた。
(2) 産官学(地域・企業・大学等)、他教育機関との連携事業	✓ ①九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会 ✓ ②7/26(火)九州・長崎 IR セミナー ✓ ③九州・長崎 IR 安全安心ネットワーク協議会 ✓ ④独立行政法人国立病院機構長崎医療センターとの「教育、研究における連携・協力に関する協定に基づく薬学部実務家教員の研鑽に関する覚書」実務研修薬剤師 2 人 ✓ ⑤7/14(木)佐世保北中学校研究所訪問 中 3：40 人、引率者 2 人 ✓ ⑥12/10(土)令和 4 年度佐世保市次世代創業者育成事業成果発表会 4 組参加 ✓ ⑦1/28(土)九州文化学園小学校花園学童クラブと「テニス部、バレーボール部」体験 20 人学童生と強化指定部：バレーボール部・テニス部の指導者と部員 ✓ ⑧3/11(土)西九州させば広域都市圏ビジネスプランコンテスト 2 組参加 ✓ ⑨12/11(土)第 9 回地域の期待に応える実践活動 学生 106 人、薬学部 OB・OG13 人、薬剤師会 16 人 ✓ ⑩地域連携センター(地域連携室)、スポーツサポートセンター(スポーツ支援・振興室：連携事業案内冊子発刊 300 冊、県内高校に配布済) ✓ ⑪10/29(土)九州電力送配電(株)：EV 自動車試乗会：96 人 ✓ ⑫SDGs フードロス・フードドライブ：学生支援 延べ人数 2,500 人 ✓ ⑬2/8(水)東彼杵町・川棚町・本学合同包括連携協定締結式 ✓ ⑭佐世保市スポーツ協会スポーツ表彰受賞 1 団体・1 個人 ✓ ⑮佐世保市教育委員会スポーツ優秀奨励賞 4 団体・7 個人
(3) 催事関連事業	✓ Made in SASEBO フォトコンテスト ✓ 映画「ケアニン～ここに咲く花～」上映会 ✓ 農福マルシェ・フライングディスク交流イベント ✓ 手話言語のすばらしさと SDGs -映画「咲む」上映会- ✓ 食べ物の科学にふれてみよう!!

	✓ 家族で考える災害食～学童期編～ ✓ 家族で考える災害食～食物アレルギー編～ ✓ めざせ水の薬学博士
(4) NIU キッズキャンパス	✓ 11/12(土)17 講座 小学生 289 人、同伴者 309 人 計 608 人

《委員等の派遣実績》

区分		平成 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
合計		46	50	+4
内訳	国・地方局	0	8	+8
	長崎県等	3	19	+16
	佐世保市等	24	3	△21
	その他市町	4	2	△2
	医療・福祉機関等	9	17	+8
	その他	6	1	△5

<保護者・同窓会関係>

取組の総括	
✓ 【同窓会】昨今のコロナ禍において活動縮小していたが、3/25(土)同窓会打ち合わせを本学にて実施し、本学卒業し、本学園に従事している教職員中心に行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 保護者懇談会	✓ 本学会場 271 組 370 人、オンライン対応 135 組 163 人が参加。参加者数はコロナ禍前のレベルには回復していない。資料の作成及び保護者への周知方法が次回以降の課題。

<大学間連携・QSP 関係>

取組の総括	
✓ QSP 中期計画 6 年目となった令和 4(2022)年度も、コロナ禍の影響を受け、各委員会・WG の企画や事業活動が大きな制約を受けたものの、リモート開催等により工夫しながらねばり強く事業を推進した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) QSP 事業	✓ 具体的には、リケジョプログラム事業、健康ウォーキング事業、「幼児教育・保育現場における家庭支援に関する研究」、留学生と地域との国際交流、地場産業振興、共同 IR(Institutional Research)、共同入試、共同 SDFD、人事交流、人材リストの活用、共同利用施設・設備など意欲的に事業に取り組んだ。 ✓ 第 2 期中期計画(R5-10 年度)を策定し、令和 5(2023)年度以降以降の体制を協議した。私学 14 校のうち 5 校が退会、私学は 9 校での体制となった。 ✓ 令和 4 年度私立大学等改革総合支援事業タイプ 3 申請・採択により、12,650 千円の補助金を受領。また、共同入試実施に伴い、長崎県若者定着課より、県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金 813 千円を受領。 ✓ 令和 3(2021)年度の活動実績や成果をとりまとめ、QSP 外部評価委員会による外部評価を受けた。

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 3/17(木)に学校法人九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベントを実施。講演、ブース展示及び企画発表等、本学園全体で行った。 ✓ 本学園の連携として、スポーツコラボ企画を初めて実施した。本学園の特性をいかしながらも、地域スポーツ振興活動の観点からの「人口減の抑制」、さらに将来の学生募集「スポーツにおける高大連携」については十分な効果はあったと推定する。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 国際観光学科	✓ 九州文化学園高校からの入学が 25 人、長崎短期大学からの 3 年次編入学が 3 人であった。
(2) 社会福祉学科	✓ 九州文化学園高校からの入学が 5 人、長崎短期大学からの編入学が 1 人であった。 ✓ 九州文化学園歯科衛生士学院、調理師専門学校に講師を派遣した。
(3) 健康栄養学科	✓ 九州文化学園高校からの入学が 11 人、長崎短期大学からの編入学が 2 人であった。定員充足の観点から、内部進学を促進を継続する。 ✓ 学園内の各学校に非常勤講師を派遣し、協力を行った。
(4) 薬学科	✓ 長崎短期大学、九州文化学園歯科衛生士学院、調理師専門学校、九州文化学園高校衛生看護専攻科へ講師を派遣した。

(5) 人間社会学研究科	✓ 長崎短期大学からの進学者に対する学位授与(修士・博士)の実績を積んでいる。
(6) 健康管理学研究科	✓ 薬学部や長崎短期大学と共同研究を行い、論文や学会発表等で成果を報告した。
(7) 薬学研究科	✓ 薬学科と共同で、幼稚園・小学校・高校への出前授業を実施し、ニュースリリース等を通じた情報発信に努める。
(8) 募集担当者連絡会	✓ 学園内の募集担当者による情報共有を行い、学園全体として募集の効率化を図ると共に、内部進学を促進を図るために令和4(2022)年度は5月と9月に連絡会が開催され、連携した募集活動の具体策や、オープンキャンパス・オープンスクール、学校訪問、説明会、学園広報誌等について情報交換した。
(9) 強化指定部＆花園学童クラブとのスポーツコラボ企画	✓ 1/28(土) 九州文化学園小学校花園学童クラブと「テニス部、バレーボール部」体験20人学童生と強化指定部：バレーボール部・テニス部の指導者と部員

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 令和4(2022)年3月17日(土)に実施された【九州文化学園主催】SDGs推進宣言の日記念イベントにおいて、本学におけるSDGsに関する取組を実績報告書にまとめつつ、同イベントでは外部講師による講演、ポスター展示、学生、教職員によるブース出展、ステージ発表を行い、学園内のみならず地域住民に対しSDGsに関する意識啓発を行った。 ✓ 九州文化学園主催、SDGs推進宣言の日イベントに向けて、令和4(2022)年度の本学のSDGsに関する取組について、実績報告書にまとめた。また、同イベントにおいて、他部門の担当者とともにイベント運営ならびにブース出展に携わった。 ✓ コロナ禍において、経済的事情で十分な食料、日用品を購入が難しい学生に対し、「SDGs項目12: 持続可能な生産消費形態を確保」への目標達成に向けて配布を行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 【九州文化学園主催】SDGs推進宣言の日記念イベント	✓ 九州文化学園主催、SDGs推進宣言の日イベントに向けて、令和4(2022)年度の本学のSDGsに関する取組について、実績報告書にまとめた。また、同イベントにおいて、他部門の担当者とともにイベント運営ならびにブース出展に携わった。
(2) 学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」	✓ SDGsやESD活動を顕彰することで、SDGやESDの意欲の向上と、本学SDGsのさらなる推進を図ることを目的として実施をした。8件の応募に対し、8件の取組を採択し、SDGsの推進に貢献した。
(3) 地域で考える「食・物」循環と支援プロジェクト	✓ 第一生命佐世保支社、わくわくふれあい市場、JAながさき西海させば南部地区女性部の協力のもと、不定期であるが、学生に対し、食料、日用品の配布を行った。 ✓ 本プロジェクトでは「SDGs項目12: 持続可能な生産消費形態を確保」に加え、「フードロス・フードドライブ」等の社会課題に対して、 1. 「食・物」循環と“もったいない”という精神 2. 社会課題に対する行政・団体の取組 3. コロナ禍における支援 以上、3つのテーマのもと実施をした。

(12) 管理運営

＜ガバナンス・運営体制関係＞

取組の総括	
✓ 建学の理念、教育目的等の点検・確認と学内外への周知・理解の促進のため、新任教職員研修や教授会等で関連資料配布、学生便覧等への掲載やオリエンテーション説明、保護者会資料やホームページの掲載による周知と理解の促進を図った。 ✓ 中期計画に対しての進捗状況と実績についてレビューを行い、中期計画進捗状況管理表を作成した。 ✓ 薬学部の主要事業である薬学実務実習、薬学共用試験(OSCE、CBT)、国家試験対策講習会、地域貢献事業等については、教職協働体制により円滑に実施・運営ができた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 教学ガバナンスの維持・強化	✓ 長崎国際大学ガバナンス・コード、また教学マネジメント指針も考慮の上、年次の事業計画に基づいた適切な大学運営を行うと共に、事業計画進捗状況中間報告や事業報告書の作成を行い、計画の進捗管理と実績把握を行った。 ✓ 教学マネジメントを機能的に遂行するため、学長の補佐体制、権限分散、職員配置、役割の明確化の維持・向上に努めた。 ✓ 学長の意思決定を支援するため、全学教授会、全学教育会議、グローバル推進協議会

	など全学的組織や、また学部・研究科教授会や学科会議、各種センター会議や委員会により教学上の重要な案件について、適切に審議や意見聴取を行った。
(2) 公共性・信頼性の維持・強化	✓ 規律を持った大学運営を行うべく、九州文化学園行動規範、ガバナンス・コードに基づき、教職員に周知を図った。 ✓ 人権への配慮のため、ハラスメントに対する体制、個人情報の保護、男女共同参画、障がい者支援に関する体制整備の推進や研修支援を行った。 ✓ 新型コロナウイルス感染拡大状況や感染拡大防止対策により、実施内容等の大幅な変更を余儀なくされたが、危機管理マニュアルや消防計画に基づき、また関連情報の周知や意識啓発を行った。 ✓ 新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施し、学内および地域住民の感染症拡大防止に努めた。 ✓ 学内に緊急災害対応の自動販売機を設置した。
(3) 透明性の確保	✓ 法令に規定された情報の公表はもとより、ガバナンス・コード等で規定する各種の情報についても、大学ポータルサイトやホームページを通じて、積極的に公表し、社会に対する透明性の確保を推進した。
(4) ガバナンス・コードの対応、遵守状況	✓ 遵守状況および取組の実施状況を作成し、ホームページに公表した。
(5) 法人との連携	✓ 使命・目的の達成のため、理事会、評議員会、教授会、運営会議の連携を密にし、組織の相互理解を高めた。特に運営会議を有効に活用し、法人と大学間で情報や課題を共有し、意思決定の円滑化を進めた。
(6) 学長裁量経費を活用した改革推進	✓ 学長の方針に基づくテーマを設定して予算を措置した学内公募を行い、教育・研究・社会連携と学生の活動に関する改革・改善シーズを汲み上げ、教学改革を推進した。
(7) 薬学実務実習	✓ 第1期から第3期において、薬局97施設及び病院70施設にて98人実施。
(8) 薬学共用試験	✓ OSCE 合格者106人(受験資格106人)、CBT 合格97人(受験資格97人) ※ 薬学共用試験(全体)合格者97人(受験資格97人)
(9) 国家試験対策	✓ 国家試験対策ゼミ5回、模試5回 (薬剤師国家試験合格率88.89%)
(10) 地域貢献事業	✓ 高校生夏休み薬学研究体験(8/10-11)参加者33人(新型コロナウイルス対策のため人数制限有) ✓ 猶興館高校薬学体験学習(8/25-26)参加者10人(理数科2年生)

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 全学教授会	✓ <定例>12回開催 第1回4月1日、第2回4月27日、第3回5月25日、第4回6月29日、第5回7月27日、第6回9月28日、第7回10月26日、第8回11月30日、第9回12月21日、第10回1月25日、第11回2月22日、第12回3月22日 ✓ <臨時>4回開催 第1回臨時1月4日、第2回臨時2月10日、第3回臨時2月15日、第4回臨時3月8日
(2) 運営会議	✓ 11回開催 4月定例4月18日、5月定例5月16日、6月定例6月20日、7月定例7月11日、9月定例9月12日、10月定例10月17日、11月定例11月14日、12月定例12月12日、1月定例1月16日、2月定例2月13日、3月定例3月13日
(3) 全学教育会議	✓ 4回開催(うち外部意見聴取1回) 第1回6月1日、第2回書面会議10月21日(外部意見聴取)、第3回3月13日、第4回書面会議3月30日
(4) グローバル推進協議会	✓ 3回開催 7月11日(第1回)、1月27日(臨時第1回書面)、2月13日(第2回)
(5) 情報セキュリティ委員会	✓ 1回開催 第1回2月22日

《学長裁量経費》

《学長裁量経費の概況》
✓ 学内公募型の学長裁量経費では、23件の応募に対し、20件(教育改革6件、地域研究地域社会活動7件、大学間連携研究0件、特別課外活動7件)の取組を採択し、科研費チャレンジでは、2件の応募に対し、2件の取組を採択し

た。また、SDGs 推進奨励制度では、8 件の応募に対し、8 件の取組を採択し、SDGs の推進に貢献した。		
区分	採択取組	実績額
教育改革(6 件)	✓ 大学茶道教育による人材育成の実践および検証事業	350 千円
	✓ 持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観・コミュニケーション能力育成プログラムの開発	200 千円
	✓ 国試本番を意識した模擬試験実施への取り組み	300 千円
	✓ 学生に佐世保近郊薬局・病院への就職を促す実践活動	200 千円
	✓ 九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献	150 千円
	✓ WEB 回答システムを活用した要支援学生の早期支援体制の整備	400 千円
地域研究地域社会活動(7 件)	✓ 長崎県・佐世保市連携：IR 含む「国際観光人材育成」について	700 千円
	✓ 葉草を軸とした地域に根ざした学び場づくり	600 千円
	✓ 教育・観光情報拠点化のための研究実績のアーカイブ化と利活用	500 千円
	✓ 科学マインド育成事業 ～サイエンス・ラボ～	80 千円
	✓ 持続可能な地域づくりのための人材育成プログラム立案・運営	300 千円
	✓ 佐々町における高齢者のフレイル測定評価	500 千円
	✓ 地域と協働した薬学史資料館の設立に関する研究	500 千円
特別課外活動(7 件)	✓ 女子学生アスリートにおける FAT 発症の実態把握と分野横断的支援	550 千円
	✓ 介護食の食事支援における多職種連携の課外活動	100 千円
	✓ 「高大連携事業」から「中学・高校・大学連携&融合事業」へ	500 千円
	✓ 青少年のチャレンジスポーツとタレント発掘事業の融合	400 千円
	✓ "NIU ピア・サポート活動による SDGs の実現Ⅱー目標 4・10 の実現ー"	300 千円
	✓ 「SDGs ゴール 3,4,8,17」学内外対象イベントの実施	500 千円
	✓ 本学職域接種におけるワクチン接種後の抗体価および有害事象調査	550 千円
科研費チャレンジ(2 件)	✓ 血栓性素因プロテイン C の定量的かつ迅速な活性測定方法の開発	400 千円
	✓ アミロイドーシスの放射線による新規治療法の開発	400 千円
SDGs 推進奨励制度(8 件)	✓ 低年齢層における薬剤師の認知度向上	70 千円
	✓ SDGs 展示を用いた啓発活動ならびに展示教育に関する取り組み	100 千円
	✓ 平和の学びをジブンゴトにする対話型絵本ワークショップ	200 千円
	✓ 学内資源有効活用による文化・スポーツ活動からの学内活性化	30 千円
	✓ 限られた医療資源の有効活用へ向けてーオンライン服薬指導実習	50 千円
	✓ 処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査	50 千円
	✓ "学生用 Qlearn マニュアル(日本語・英語 2 か国言語対応)の作成"	100 千円
	✓ 多文化共生理念による長崎国際大学ウクライナ支援プロジェクト	200 千円

＜経費マネジメント関係＞

取組の総括	
✓ 中期計画令和 3～7 年度(5 ヶ年)に基づく安定した財務基盤の確立と収支バランスを確保し、経営判断指標を A3 段階から A2 段階を目指したものの、大学の経常収支差額の黒字幅は 4.1%と計画を達成する事が出来なかった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 中長期的な計画に基づく適切な財務運営	✓ 中期計画に基づき財務上の数値目標を設定し、その数値目標を達成するために毎月の事務局長会議における財務計画の月次数値目標管理を徹底し、その達成を図るなど適切な財務運営を行った。
(2) 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保	✓ 新型コロナウイルス感染症拡大による募集環境悪化により、収容定員充足率は 96.6%となった。 ✓ 寄付金は、前年度は受配者指定寄付金の配布 100 百万円により大幅に増加したが、今年度はウクライナ学生人道緊急支援クラウドファンディング(406 件、6,447 千円)を実施したものの、全体で 12 百万円の寄付にとどまった。 ✓ 補助金の獲得については、私立大学等改革総合支援事業で 2 タイプを獲得し、戦略的獲得を実現することが出来た。また外部資金獲得のための研究活動推進としては、産学連携・研究支援室と共催にて科研費応募に係る説明会を開催し推進を図ったものの、新規獲得 10 件と前年を下回った。 ✓ 支出適正化のために、予算主義に基づく予算執行の周知・徹底を実施した。
(3) 会計処理の適切な実施	✓ 中期計画令和 3～7 年度(5 ヶ年)に基づき当該年度予算、事業計画を策定し、「学校法

と改善	人会計基準「学校法人九州文化学園予算規定」および「学校法人予算執行事務取扱要領」関係規則等に基づき会計処理を適正に行った。 ✓全教職員に対し「研究費予算執行の手引き 2022 年度版」を明示した。
(4) その他	✓会計監査の体制整備と厳正な実施については、前年度に引き続きコロナ禍による対面実査の制限はあるものの、オンラインおよびデータ資料提出による新しい体制が構築され実施された。

《予算執行》

《予算執行に関する概況》

- ✓収入面では、学生数の減少により納付金収入が△90 百万円。経常費補助金は、改革総合支援事業 2 タイプ採択となったが、改革推進等補助金(ウィズコロナ)10M 獲得で前年度 8 百万円増加。寄付金収入は、前年度の受配者指定寄付金 100 百万円配布の反動で△99 百万円。付随事業収入も NIU 疾患検査センターにおける PCR 検査(受託事業収入)の検査件数の減少傾向により△76 百万円。以上により事業活動収入としては前年度比△263 百万円となった。
- ✓支出面においても、人件費は退職給与引当金繰入が△22 百万円であったが、アフターコロナに向けて、ほぼすべての授業を対面で行うことで学内へ学生が戻ったことや物価高騰の影響で、光熱水費や旅費交通費、支払手数料、部活動による生徒活動補助金が増加した。また空調機関係の修繕費 25 百万円もかさんだことで教育研究経費が 48 百万円増加した。管理経費は、前年度に引き続き新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施、募集活動の活発化により 10 百万円増加し、教育活動支出は 36 百万円増加した。
- ✓その結果、当年度基本金組入前収支差額は 162 百万円となり、前年度より△311 百万円となった。
- ✓キャッシュフローは、多目的グラウンド新設工事 134 百万円、6 号館の空調熱源更新 43 百万円等の設備支出があり、27 百万円と前年度より△444 百万円となった。
- ✓中期計画 2 年度となる令和 4(2022)年度においては、当年度基本金組入前収支差額は継続して黒字を確保したものの、事業計画による目標数値は達成できおらず、「安定した財務基盤の確立」のために改善を図っていく。

区分			令和 3(2021)年度		令和 4(2022)年度		前年度比較	
			金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	2,814	71.8%	2,724	74.2%	△90	2.4%
		寄付金	112	2.8%	12	0.3%	△100	△2.5%
		経常費等補助金	614	15.6%	622	16.9%	8	1.3%
		その他	382	9.7%	301	8.2%	△81	△1.5%
		教育活動収入計	3,922	99.4%	3,659	99.6%	△263	0.2%
	支出	人件費	1,768	50.9%	1,746	49.7%	△22	△1.2%
		教育研究経費	1,325	38.1%	1,373	39.1%	48	1.0%
		(減価償却額)	(231)	(6.6%)	(231)	(6.6%)	(0)	(0%)
		管理経費	374	10.8%	384	10.9%	10	0.1%
		(減価償却額)	(13)	(0.4%)	(20)	(0.6%)	(7)	(0.2%)
		その他	4	0.1%	3	0.1%	△1	0%
		教育活動支出計	3,470	99.9%	3,506	99.8%	36	△0.1%
教育活動収支差額			452	—	153	—	△299	—
教育活動外 収支	教育活動外収入計	0	0%	0	0%	0	0%	
	教育活動外支出計	3	0.1%	2	0.1%	△1	0%	
教育活動収支外差額			△3	—	△2	—	1	—
特別収支	特別収入計	25	0.6%	13	0.4%	△12	△0.2%	
	特別支出計	0	0%	2	0.1%	2	0.1%	
特別収支差額			25	—	11	—	△14	—
基本金組入前当年度収支差額			473	—	162	—	△311	—
事業活動収入計			3,947	100%	3,672	100%	△275	—
事業活動支出計			3,474	100%	3,510	100%	36	—
C／F			471	—	27	—	△444	—
各科目の構成比は、収入関係は事業活動収入計、支出関係は事業活動支出計に対する割合。								

《主要指標》

比率	令和 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
人件費比率	45.1%	47.7%	2.6%
人件費依存率	62.8%	64.1%	1.3%
教育研究経費比率	33.8%	37.5%	3.7%
管理経費比率	9.5%	10.5%	1.0%

事業活動収支差額比率	12.0%	4.4%	△7.6%
学生生徒等納付金比率	71.7%	74.4%	2.7%
寄付金比率	2.8%	0.3%	△2.5%
減価償却額比率	7.0%	7.2%	0.2%

《補助金・競争的資金》

《補助金・競争的資金に関する概況》			
✓ 残念ながら改革総合支援事業のタイプ 1 及びタイプ 4 において、選定基準に届かず不選定となったため、対前年比の同補助金額の減額は 3.4 百万円となったが、一般補助がプラス 3.5 百万だったため、合計ではプラスとすることが出来た。競争的資金は、職域接種を実施した際における経費補助と、With コロナ時代の新たな医療に対応できる人材育成として、フィジカルアセスメントの技能習得のためのフィジカルアセスメントシュミレーター等の設備導入の補助金を獲得することが出来た。			

① 経常費補助金

区分	令和 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
一般補助	413,480 千円	417,079 千円	3,599 千円
特別補助	67,868 千円	64,447 千円	△3,421 千円
計	481,348 千円	481,526 千円	178 千円

② 施設設備系補助金

区分	設備名	事業経費	うち助成額
令和 3 年度大学改革推進等補助金(事業は令和 4 年度実施)	With コロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材(オンラインによるフィジカルアセスメント教育実施のための機器設備)	9,965 千円 (実績額)	9,965 千円
計		9,965 千円	9,965 千円

③ 競争的資金

事業名	令和 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
長崎県新型コロナウイルス感染症医療体制等緊急整備事業補助金	7,984 千円	7,802 千円	△182 千円
令和 4 年度次世代創業者育成プログラム(佐世保市、長崎県立大学、佐世保高専、本学)共同研究	700 千円	700 千円	±0
県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金	743 千円	813 千円	+70 千円
佐世保市農林水産部有害鳥獣対策室：イノシシ対策共同研究(新規)	0 千円	605 千円	+605 千円

《寄付金》

《寄付金に関する概況》				
✓ 昨年度は、日本私立学校・共済事業団に対する受配者指定寄付金より 100 百万円の配布を受けたため、寄付金は大幅に増加したものの。 ✓ 今年度は、ウクライナ学生人道緊急支援クラウドファンディング(406 件、6,447 千円)を実施したが、全体では 12 百万円の寄付にとどまった。				
区分		令和 3(2021)年度	令和 4(2022)年度	前年度比較
寄付総計	件数	35 件	455 件	420 件
	金額	111,185 千円	12,068 千円	△99,117 千円
内訳	個人寄付	件数	27 件	42 件
		金額	5,660 千円	1,539 千円
	研究助成金	件数	5 件	7 件
		金額	4,800 千円	3,900 千円
	その他(同窓会・事業団・クラウドファンディング他)	件数	3 件	408 件
		金額	100,725 千円	6,629 千円

<人事制度・人件費関係>

取組の総括	
✓ 平成 27(2015)年度より導入している職位職階制の給与体系と目標管理制度に基づく人事考課を引き続き実施。基準区分ごとに評価、自己評価および所属長評価を行い、昇格等に活用。またフィードバック面接により職務に対す	

る動機づけを行うなど職員の資質向上を図り、制度の定着化を行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 教員人事	✓ 採用、昇任、その他の教員人事については、大学設置基準、および厚生労働省の基準を遵守し、また、学部・学科の特性、教員の担当コマ数、在職専任教員の任期、科目担当にあたっての資格等を考慮し人事委員会で具体的な採用人数、昇任等の方針を審議した後、運営会議で決定し、円滑に行った。
(2) 職員人事	✓ 職員人事については、職員人事規則に則って 事務局長が、職員に欠員が生じた場合、あるいは業務上増員を必要とする場合は、適宜、理事長に採用を申請し、法人事務局での審議を経て、理事長がこれを執行したことで、業務が円滑に行われた。
(3) 人件費管理	✓ 学生生徒等納付金および寄付金の減少が大きく、人件費を 22 百万円削減したものの、人件費比率 47.7%、人件費依存率 64.1%と前年度より高くなった。
(4) 労務管理	✓ 安全衛生委員会を毎月 1 回開催し、教職員の安全と衛生、労務に関する事項について適切に把握・管理を行った。

(13) 施設設備等

取組の総括	
✓ 複数年度に分けて計画を立てている大規模更新の内、中央監視制御装置の更新を実施し、6号館の熱源改修についても実施した。 ✓ 大型研究関連機器整備については、年次計画どおり令和4(2022)年度に分析関連機器2機種(2台)、フィジカルアセスメント教育関連機器(1台)を整備し、研究活動及び臨床薬学教育の充実を図った。 ✓ 教室環境整備においては、教室プロジェクターの経年劣化に伴う年次更新計画により、3教室5台の更新整備を行い、授業や講習会等での資料の視認性の向上と授業や各種講習講習会等の円滑な運営・充実を図った。 ✓ 部活動や、学生生活の充実を図るために多目的グラウンドの新設や大型バスの更新、カーシェアリングの導入、およびSDGs推進の一環としてEV充電器の設置を行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 長期修繕計画	✓ 安定的かつ快適な冷暖房環境を維持するために、各棟(大学本部棟系統×2、1号館系統×2、食堂棟系統×2、7号館系統)に設置してある熱源である冷温水発生機7台中1台を更新した。
(2) 教育施設・設備	✓ 教室に設置された機器備品については、大型モニター2台及び健康管理学部の実験用機器等の修繕及び取り換えを実施した。 ✓ メディアルームにおいて、授業で使用するパソコンソフト office のバージョンアップを実施した。
(3) 大型研究関連機器整備	✓ X線照射装置1台(RI実験室：21,010千円) ✓ リアルタイムPCR装置1台(共同機器室：10,285千円) ✓ 血液自動分析装置(血栓症素因研究：7,480千円) ✓ フィジカルアセスメントシミュレーター1台(模擬病室：2,021千円)
(4) 教室環境整備	✓ レーザープロジェクター(6202教室：2台、6203教室：2台、7201教室：1台、合計5台：3,526千円)
(5) 多目的グラウンド(人工芝)	✓ 3/31(土)多目的グラウンド(人工芝)設置：ミズノ施工による学生の福利厚生施設による学生満足度の向上、さらにスポーツ系学生募集による学生募集効果は多分にあると想定。
(6) カーシェアリング	✓ 自家用車を持たない学生等の利便性向上のために、コンパクトクラスの「アクア」2台を特別価格で導入した。
(7) EV 充電器	✓ 本学体育館が地域の避難所として指定されていることによる緊急時のインフラ整備の一環として、また SDGs を推進しているその活動の一環として EV 充電器導入を導入した。
(8) 大型バス更新	✓ 老朽化による故障が頻発していた為、学生の安全と将来のコスト削減を目的に、大型バスを更新した。

(14) 自己点検評価

取組の総括	
✓ 全学的な内部質保証は、学長の責任の下、自己点検・評価委員会を中心に推進した。学部・研究科、その他部局の内部保証は、部局長当該構成員の責任に基づいて各種調査等からの課題の抽出を行ない、学部学科の改善向上策を検討し、PDCA サイクルを恒常的に循環させ大学の改善・改革を着実に推進した。 ✓ 内部質保証の質を維持向上するため、第三者の視点を踏まえた自己点検・評価を実施するにあたっては、在学生調	

査、授業アンケート、学長カフェ、全学教育会議、保護者懇談会(本年度はWEBにより実施)等の機会を通じて、学生、外部評価委員、保護者などのステークホルダーから意見を聴取し、点検・評価を実施した。 ✓ 学生の「授業アンケート」「在学生状況調査」「卒業生アンケート」等や教職員に対するFD・SD実施後のアンケート、「自己点検・評価 データ編」、教学データ(科目履修状況、GPA、学生数)等自己点検・評価の基礎となる学内の教育研究情報の適切な把握と分析をおこない、エビデンスに基づく改善・改革が推進されるように情報共有をおこなった。また、その結果である本学の研究活動や学修実態などの特色や傾向、改善状況を積極的、分かりやすくホームページ等で公表した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 自己点検評価	✓ 自己点検・評価の実施と2年に1度の評価報告書の刊行については、「令和2(2020)年度～令和3(2021)年度 自己点検・評価報告書」を令和4(2022)年度に刊行し公表した。 ✓ 授業アンケート、在学生アンケート、授業公開等を適切に実施した。 ✓ 教育評価の顕彰としてのベストティーチャー賞における「授業アンケート部門」に関して、選考基準の見直しをワーキンググループにて改訂を行ない、次年度より新基準としての実施となった。 ✓ 意思決定支援及び点検評価における最適なKPI(Key Performance Indicator)の設定のため、IRセンターにて検討を行い、令和5(2023)年度中に試案を策定し、自己点検・評価委員会へ上程する。
(2) 機関別認証評価	✓ 認証評価受審結果の改善とその改善サイクルの確立のため、自己点検・評価委員会です定期的に改善状況を点検・評価していくことを継続している。 ✓ 第4クルールの機関別認証評価受審を令和7(2025)年度とすることが確認され、準備を進めることとした。
(3) 分野別評価	✓ 薬学教育評価を令和7(2025)年度に受審することが確認され、準備を進めることとした。

(15) 中長期的案件の検討

取組の総括	
✓ 部室棟及び各種講義棟、多目的グラウンドなどの大型スポーツ施設など、キャンパスの魅力と利便性向上として求められる大型案件について検討を進め、サッカー部(強化指定部)発足に伴う多目的グラウンドが今年度完成した。今後も、キャンパスの魅力と利便性向上として求められる大型案件について検討を進める。 ✓ 研究環境の改善・充実については、引き続き優先順位をつけて予算化して実現を図る必要がある。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 国際観光学科	✓ コロナ禍で激減した外国人留学生の入学者数を回復させるために、協定校との積極的な交流を促進し、令和5(2023)年度の入学者増加につながった。非漢字圏からの留学生の増加に伴い、入学後の日本語力向上への施策が課題となっている。
(2) 社会福祉学科	✓ 出前授業、大学見学等を積極的に実施し、福祉分野への関心を高めるなど、定員充足に向けた地道な努力を着実に行う。 ✓ 定員充足に向けた戦略(新たな入試形態、高校等への営業戦略等)構築のための関係部署との定期的・継続的な協議の機会を確保する。 ✓ 国家試験対策については、目標値の達成に向け、高い合格率をあげている他校への視察なども行い、学修プログラムのさらなる改善・向上を図る。また、一部に受験を希望しつつも取り組みや意識が十分でない学生も散見されるため、個別に対応を行い、早期の意識の醸成と基礎学力の向上を図る。
(3) 健康栄養学科	✓ 調理加工実習室・給食経営管理実習室は、専門基礎・基幹必修科目で全学年が使用するため、使用頻度が高い。実習室の増設、調理師範の技術を確認するためのモニターの設置等が課題である。 ✓ 実験用冷蔵庫及びディープフリーザーの更新を行った。 ✓ 5号館の講義室・実習室及び廊下・天井のカビ対策(カビ除去、防カビ、除湿)は、学習環境の整備、衛生管理の点から早期の対応が必要である。
(4) 薬学科	✓ 慢性的に講義室や実習室及び研究スペースが不足しており、その確保が課題である。 ✓ 新しい薬学教育モデルコアカリキュラム(令和6(2024)年度開始)に対応するため、長期実務実習の受け入れ可能な附属病院の設置が望まれる。 ✓ 入学確保のため、立地条件の悪さをカバーするのに必要な大学に隣接したJR駅の誘致や通学バスの増便、大学独自のスクールバスの運用などが課題である。
(5) 人間社会学研究科	✓ コロナ禍の影響で海外の交流協定校との大学院生交換留学制度は未着手であり、次年度以降の検討課題である。

	✓ 学部から大学院修士課程へ、修士課程から博士後期課程へと、内部進学を促すためには、大学院生の学内修学支援金制度の整備が必要である。 ✓ 大学院生の多国籍化を図るための英語による授業科目の増設も懸案事項である。
(6) 健康管理学研究科	✓ 大学院生及び教員の研究環境の整備は、継続課題である。 ✓ 新規研究機器の導入・老朽化した研究機器・備品の更新は、課題である。
(7) 薬学研究科	✓ 海外からの大学院生募集を目指し、英文募集要項とホームページ作成等について引き続き検討を行った。 ✓ 学位取得者や若手教員の海外留学を促す計画に関連し、留学先や助成等の情報提供を行った。
(8) 事務局	✓ 長崎県、佐世保市が進めている「IR(特定複合観光施設)誘致活動」が継続審査となったものの、ハウステンボス内に「IR(特定複合観光施設)」開業となれば、長崎県および佐世保市、長崎県 IR 設置事業予定者である「CAIJ(CASINOS AUSTRIA INTERNATIONAL JAPAN(株))」、さらに他の団体と連携協力し、「国際観光人材育成」、「観光」、「医療」他の観点から、教育・研究等の幅広い改革について検討予定。 ✓ 全学生の約 20%を占める強化指定部を中心とした「スポーツ系学生」及び一般学生・教職員の福利厚生施設、そして本学のステークホルダーを含めた市民対象の「地域スポーツ振興」の観点から、トレーニング施設、スポーツ系学生対象の事務局、AV 機器を備えた戦略室等を含む「第 2 体育館(またはアリーナ)」設置の検討。 ✓ 大型(高額)実験関連機器の経年劣化による計画的な更新・整備(継続)。 ✓ 更新・導入した大型事件関連機器の継続的な保守点検・メンテナンスの実施。 ✓ 薬学研究棟、講義棟設備の整備関係(継続)。

2.長崎短期大学

1) 経営理念・経営目標

経営理念	For Community and With Community 地域中核人材育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ
経営目標	教職協働による学生支援の充実 ICTを活用した教育環境の高度化 定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上

2) 1年間の総括と評価

✓ 本年度も新型コロナウイルス感染症防止対策に配慮し、学生ファーストを心がけながら、大学祭や茶道大会などの学校行事や学外実習等を積極的に実施した。授業は、対面授業を基本としつつ、ハイブリット型授業も実施しWEB上で学生とコミュニケーションがとれるツールを導入した。また、地域の方々に対する市民公開講座は全て対面で年4回実施した。 ✓ 定員充足については、定員確保ワーキンググループにて募集戦略を協議し、教職協働による募集活動を昨年度より強化した。また、留学生については入学前教育の充実、新たなエージェントの活用等により志願者も増し、昨年度並みの入学者数を確保した。 ✓ 財務については、前年度より収支は改善したが、財務基盤の安定のためには、更なる徹底した経営改善が次年度に向けた課題である。

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	(製菓コース) ✓ 習得した知識・技能の実践の成果として、製菓衛生師資格試験日本人学生 100%合格、長崎県洋菓子技術コンクールにて4人の学生が入賞(金・銀・銅)することができた。 (介護福祉コース) ✓ 国家試験対策では、週3回の教員が行う国家試験対策も含め、留学生に対して日本人学生と共に学びを深めるようグループでの学習を取り入れた。その結果、日本人学生・留学生 100%合格を達成した。 (専攻科保育専攻) ✓ 教員の研究力向上に関しては、紀要執筆等の成果があったが、保育現場との連携には至っていない。 (入試募集・就職課) ✓ 九州文化学園高校に対して内部進学促進を目的として、全学年を対象に4・12・3月に進学イベントを実施した。目標の60人に対して、入学者は47人となった。 ✓ 県央地区に対して、高校訪問や進学説明会への参加を積極的に試みたが、長崎市や福岡県への流出もあり、結果として、目標の30人に対して志願者は27人とどまった。
戦略Ⅱ	(食物栄養コース) ✓ 厚生労働省より専門実践教育訓練講座の指定を受け、今後の社会人学生の増加に向けた1歩を踏み出すことができた。 (製菓コース) ✓ 令和5(2023)年度開講科目「インターンシップ」の研修先確保と時間割の調整ができた。 (介護福祉コース) ✓ 国家試験に合格できなかった直近の卒業生に対して、教員が実施する国家試験対策講座への案内を行ったが、希望者はいなかった。今後も卒業生への支援は続けていく。 ✓ ガイダンスへの参加は少なかったが、長期実習後にクラスアドバイザー(CA)より施設の選び方、就職課の活用、ボランティアや見学の方法を伝え、夏休みを就職関連で活動するよう指導した結果、早期に就職が決定した者もあり、3月中には就職率 100%となった。 (保育学科) ✓ オンラインおよびオンデマンドの授業を実施し、学生の学習環境の向上に努めた。 (専攻科保育専攻) ✓ 専攻科同窓会との連絡を密に行った。 (入試募集・就職課) ✓ 学生一人ひとりに合わせたキャリア支援の実施、ハローワークや若者定着課などと連携した取組により、学科・コース・専攻科も含め、就職率 100%を達成した。
戦略Ⅲ	(食物栄養コース) ✓ コースの公式ラインアカウントを作成し、学生の保護者ならびに卒業生と連絡することができる環境を整備した。

	(製菓コース) ✓ まだ十分とは言えないが、卒業年ごとの LINE グループ、卒業生限定の Facebook の運営を行っている。 (介護福祉コース) ✓ 実習連絡協議会で、留学生の受け入れ等について協議を行った。また実習施設に対し、担当者が実習マニュアルの説明を行い、良好な関係を構築している。 ✓ 保護者面談は、数組と参加者が少なく、家庭での様子の把握が難しい。参加者の増加、保護者との連携強化を図りたい。 (国際コミュニケーションコース) ✓ 韓国、中国、ニュージーランドの大学や高校とオンライン交流を積極的に実施した。 ✓ 韓国姉妹大学への短期研修に 14 人が参加した。また、現在、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアへ 1 年間留学をしている。 ✓ 留学生が相浦小学校や佐世保東翔高校との交流を行い、地域のグローバル教育に貢献した。 (保育学科) ✓ 保護者会および卒業後 3 年目の卒業生を対象としたホームカミング事業を開催し、ステークホルダーとの関係強化を図った。 (専攻科保育専攻) ✓ インターンシップ先との情報共有を密に行った。
戦略Ⅳ	(食物栄養コース) ✓ Google Classroom を導入し、クラウド上での課題の提出管理等を実施し、業務の簡素化ができた。 (介護福祉コース) ✓ パソコンスキルは、2 年間の授業や事例研究レポートにより向上した。また、急なオンライン授業に対応できるように、入学当初から指導を行っている。 (保育学科) ✓ 保育に関する ICT 関連の科目を開講し、ICT 教育の充実を図った。 (専攻科保育専攻) ✓ ハイブリット授業が定着した。 (入試募集・就職課) ✓ ICT 機器の有効活用については、企業側で実施する WEB 面接等に対応し、パソコンやスマートフォンを活用して学生指導を有効的に行った。
戦略Ⅴ	(製菓コース) ✓ 東彼杵町、㈱FA ながさきとの連携事業を開催した。 ✓ 留学生を含め、定員を確保することができた。 (介護福祉コース) ✓ 日本人・留学生共に国家試験の合格率は 100%であった。 ✓ コロナ禍で、ボランティアや地域活動ができず、積極的なホームページ更新までには至らなかったが、コース紹介動画を作成し広報した。 (国際コミュニケーションコース) ✓ Awesome NJC に学生作成の記事や動画を定期的に掲載し、広報することができた。 (保育学科) ✓ 学科紹介の動画を作成し、その他の諸活動等についてもホームページに情報を掲載することで学科の情報発信に努めた。 (専攻科保育専攻) ✓ 学生主体の SNS の情報発信ができた。 (入試募集・就職課) ✓ 入学者については、令和 4(2022)年度の本科 230 人、専攻科 5 人の入学者に対し、令和 5(2023)年度は本科 220 人、専攻科 4 人と減少したものの、令和 4(2022)年度卒業生の本科 148 人、専攻科 3 人を上回っている。しかしながら、留学生の入学者が 53 人と多いこともあり、奨学費等が経営を圧迫している。 ✓ マスメディアを利用した本学活動の啓発については、入試・募集・広報委員会の機能を活用し、組織的にリリースするよう努めた。 ✓ 進学ガイダンスについては、長崎県内を中心に参加し、受験対象者となる高校 3 年生や高校 2 年生への接触機会を増やし、オープンキャンパスの動員促進および出願促進に繋げた。 ✓ オープンキャンパスは、前年同様、対面式で 7・8 月に 3 回、10 月に 1 回、3 月に 1 回実施した。受験対象者の人数は減少するものの、受験歩留率は令和 3(2021)年度の 78.1%に対し、令和 4(2022)年度は 80.5%と向上した。

戦略VI	(食物栄養コース) ✓ Google Classroom を用い、クラウド上での情報共有を行うことで教員間の連携を強化した。 (介護福祉コース) ✓ 令和4(2022)年度の入学者は日本人学生18人(社会人3人含む)、留学生14人の計32人であり、前年度よりも、日本人および留学生の入学者数が増加した。 (専攻科保育専攻) ✓ 進学ガイダンスの早期開催ができた。 (入試募集・就職課) ✓ 奨学制度の見直しについては、周辺大学・短大の状況や学生募集にかかる影響を勘案しつつ、継続して検討する。
学園内の連携促進	(食物栄養コース) ✓ 九州文化学園高校野球部を対象に学生が身体測定を行い、問題点と今後の注意点について講話した。 (製菓コース) ✓ 九州文化学園高校食物調理科への講師派遣、および学生が商品開発した成果物の試食会を開催した。 (介護福祉コース) ✓ 九州文化学園高校との連携講座において、本学在学学生(九州文化学園高校卒業生)が、学生生活について説明を行った。高校での授業は、短大教員のスケジュールが合わず、実施できなかったため、次年度実施に向けて検討を行う。 (国際コミュニケーションコース) ✓ 九州文化学園高校の授業で韓国語検定受験の促進を図った結果、高校2年生5人がTOPIKを受験した。また、中国検定も複数人がHSK2級を受験した。令和5(2023)年5月には、3年生8人がHSKを受験する予定である。 (保育学科) ✓ 九州文化学園高校保育福祉科保育コースの生徒と本学在学学生(九州文化学園高校卒業生)との交流を2回実施し、高校生の進学意欲を高める取り組みを行った。 (専攻科保育専攻) ✓ 九州文化学園高校1年生を対象とした進学ガイダンスを実施した。 (入試募集・就職課) ✓ 九州文化学園高校との高大連携促進策として、4月に高校3年生を対象に新たに進学説明・懇談会を実施し、本学の認知度の向上に努めた。また、2年生に対しても12月にクラス別に、出身卒業生を交えた進学説明会(模擬授業を含む)を実施した。さらに1・2年生に対して、3月に進学イベントを実施した。 ✓ 長崎国際大学との共同募集活動については、同大学が参加する長崎県外の会場形式進学説明会(一部高校内形式を含む)を中心に連携した。 ✓ 長崎国際大学からの転入については、12月頃から募集要項を発行し、早期に長崎国際大学に情報提供を行った結果、2人の受験に結び付いた。また、長崎国際大学への3年次編入学については、国際観光学科に3人、社会福祉学科に1人、健康栄養学科に4人が受験し入学を果たした。 ✓ 九州文化学園小中学校との意見交換の場については、法人が主催する学生募集関係の会議体での情報交換にとどまった。個別には小中学校の児童・生徒募集について職員同士で情報交換を適宜行った。
付帯計画と課題	(介護福祉コース) ✓ 白蝶講座の案内を実習施設等に郵送したが、コロナ禍で希望施設がなかった。また東彼杵町連携講座は、年度途中で話が上がったが、実施にまでは至らなかった。今後は実施を検討する。 (保育学科) ✓ 地域貢献の一環として、市内の保育所・幼稚園・認定こども園を対象に「白蝶講座」を開講し、親子対象講座を計5回実施した。また、波佐見町と連携し、地域住民を対象とした「地域連携事業 子育て・親育ち講座」を計2回(4講座)開講し、子育てや家庭教育の支援、地域教育力の支援の向上を図った。 (総務・会計課) ✓ 空調のエアコン化、照明のLED化について、施設全館で実施した。 (入試募集・就職課) ✓ 卒業生の県内就職率は、地域共生学科48.1%、保育学科81.3%、全体として66.4%であった。

4) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【本科卒業者数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
地域共生学科	食物栄養コース	21人	
	製菓コース	17人	
	介護福祉コース	8人	
	国際コミュニケーションコース	31人	
保育学科		73人	
総計		150人	
卒業者の累計(1期生から今回までの合計)		9,671人	

【専攻科修了者数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
専攻科	保育専攻(2年課程)	3人	
総計		3人	
修了者の累計		392人	

【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：短期大学士	150人	
学位：学士	3人	専攻科修了者への大学評価・学位授与機構による授与
栄養士	21人	
製菓衛生師	16人	日本人14人(全員)、台湾籍2人
介護福祉士	7人	国家試験未受験1人
保育士	69人	秋卒業1人含む
幼稚園教諭2種免許状	69人	
幼稚園教諭1種免許状	3人	専攻科修了者

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入学式	4月3日(日)	新型コロナ対策で各家庭保護者1人のみ
オリエンテーション	4月5日(火)・4月6日(水)	
スポーツデイ	7月16日(土)	
第1回オープンキャンパス	7月23日(土)	
第2回オープンキャンパス	8月6日(土)	
第3回オープンキャンパス	8月11日(木・祝)	
白蝶祭・第4回オープンキャンパス	10月23日(日)	テーマ「Leave no one behind ～助け合いから広がるみんなの輪～」 新型コロナ対策でオープンキャンパスと同時開催(学生・保護者・教職員・学園関係者のみ。模擬店あり)
音楽と動きのつどい	11月22日(火)	アルカス SASEBO で開催 認定こども園九州文化学園幼稚園参加
第46回茶道大会	12月11日(日)	新型コロナ対策で学内開催(不文軒等)
創立記念式	12月13日(火)	新型コロナ対策で学内分散開催
卒業式	3月10日(金)	新型コロナ対策で保護者2人まで・来賓3人のみ
春の進学フェスタ	3月18日(土)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合型選抜1期	10月15日(土)	
専攻科内部および一般1期	10月29日(土)	

学校推薦型選抜(指定校推薦)	11月12日(土)	
学校推薦型選抜(公募制・内部)	11月19日(土)	
社会人選抜	11月19日(土)	
国内留学生入試1期	11月19日(土)	
総合型選抜2期	12月17日(土)	
海外留学生入試	1月7日(土)	
海外留学生入試	1月14日(土)	
海外留学生入試	1月21日(土)	
国内留学生入試2期	2月4日(土)	
一般選抜1期	2月5日(日)	

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 令和4(2022)年度の挑戦

取組の総括	
✓ 収支は、入学者増および経費等の削減により改善しているが、前年度と同程度の入学者を維持しつつ、奨学金費の圧縮、固定費の見直し等、徹底した経営体質改善に取組まなければならない。 ✓ 九州文化学園高校との連携強化は、入学者数の観点から一定の成果を上げている。ただし、教育課程上の高大接続については、5年間の育成教育を企図した教育連携を検討課題としたい。 ✓ 長崎国際大学との連携強化は、共同募集の面では今期より本格的に始動したが、別キャンパスであるため、運用面が今後の課題である。教育の継続性は、大学への編入生が増加している点から一定の成果が出ていると考えられる。 ✓ 第46回茶道大会は、コロナ禍のため本年度も学内実施とした。九州文化学園全体で取組む茶道大会については、茶道文化教育の更なる醸成を目的に今後も継続して協議・検討する。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 収支改善	✓ 入学者数増により前年度に比べ増収および管理経費削減により収支改善できた。奨学金費や人件費については今後の課題とするが、学納金の見直しについては次年度より実施することとした。
(2) 九州文化学園高等学校、長崎国際大学との連携強化	✓ 九州文化学園高等学校とは、独自の奨学金制度の他、各学科コース別に出前授業や語学の勉強会、高校主催イベントへの参加を通して、本学への関心を高め入学者確保に繋げた。 ✓ 長崎国際大学とは、相互に非常勤講師の派遣や大学への編入を希望する学生への修学支援を行うことで、大学進学者増となった。大学との共同募集活動については、今後も情報を共有し、運用面の強化を図りたい。
(3) 九州文化学園全体で取組む「第46回茶道大会」の充実と発展	✓ 新型コロナ対策の観点から、九州文化学園の他部門の参画の方針を変更し、長崎短期大学単独で開催した。2年生の保護者を対象に呈茶を行う事で、茶道文化の教育成果を可視化することができた。

(2) 全学的取り組み

取組の総括	
(茶道大会) ✓ 今年度も、学内において新型コロナウイルス感染対策を考慮しつつ開催した。 ✓ 点前・水屋・接待を2年生が行い、学生の保護者および学園関係者を招待し呈茶を行った。 (スポーツデイの開催) ✓ 学友会を中心に「学生による・学生のための・学生の」スポーツデイを開催した。学内全体をフィールドとし、学生や教職員が運営を行うことで、学年、学科、国籍を超えた交流体験となった。 (白蝶祭(学園祭)の開催) ✓ 「Leave no one behind ～助け合いから広がるみんなの輪～」をテーマに、出店やバザー(含む喫食)、吹奏楽コンサート、各国ファッションショー、お菓子作り、ビブリオバトル、茶席、脱出ゲーム等について参加者を限定して実施した。 (卒業記念パーティの開催) ✓ 1年生が2年生の卒業を祝うためにハウステンボスにて、時間を90分とし飲酒を伴わないパーティを実施した。学生や教職員が一堂に介し、3年ぶりに思い出作りを行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 第46回茶道大会	✓ 第46回茶道大会は、27世帯44人の保護者、31人の学園関係者、計75人の参加者を迎え呈茶を行い、様々な気づきや学びの多い茶会となった。九州文化学園の全機関の参画による茶道大会は持ち越しの課題となった。第47回茶道大会は、茶道大会の

	目的である①学生の人間教育の一環としてのホスピタリティ精神の可視化②建学の精神の具現化③地域・関連企業との連携④国際交流⑤日本の伝統文化の継承と茶道・鎮信流の流布の再認識。茶道文化教育の更なる醸成を目的に、アルカス佐世保でフランクに参加できる「お茶席」も設けるなど工夫しつつ「不易流行」を意図した茶道大会を目指す。
--	--

(3) 各学科の取り組み

取組の総括	
✓ 留学生の入国が可能となり、また日本人学生も昨年度よりも大幅に増え、コロナ禍前に近い入学者を確保することができた。 ✓ 地域共生学科では、新型コロナ対策を十分に講じながら地域活動を再開し、様々な形で地域に発信することができた。 ✓ 教職協働体制によりクラスターを発生させることなく教育活動を遂行できた。また、ICTの活用により、台風や積雪時においても授業を実施し、円滑な教育支援、学びを止めない体制ができた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 地域共生学科	(学科全体) ✓ 地域共生学科では、新型コロナとの共生も見据え、地域活動を再開し、コースが連携した地域活動も実施できた(「地域と人々」)。「地域と職業」ではコースごとの特性に合わせた就職指導につなげるべく、次年度より単位を半分にし、就職講座を充実させる。 (食物栄養コース) ✓ 一部コロナ禍の影響で中止した活動もあったが、白蝶クッキングスタジオ、東彼杵町との連携活動、児童養護施設との連携活動等、複数の地域活動を実施し、地域交流と食育による貢献が同時に達成できる事業を行うことができた。 ✓ グローバルな視点を獲得することを目的として、留学生との異文化交流事業 2 回および地域在住の外国人に対し英語での料理教室 1 回を実施した。 ✓ 学生と教職員の健康増進ならびに食育活動として、(一社)フードバンク協和より提供を受けた食材を利用し、安価な朝食ならびに昼食の提供を 3 回実施した。 ✓ ステークホルダーの卒業生への支援事業として、管理栄養士国家試験対策をオンデマンドで計 29 回実施した。また、3 期生・4 期生・5 期生に対しホームカミングを行い、栄養士業務に関する最新情報の提供等を行った。 ✓ 高大連携の強化を目標として九州文化学園高校野球部への健康管理、栄養管理サポートを継続して実施した。 ✓ 佐世保市内の保育所等への栄養士としての就職率向上を目指したが、求人内容と学生の希望が合わず、就職率の向上にはつながらなかった。今後は保育所等に限らず、佐世保市および周辺地域への就職率を向上させ、栄養士養成施設としての認知度向上に努めたい。 (製菓コース) ✓ 一部の教科を除きクォーター制度に移行し、インターンシップ制度の導入体制を整えた。 ✓ 東彼杵町との連携事業 2 点、(株)FA ながさき(よかばい相浦)とのコラボ企画を 2 点実施した。 ✓ コース独自の Instagram の配信を教員 1 人、学生 2 人で運営した。 (介護福祉コース) ✓ 白蝶講座はコロナ禍で希望施設がなかった。また東彼杵町連携講座は、年度途中で話が上がったが、実施にまでは至らなかった。実施に向けて検討を行い、教員の専門性を地域に還元できるように努める。 ✓ 地元への就職希望者が大半であり、今後は学生の適性と施設のマッチングを考えた就職支援を目指す。 (国際コミュニケーションコース) ✓ 新型コロナ後に再開された相浦地区市民公開講座「万年青大学」において、1 年間のコースの地域活動の報告会を行い、好評を得た。
(2) 保育学科	✓ 昨年度に引き続き、「実習」の事前指導・訪問指導・事後指導を保育学科ならびに専攻科の専任教員全員で担当する体制を整備したことによって、学外実習を核としたカリキュラムや学生指導のあり方を再認識することができた。 ✓ 募集広報活動を学科および専攻科と連携して行うことにより、内外に向けて広報活

	動を展開することができた。
(3) 専攻科保育専攻	令和 4(2022)年修了生は、全学生の幼稚園教諭一種免許状および学位(教育学)取得と保育職への就職が達成できた。リカレント学生の入学者については、今年度も 0 人であり、リカレント教育の場としての専攻科の認知度を上げるため、インターンシップ先への巡回訪問や関係団体との連携強化を今後も継続していく。

(4) 教学改革

取組の総括	
- 教学改革は、教育の質保証、学生の修学および生活支援、学生のキャリア支援の 3 項目にその具体を分類し様々な取り組みを行った。教育の質保証は学修成果の可視化が起点となる。そのためステークホルダーへの調査(紙面・聞き取り)が重要であり、その結果から学生の学修成果の可視化を行い点検・評価・改善につなげている。 - 学生の修学・生活・キャリア支援はクラスアドバイザーとの連携のもと、成績不振等学生指導、合理的配慮を要する学生支援、就職・進学支援を行った。その結果、就職・進学を希望した学生は 100%の決定率となった。引き続き UPI 検査結果や日頃の会話から支援を必要とする学生のスクリーニングを試み、休学退学等防止に努めたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 教育の質保証	- 茶道文化教育の見直しを行うためワーキンググループを組織したが、実質的な活動には至らなかった。 3 ポリシーの PDCA サイクルを継続して運用し教育の質を担保した。 - 大学改革・IR 委員会を中心として、教学 IR システムの標準化を図り、エビデンスデータに基づく教育成果の可視化に取り組んだ。 - 教員評価およびベストティーチャーを選出し教育力向上を図った。 - 卒業生調査の実施を予定していたが年度内には実施できなかった。 - ステークホルダーの意見を取り入れる体制づくりには着手できなかった。
(2) 学生の修学支援および生活支援	- 多様化する授業形態に対応可能な図書館を目指し、電子媒体の収集などハイブリッドな『学びの拠点』として環境整備を行った。学生や教員の利用頻度を高めるため、利用案内や各種イベントを強化した。また、学術機関リポジトリ等の活用により、学術情報発信の強化と地域へ向けた研究成果の還元を図った。 - ハイブリッド型授業を取り入れたカリキュラムの構築は未着手であり、リカレント教育の促進も検討できなかった。 - 高等教育の無償化により、経済的に修学困難な学生への支援は拡充されているため、現行の減免制度(奨学金費支出)の見直しを検討した。 - 学生委員会を中心とした学科・コースとの協力体制により、修学に係る合理的配慮を要する受験生および在学生に対し、留意事項に基づき適切な支援を行った。 - 学生支援の一層の充実を図るため、教職協働体制を再確認し、教職員の専門知識・技能の向上に資する研修等を実施した。 - 保健室・学生相談室では、UPI(心の健康調査)を 4 月のオリエンテーションで実施し、より早期の学生対応を行い、学生生活の充実を図るための支援を行った。 - 保健室では、新型コロナウイルス感染症の陽性者および濃厚接触者、体調不良者の健康観察を継続して行い体調面やメンタルヘルスの支援を行った。 - 学生の意見やアイデアを学生支援に取り入れるため学友会組織の強化を試みた。その取組として学生リーダー育成プログラムを実施したが、卒業生との交流会は実施できなかった。 - ステークホルダーとの連携強化のため、保護者会は対面かオンラインで対応し、参加率向上を図った。 - 外国人留学生の多国籍化に対応するために、各学科・コースと協議を行い、留学生支援業務、やさしい日本語の活用方法等の FD・SD 研修を実施した。
(3) 学生キャリア支援	- 前年度より強固な学生支援体制を構築することを目的に就職部会を通して共通認識し、各学科・コースと連携を図った。本科生の内定率は令和 3(2021)年度 97.3%に対して令和 4(2022)年度は 100%、進路が確定した決定率についても、令和 3(2021)年度 97.3%に対して令和 4(2022)年度は 100%に向上した。また、県内就職率は地域共生学科 48.1%、保育学科 81.3%、合計 66.4%となった。これについては、ここ数年新型コロナウイルスの影響もあり、県内に就職する学生が多かったが、新型コロナウイルスも落ち着きを見せ始めたことから、県外に就職する学生が増えたと分析できる。 - 長崎県産業労働部若者定着課との連携による「地域人材育成・定着支援補助金」を活用し、バス 2 台を運行して NAGASAKI しごとみらい博への 1 年次生の参加を促した(1 年生 109 人参加、内 66 人が対面で会場参加)。

	✓ 長崎県インターンシップ推進協議会と連携し、県内外のインターンシップ受け入れ企業・事業所情報を広く周知し参加を募ったが、正課または実習以外でのインターンシップについては参加の促進を図ることができなかった。 ✓ コミュニケーション能力やプロジェクト遂行能力等の社会人基礎力を育成する既存の「プロジェクト型学習」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、企業・団体と連携し、WEBもしくは対面式での交流の機会を設けた。 ✓ 留学生のキャリア支援については、各コースと連携し、国際コミュニケーションコース(5人)、介護福祉コース(1人)共に、就職を希望する留学生全員が国内就職を決めることができた。また、国際コミュニケーションコースの進学を希望する留学生(2人)についても、早期からの面接指導等を重ね、全員が国内の4年制大学への進学を決めることができた。
--	---

(5) ガバナンス機能の強化

取組の総括	
✓ 収容定員確保は依然厳しいものの、各学科・コースの特色を活かした学生募集を継続した結果、対前年比増加に転じた。引続き、学長方針を全教職員へ周知徹底し、規律ある大学経営を行うと共に、収容定員確保を早期に実現し、財務基盤の改善を目指す。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) ガバナンス・コードの遵守による管理運営	✓ ガバナンス・コードを遵守し、規律ある大学経営に努めた。
(2) 財務基盤の確立	✓ 財務状況については、依然赤字脱却には至らないものの、学生募集、補助金獲得に注力した結果、大幅な改善傾向にある。引続き、収容定員確保を目指し、また、経費の適正化による収支バランスの改善に努める。
(3) 教職協働	✓ 中期計画に沿った、年度事業計画を第1回教授会で全教職員に対し周知徹底を行い、教職一体となった大学運営に取組んだ。 ✓ コロナ禍のため学外研修会への積極的参加はできなかったものの、学内FD・SDを定期的に開催することで教職員の資質向上を行った。

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 教授会	定例 11回 臨時 9回
(2) 運営会議	定例 23回 臨時 5回
(3) 情報セキュリティ委員会	1回
(4) 研究費不正使用防止委員会	3回
(5) 研究倫理委員会	2回

(6) 地域連携

取組の総括	
✓ ①地域に学び 地域と共に 地域に根差す ②専門職業人材としての即戦力になる ③生活の基盤教育「食・介護・コミュニケーション・保育」の強みを活かす ④教職協働による学生支援を重層化する ⑤茶道教育における人間教育・社会人基礎力を醸成する 以上5項目を教育の視座に捉えた活動を行った。 ✓ 学内完結型の活動から学外を視野に、他機関・地域・異文化をキーワードに、持続可能な社会の具現化(SDGs)を目指し、「児童養護施設との交流活動」や「(一社)フードバンク協和の栄養士との交流」等新規活動を含む27本の「地域活動」を実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) (一社)フードバンク協和との連携	✓ (一社)フードバンク協和の食材を利用した各種授業および地域活動(welcome 食堂等)を実施した。 ✓ (一社)フードバンク協和におけるボランティア活動(食材の仕分け等)に学生が参加した。 ✓ (一社)フードバンク協和の栄養士による学生向け講座や、連携したレシピ開発活動を実施した。
(2) 市町村との連携	✓ 椎木町との連携協議会を開催し、連携活動の立案は行ったが、コロナ禍でいずれも中止となった。 ✓ 波佐見町との連携講座は、今年度も開催日数および参加者に制限があったが、10月

	25日(火)、11月26日(土)の2日間で計4講座開講した。 ✓ 新たに東彼杵町と包括連携に関する協定を締結した。 ✓ 東彼杵町の茶園訪問、観光列車「ふたつ星4047」イベントに参加した。 ✓ 東彼杵町との連携プロジェクトとして「ちいきをつなぐ おはなし会」を実施した。
(3) 公開講座	✓ 「SDGsで創る未来」をテーマとし、年間4回の公開講座を全て対面で開催した。 - 第1回目：6月18日(土)参加者 73人 「一歩踏み出す勇気～不確かな未来へ向けて～」 - 第2回目：7月2日(土)参加者 59人 「六次産業による地域の活性化～おおむら夢ファームシュシュの取り組み～」 - 第3回目：10月1日(土)参加者 50人 「海の豊かさを守るために～世界の、長崎のマイクロプラスチック問題～」 - 第4回目：12月3日(土)参加者 34人 「韓国の育児と遊び」

(7) 大学間連携

取組の総括	
✓ QSP事業の共通の取組みとして、「共同研究「子どものLIFE(ライフ)」：幼児教育・保育現場における家庭支援に関する研究」「子ども育成フォーラム(テーマ：子育て家庭と地域のつながりを考える)」等、5つの事業を実施した。QSP事業として概ね大学間連携は達成できたが、コロナ禍の中、参画校同士の直接交流はできなかった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)	✓ 「子ども育成専門委員会」は、責任校として企画、運営から携わり、「子ども育成フォーラム」「共同研究」等5つの事業を計画し、概ね実施する事ができた。 ✓ 長崎女子短期大学を会場校とし、企画から携わった第3回子ども育成フォーラムは、「子育て家庭と地域とのつながりを考える」をテーマに開催したが、全面対面開催には至らなかった。また、「共同研究」では、今年度も取組報告書を発行する事ができた。第2クールとして再始動する次年度からの活動においては、活発な意見交換・相互視察を行い「知」の共有を行う事を目的として取り組んでいく。
(2) SPARC	✓ 地域活性化人材育成事業(SPARC)への参画を検討したが、大学と協議し結果的に参画はせず、引き続きQSPや短大コンソーシアム九州等を活用し、他大学との連携を図ることとした。
(3) データサイエンス	✓ 西九州大学短期大学部から講師を招きFDを開催し、データサイエンス教育への理解を深めた。また、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の申請に向けて、学内部会を設置し、協議を進めている。

(8) 国際交流の推進

取組の総括	
✓ 新型コロナウイルス感染症の影響により留学(短期・長期)は停滞していたが、夏休み期間に韓国への短期留学に14人、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドへの長期留学に6人を派遣できた。オンラインによる交流は継続しているが実施回数は下降傾向にあり、オンラインから対面へ移行しつつある。韓国の大学関係者の訪問が増加傾向にあり、コロナ禍以前の国際交流の姿に戻りつつある。令和4(2022)年度は新規に協定を結んだ海外の大学等はなかったため、学生募集につながるような協定校を引き続き開拓したい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) オンライン交流の促進	✓ 授業で学んだ語学の実践機会としてニュージーランド、オーストラリア、中国、韓国の大学等とのオンライン交流を実施した。
(2) 中国、韓国とのオンライン交流の促進	✓ 国際コミュニケーションコース所属の学生が授業で学んだ語学力を発揮する実践の場として中国、韓国の大学等とのオンライン交流の一層の充実を図った。
(3) 韓国 釜山女子大学との交流	✓ 茶道を通じて20年以上の交流実績を持つ姉妹校との相互交流ができていないため、ポストコロナを見越した交流を再開した。
(4) 台湾 大仁科技大学との交流深化	✓ 令和3(2021)年度に学術交流協定を締結した大仁科技大学との学生間、教員間交流の深化を図った。

(10) 高大接続と広報・学生募集対策

<全学的取組>

取組の総括	
✓ 定員の充足を目標として、高大接続、広報対策、学生募集対策の視点から教職員一丸となる活動を実施してきた。学生募集対策として募集用ツール(大学案内・募集要項・動画等)の早期発行を心掛け、夏のオープンキャンパスへの動員を図ったが、前年度を割る数字になった。結果として令和5(2023)年度入学者は本科220人(前年度230人・再入学者14人含む)と定員に未達だったこと、留学生の占有率が高いことが課題として残る。次年度の学生募集活動に向け、九州文化学園高校をはじめ、近郊高校との更なる関係の強化をはかりつつ、県内からの入学者の確保を行い、学生を巻き込んだ学生募集戦略を講じていく。また、県外募集についても、長崎国際大学の協力を得ながら、WEB媒体にシフトをした広報を行い活動の幅を広げていく。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 高大接続	✓ 九州文化学園高校との連携については、受験対象者となる3年生だけでなく、1・2年生においても、進路イベントを構築し実施した。目標とする60人には未達だが、47人と前年度を若干上回る入学者となった。また、九州文化学園高校との情報交換をはじめ、近郊高校3校と情報交換・情報共有を行った。今後は実績のある近郊高校も視野に入れ情報交換を行っていく。
(2) 広報対策	✓ 入試・募集・広報委員会を中心に、学科・コースの協力を得ながら、本学への認知を高めるためにプレスリリースを打ったが、結果として令和4(2022)年度は21件となり、目標の50件に届いていない。 ✓ SNSを駆使した本学活動の外部への発信については、学科・専攻科によって偏りはあるものの、学生目線で広報するケースも出てきた。 ✓ 入学者選抜の形態や時期・内容については、一般選抜1期の試験日を従来とは異なる曜日に設定をしたことから、志願者が前年を上回ることができた。一方で、学力の3要素を図る上で、一般選抜で学力のみをみていたことから、次年度は学力の3要素を取り入れた試験形態をとっていく。
(3) 学生募集対策	✓ 高校1・2年生への中長期的な広報については、系列の九州文化学園高校を中心に進学プログラムを展開し、本学の認知向上に役立てた。一方で、系列以外の高校についても、学科教員の協力もあり、長崎県内を中心に出張講義を行い、職業分野の理解の深化に貢献した。今後は中学生への広報も視野にいれ、学生募集活動を行っていく。 ✓ 定員確保ワーキンググループにおいて、学科・コースの強みを抽出するため、学科コース教員より聞き取り調査を行い、6月の訪問用ツールに組み込み、高校毎の目標値を定め、教職員による高校訪問を行った。 ✓ 学生募集エリアを限定し、長崎国際大学の協力も得ながら県外募集を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響もあり、次年度の長崎県外からの入学予定者は9人となり、目標の10人には未達であった。また、県央地区からの志願者は目標の30人に対して27人であった。 ✓ オープンキャンパスに向けた取り組みとして、開催時期・開催内容の改善を行い、受験歩留まり率は80.5%と前年比2%増となった。しかしながら、年々受験対象者の人数が減少傾向にあるため、参加者を増やすための施策が必要となる。また、留学生向けのオープンキャンパスはWEBにて開催した。 ✓ 動画については、急ピッチながらも6月初旬で各学科・専攻科とも足並みを揃え、YouTube上および公式ホームページにアップし、オープンキャンパスの動員に結び付けた。 ✓ 外国人留学生募集においては、留学生募集部会にて、コース毎の募集人員を設定し、それに準じた入学試験および判定を行い、入学者の確保に努めた。 ✓ 社会人の募集については、入学者増に向けた体制を引き続き検討していく。 ✓ 学生のクラブ活動については、次年度に向けて、広報に関するサークルの立ち上げを検討する。 ✓ 同窓会組織との連携については、引き続き減免制度の創設を検討していく。

<学科別の広報・募集の方針・取組>

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 地域共生学科	(学科全体) ✓ 九州文化学園高校以外に、重点校として佐世保中央高校・川棚高校と入学者の情報交換会を行っていたが、今年度は清峰高校も新規開拓し、在学生・卒業予定者の報告を行ったところ、きめ細やかな指導が高く評価された。 ✓ 昨年以上に留学生の受け入れを行ったが、現場での受け入れ体制にも影響があるの

	で、今後は年度初めに該当コースと入試募集・就職課との協議を行い、受け入れ目標数値の設定を行い、年度途中に経過をみながら修正を行う必要がある。 (食物栄養コース) ✓ コロナ禍前より実施していた白蝶クッキングスタジオ等の地域活動を再開させ、活動の案内や実施報告を通してコースの広報活動を行った。 ✓ 九州文化学園高校野球部を対象とした連携活動や同校生徒を対象としたガイダンス等によって本コースの認知度向上を行った結果、計10人の新入生を受け入れることができた。 ✓ コースのInstagramの更新を頻繁に行い、コースの認知度向上に努めた。 ✓ 教員による高校訪問を実施した。また、高校との親和性を向上させるため、学生から出身高校に暑中見舞いや卒業報告等の連絡を取るよう促した。 ✓ 社会人の入学を促進するため、専門実践教育訓練講座の指定を受けた。 (製菓コース) ✓ コースのInstagramは、教員1人に学生2人を加えることでより効果的な発信ができ、フォロワーの増加につなげることができた。 ✓ 長崎県洋菓子技術コンテストの4人の学生入賞(金・銀・銅)や(株)FAながさきとのコラボ企画を新聞やテレビなどメディアへの露出を積極的に行った。 ✓ お菓子作り教室、食育講座の計画はコロナ禍のため実施できなかった。 ✓ コース独自の動画は1本を配信したが、継続性がなく次年度の課題とする。 (介護福祉コース) ✓ 九州文化学園高校生に対し、資格と生涯賃金に関する説明会を2回実施した。 ✓ 短大の学びと奨学金や生涯賃金に関する説明を九州文化学園高校教員と一緒に中学生の保護者に2回実施した。 ✓ 九州文化学園高校に対する年3回の出前授業・コース説明は実施できたが、短大ホームページへの積極的なイベントの掲載については実施できなかった。また、相浦中学校での講座はなかったが、中里中学校での講座を実施した。 ✓ 社会人の入学を促進するため、長崎県高等技術専門学校でコース説明等を行い、離職者等再就職訓練事業制度の更なる活用を促し、入学者確保に尽力した。 (国際コミュニケーションコース) ✓ 九州文化学園高校の授業で韓国語検定の受験促進を図り、高校2年生5人がTOPIKの受験を行った。また、中国語検定も複数人がHSK2級を受験した。令和5(2023)年5月には、高校3年生8人がHSKを受験予定である。 ✓ 「Awesome Sasebo」の授業の中で、学生主体プロジェクトの動画や取材記事等をAwesome NJC(学生ホームページ)に掲載し、コースの学びや魅力発信を行った。 ✓ 2年生が夏3回、春1回のオープンキャンパスに参加し、学生自ら企画したプログラムを実施し、高校生・保護者より高評価を得ることができた。
(2) 保育学科	✓ ガイダンスおよびオープンキャンパス等を通して「保育の魅力」をアピールできるよう内容を工夫した。 ✓ 諫早および大村地区のガイダンスや高校訪問を実施して募集活動の強化を図った。 ✓ 学科の諸行事や活動の様子をホームページへ掲載し、デジタル媒体での広報活動に努めた。 ✓ 学科の諸活動について、プレスリリースを行い情報発信に取り組んだ。
(3) 専攻科保育専攻	✓ 高校訪問や進学ガイダンスの中で、保育学科との連携を通じた専攻科の募集促進はできつつあり、「短大+専攻科」のキャリア形成のアピールは進んでいる。2年後の専攻科進学者増に期待したい。 ✓ 前期から進学ガイダンスを開き、本年度は2年次学生6人、1年次学生11人の参加を得た。しかし2年次学生については、うち4人の進学に留まった。 ✓ ガイダンス以降の奨励に工夫を加え、出願の動機づけに繋げていきたい。

(11) FD・SD

取組の総括	
✓ 令和4(2022)年度は学内FD8回、学外FD4回の計12回の研修会を実施し、延べ参加者数は265人であった。SDは学内が8回、学外が2回の計10回実施し、延べ参加者数は187人であった。大学改革IR委員会を中心として、他の委員会と共催するなどして、教職員の意識改革を促進し、教育研究能力および大学管理運営に係る資質の向上を図った。	
項目	取組の実績・成果・課題

(1) 組織的取り組み	✓ 教学改革に資する取り組みとして FD・SD を大学改革 IR 委員会が中心となって体系的・組織的に実施した。内訳は学内 FD8 回、学外 FD4 回の計 12 回であり、延べ参加者数は 265 人であった。SD は学内が 8 回、学外が 2 回であり、延べ参加者数は 187 人であった。
(2) 参加率の向上	✓ オンライン・オンデマンドを活用し、時間と場所を限定しない体制を構築し、FD・SD 研修参加率の向上を図った。

(12) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 法人本部経営企画室の主導のもと、長崎国際大学・九州文化学園高校と分野別に情報交換会を定期的に行い、相互の連携強化に役立てることができた。高等学校とは、年度末に、コース・学科ごとに新入学予定者や在学生に関する情報交換を行い、日ごろの教育活動に活かすことができた。年度途中でも必要に応じて連絡を取れる関係性が構築できた。大学との連携については、非常勤講師の相互補完だけでなく、大学 3 年次編入、短大 1・2 年編入で連携ができています。 ✓ 本学保育学科と認定こども園九州文化学園幼稚園との連絡協議会を通し、双方の連携強化が図られ各種イベントを実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 食物分野に関する連絡協議会	(食物栄養コース) ✓ 法人本部総合企画室、長崎国際大学健康管理学部、本学地域共生学科食物栄養コース、同製菓コース、九州文化学園高校食物調理科、九州文化学園調理師専門学校の代表者が集い 2 回の会議を実施し、共同での募集活動およびイベント企画を検討することとした。 (製菓コース) ✓ 九州文化学園高校食物調理科の調理実習に講師派遣し、また短大施設を使用した体験実習を実施した。 ✓ 九州文化学園高校食物調理科の生徒に対し、製菓コースの学生が開発した菓子の試食会を開催した。(6 月、12 月)
(2) 認定こども園九州文化学園幼稚園との連携	(保育学科) ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園との連絡協議会(全体会 2 回・部会 4 回)を開催し、双方の連携強化を図った。 ✓ 保育学科 2 年生の「総合保育技術」の成果発表の場である「幼児のための音楽と動きのつどい」に認定こども園九州文化学園幼稚園の園児(年長クラス)を招待し、学生と幼児との交流の機会を設けた。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園の諸行事(運動会・お遊戯会等)に短大学生がボランティアとして参加し、双方の連携促進を図った。
(3) 福祉分野連絡協議会	(介護福祉コース) ✓ 福祉分野連絡協議会に 4 回参加し、介護の日講演会で「介護保険について」講話を実施した。

(13) SDGs の推進

<全学的取組>

取組の総括		
✓ 「九州文化学園 SDGs 推進宣言の日」記念イベントは、法人全体の取り組みが早かったため(8 月下旬)、本学としても余裕をもって対応できた。また、本イベントの趣旨である全教職員一体の取り組みができた。 ✓ 学内 FD・SD の開催について検討する中で「テーマ」と「予算」が課題となり、今後、SDGs の取り組みを強化していく中で本学の教職員に何が求められるのかを把握し、それに見合った予算も検討していく。 ✓ SDGs に関する取り組みの集約は、最終的に報告書としてまとめることができた。引続き SDGs に対する意識付けは重要であり、次年度も早めに取り組みたい。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) 創立記念式典	✓ 創立記念日の 12 月 15 日に創立記念式典を行い、学生・教職員が共に学ぶ喜びを再認識した。	4, 5
(2) 第 46 回茶道大会	✓ 茶道教育を通し、限りある資源や道具の大切さ、四季、日本の歴史や文化についての学修を成果発表した。	4, 6, 12, 13
(3) SDGs チャレンジ	✓ SDGs の啓発を目的として、学生に自分でできることを 17 の目標の中から考え、チャレンジシートに記入して宣言・展示することを計画し	4

	ていたが、実行できなかった。	
(4) 一般社団法人フードバンク 協和から留学生への食品提供	✓ コロナ禍の中、アルバイト収入の減少など経済的に困窮している留学生に対し、(一社)フードバンク協和から食品の提供を受け、地域に愛され、支えられる地域社会の担い手であることを再確認する機会とした。	1, 3, 10, 11
(5) 制服のリニューアル	✓ 令和 4(2022)年度よりジェンダーに配慮した新制服にリニューアルした。	5
(6) 白蝶祭(学園祭)	✓ 『Leave no one behind~助け合いながら広がるみんなの輪~』を 学園祭(白蝶祭)のメインテーマにし、全面対面形式で実施。短大に在籍するすべての学生の「楽しい!」体験を醸成し、イベントを通した学生同士の交流が生まれることを意図した。	4, 5, 7, 10, 12, 16

＜各学科・コース別の取組＞

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 地域共生学科	(食物栄養コース) ✓ (一社)フードバンク協和より提供された食品を使用し、安価な朝食を提供することで、朝食欠食や食品ロスに関連した啓発活動を実施した。(目標 3・12) ✓ 授業内で作成した食や健康に関する様々なポスターを学内で掲示し、学生や教職員に対する啓発活動を実施した。(目標 2・3・4・12・14) ✓ 近隣地域に居住する外国人を対象に英語を使って日本の食文化を紹介する料理教室を実施した。(目標 4・10) ✓ コース学生および卒業生が、次年度新入生として入学する留学生に対し、(一社)フードバンク協和から提供を受けた食材を利用し、安価な昼食の提供を行った。(目標 3・4) (製菓コース) ✓ (株)FA ながさきのコラボ企画を 2 点商品化し・販売した。(目標 12) ✓ 卒業生から留学生への実習着・実習靴の寄贈があった。(目標 4) (介護福祉コース) ✓ 3 月に長崎国際大学において、あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進するというテーマで、健康に関するクイズや高齢者体験等のブースを出展した。(目標 3) (国際コミュニケーションコース) ✓ SDGs 記念イベント時に、サービ斯拉ーニングで、学外学修ギャップタームのボランティア活動の報告等をブースにて行った。(目標 1・6・13・15・17) ✓ 留学生においては、授業の中に組み込むことができた。(目標 4・10・11・17)
(2) 保育学科	✓ 「九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント」にて、SDGs をテーマとした「保育教材の開発・研究」に関する展示・発表を行った。(目標 2・3・4・5・6・12・14・15・16)
(3) 専攻科保育専攻	✓ 海きらら「こどもひろばあまもば」におけるお楽しみ会活動に参画した。(目標 4・14)

(14) 情報公開

取組の総括	
✓ 地域社会や産業界等からの意見をもとに、本学への要望や期待に応えるべく、地域性、公共性を常に意識した情報公開に努め、教学に係る取組状況、教育成果や教育の質に関する情報について透明性をもって積極的に公開し、教育の質保証とした。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 教育の質保証	✓ 教学に係る取組状況、教育成果や教育の質に関する情報について透明性をもって積極的に公開した。 ✓ 情報公開している項目は、①大学等における修学の支援に関する機関要件確認のための情報、②教育研究上の基礎的な情報、③修学上の情報、④財務情報、⑤教職課程に関する情報、⑥研究活動における不正防止に関する情報、⑦IR 情報(学修時間、授業評価結果、学修成果、資格取得実績等)、⑧自己点検評価、⑨ガバナンス・コード

(15) 施設等整備計画

取組の総括	
✓ 今後も老朽化による施設補修が必要であるため、選択と集中による予算配分により計画的な施設整備に努める。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 空調および照明関連	✓ 空調・照明については、全館エアコン化、LED 化が完了した。
(2) 電気設備	✓ 高圧受電設備(キュービクル)の更新については投資額等検討中。電話設備については全館リニューアルが完了した。
(3) 建物保全	✓ 校舎の一部防水工事を実施した。(教養棟・音楽室)

(16) 補助金の獲得、授業料等の減免の見直し

取組の総括	
✓ 学納金関連については令和 5(2023)年度 新 1 年生より入学金を 20,000 円引下げた一方、授業料等については 50,000 円の引上げを行った。補助金は、150,138 千円を獲得し、申請短期大学 270 校中、6 位と上位にランクし、私立大学等改革総合支援事業においてもタイプ 1 とタイプ 3 に採択された。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学納金	✓ 令和 5(2023)年度新入学生より、入学金 200,000 円(昨対比 △20,000 円)、授業料等 960,000 円(昨対比+50,000 円)に改定した。
(2) 奨学費等	✓ 奨学制度の総合的な見直し(種類・資格要件・減免率)については引続き検討する。 ✓ 高等教育の修学支援新制度の利用者は令和 3(2021)年度 76 人、令和 4(2022)年度 77 人であった。

3.九州文化学園高等学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	建学の精神の下、人として大切な徳性と香り高き品格を身につける
経営目標	経営理念に則り、知・情・意のバランスが取れた全人教育を行い、生徒の夢の実現に努める

2) 1年間の総括と評価

✓ 昨年度に続き今年度も定員を上回る312人の入学生を迎えてのスタートとなった。新課程の始まりに伴い、普通科ではSアカデミー・Sグローバル・総合進学の新しいコースが始動し、それぞれ国公立大および難関私立大への進学・英語教育の充実・内部進学と部活動との両立を目標として、魅力ある教育を展開していくことができた。 ✓ 昨年度より共用を開始している新校舎については、衛生看護科、食物調理科等の人数の多いクラスが主に使用し、ゆとりある教育活動に繋げることができた。4階の多目的教室には80台のiPadを導入し、ICT環境の充実及び新たな学習機会の提供に繋げることができている。教員側のICTに対する知識やスキルも上がってきていることから、次年度入学生には1人1台端末が実現できるよう、その準備も進めている。部活動については、新しくスタートした空手道部も全国の舞台に進むほどの活躍をみせ、吹奏楽も同好会から部へと昇格し、学校関係だけではなく多くの地域の方々と繋がり活躍の場を広げている。 ✓ 次第に落ち着きを見せつつあるコロナ禍については、引き続き注意を怠ることなく、一方で可能な限りの学校行事を実施すべく検討や準備を進めた。大きな所としては体育祭を総合グラウンド陸上競技場にて実施し、生徒・保護者の喜ぶ姿を多く見る事ができた。引き続き次年度以降に向けて、これまでの形にとらわれず学園祭等さまざまな行事の実施を実現していきたい。

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 新課程の実施に合わせ、必要な授業時間数を精査し、適切な人数の教科担当を補充した。また、新任職員の研修を実施し、教育力の向上に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 専門学科を中心に、技術の習得や資格の取得に向けた充実した教育活動を計画し実施した。また、グループ内連携を推進し、他校種からの出前授業等を体験することで、より専門的な知識を身につけ、職業の魅力を発見する活動を行った。
戦略Ⅲ	✓ 普通科Sグローバルコースの一部の生徒について、マレーシアへの短期留学を実施した。学校周辺地域の方々と連絡協議会を実施し情報交換ができたが、学校行事への招待や、連携した活動はあまりできていない。
戦略Ⅳ	✓ 学校所有の80台のタブレット端末の一部を、持ち帰りも含めた形で生徒に貸与し、授業中および家庭での使用を試させながら効果的な活用方法について検討を重ねた。また、次年度入学生より年次進行で一人一台端末を導入していくための準備を整えた。
戦略Ⅴ	✓ 定員を上回る312人の入学生を迎え、入学式後や県高総体後など、定期的に広報を発行し状況を伝えている。また、ホームページでもリニューアル後には積極的な情報発信に努め、学校生活や部活動の様子を広く知らせることができた。
戦略Ⅵ	✓ 令和3(2021)年度収支比率:6.2%に対し、令和4(2022)年度収支比率:4.9%と1.3ポイントのマイナスであった。
学園内の連携促進	✓ 進路指導、生徒募集をはじめとして、食物や福祉関係など各専門学科の担当同士もよく連絡し合い、連携活動を実施することができた。また、普通科Sコースに関わる部分として、中学校や大学の先生方ともよく連携できた。
付帯計画と課題	✓ 健康管理や安全管理などコロナ禍での対応が求められる中、後手に回らないように先を見越した準備を進めた。また、学校行事等ももとの形に近づけながら少しずつ実施し、学校全体の活力を取り戻すよう尽力した。新コースであるSアカデミーについては大学進学を見据えた意識の醸成を行い、指導を重ねたが、目立った成果に繋がっていない。Sグローバルについては英語検定の準1級取得者を複数出したり、短期海外研修を実施したりするなど、魅力的な活動が展開できた。

4) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【本科卒業者数】

学科名	人数	備考
普通科	84人	
食物調理科	41人	

保育福祉科	81 人	
衛生看護科	52 人	
総計	258 人	
卒業者の累計	16,172 人	

【専攻科修了者数】

専攻科名	人数	備考
衛生看護専攻科(2年課程)	28 人	
総計	28 人	
修了者の累計	950 人	

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	41 人	
介護職員初任者研修課程修了	38 人	
准看護師	52 人	
看護師	26 人	

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
オリエンテーション	4月4日(土)	
始業式	4月8日(金)	
入学式	4月11日(月)	
衛生看護専攻科入学式	4月12日(火)	
長崎県高総体	6月4日(土) ～6月7日(火)	
躍動の青い力四国総体 2022	7月23日(土) ～8月23日(火)	
第1回オープンスクール	7月26日(火)	
第2回オープンスクール	7月27日(水)	
第3回オープンスクール	8月24日(水)	
学園祭	中止	新型コロナ感染防止対策のため
体育祭	11月2日(火)	
修学旅行	12月4日(日) ～12月7日(水)	中九州(大分・熊本)
一次入試	1月24日(火) ～1月25日(水)	
学祖追悼式	2月3日(金)	
卒業式	2月18日(土)	
衛生看護専攻科卒業式	2月28日(火)	
終業式	3月18日(土)	
合格者オリエンテーション	3月20日(月) 3月24日(金)	
二次入試	3月22日(水)	

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な教学運営方針

令和4年度の方針
✓ 総合学園としての特長を生かし、知・情・意のバランスの取れた全人教育を基調とし、4つの学科(6つのコース)で専門的な知識・技術を身につけさせ、生徒の夢の実現に努める。

(2) 教育活動

<全校の方針及び取組>

取組の総括	
✓ 「確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした生きる力の養成」に関して、高校生としての基本的生活習慣および学びの姿勢が身につくような指導が実施できている。コロナ禍が続き、何かと制限される場面は続いたものの、活動の幅を広げるための工夫を様々行ってきた。専門の教育はこれまでも増して専門性を高めながら行われており、加えて普通科にも新しいコースが始動したことで、教育の魅力も広がっている。部活動では最近目覚ましい結果を残す部も現れてきており、注目すべき部も増えてきている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 基本的な生活習慣とマナーの育成	✓ 学校内における活動のルールや制服の着こなし等、生徒指導部から担任を通じ日頃より注意喚起を行っている。また、マスク着用や黙食の徹底など、感染防止を見据えたコロナ禍の現状にふさわしいマナーについても繰り返し指導した。
(2) 長崎国際大学および長崎短期大学との連携推進	✓ 専門の授業や実習など、大学および短大の先生方の協力を得ながらいくつか実施することができた。コロナ禍のため、連携活動の実施が難しくなっているが、対面だけの活動に限定せず、オンラインでの連携も検討し回数を増やしていきたい。
(3) 教育機会の充実	✓ 行事予定の検討を十分に行之、夏期の授業日の確保や、土曜日の学校活動のあり方など、メリハリを付けて生徒が様々な活動に参加できるよう計画の整理を行った。また、タブレット端末を利用したオンラインでの補習を試行するなど、学校外での教育の場を求めて、検討を重ねた。
(4) 人権教育・主権者教育の充実	✓ 人権教育についてはビデオ教材の視聴を学年ごとに行った。主権者教育についても佐世保市選挙管理委員会の協力のもと、3年生を対象に体育館にて実施した。
(5) 部活動の充実	✓ 吹奏楽については同好会から部へと昇格し、地域ともよく連携し活動の幅を広げている。運動部についてもこれまで通り活発な活動が見られているが、バレーボール部やソフトボール部のような伝統のある部に加え、空手道部やソフトテニス部など、県上位の結果を残す新しい部も増えてきており、各部が切磋琢磨して学校の雰囲気盛り上げている。

<各学科の方針および取組>

学科名	取組の実績・成果・課題
普通科	✓ 進学コースにおいては学習と部活動の両立を軸に、生徒の希望に合わせた学校活動を奨励し、個別の進路指導も行うことができた。キャリアデザインコースにおいては、インターンシップや中国語・韓国語等の特色ある活動を実施し、知見を広めるとともに進路選択の幅を広げる学習活動を展開した。また、新コースである S アカデミーでは共通テストを視野に、これまでの進学コース以上に展開が早く、内容の深い授業を実施し、S グローバルにおいては英語の外部試験を定期的実施しながら着実に英語力を高め、一部の生徒については短期の海外研修を行うこともできた。
食物調理科	✓ 在籍人数に応じ適切な人数のグループを作りながら円滑に調理実習等ができるような工夫を行い、コロナ禍でも安心、安全を十分確保し実習に励んだ。学園祭(レストラン)は中止せざるを得なかったが、例年行っていた保護者対象のお食事会はお弁当作成へと形を変えて実施し一定の満足度を得ることができた。活動が少なくなった一方で専門知識の習得に励み、調理技術とのバランスの取れた専門人材の育成に努めた。
保育福祉科	✓ 学内では専門知識の習得に加え、保育技術、介護技術等の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設との連絡をこまめにとりながら、可能な限り実習を実施し現場における学びの機会を増やすことができていた。
衛生看護科	✓ 新型コロナウイルスの影響により、病院実習が学内実習等に振り替わることも多く、現場での経験をあまり得ることができなかったが、その分学内実習を充実させ、座学にも力を入れることで、准看護師資格試験においては 100%の合格を達成できた。
衛生看護専攻科	✓ 新型コロナウイルスの影響により、病院実習が学内実習等に振り替わることも多く、現場での経験をあまり得ることができなかったが、その分学内実習を充実させ、座学

	にも力を入れた。看護師国家試験においては93%の合格を達成できた。
--	-----------------------------------

(3) 研究活動および教職員の研修

取組の総括	
✓ 「事業計画の充実、達成のため研究活動および研修を実施する」に関して、主にICTに関する研修会等が多く実施され、先生方の興味関心も増してきているようであった。次年度からは校内インフラの整備や先生方への端末貸与が予定されていることもあり、校務での活用を見据え研修への参加も多かった。また、生徒対応に関わるような研修についても関心は高く、研修の機会自体を貴重なものであると先生方自身が感じ始めているので、次年度以降も積極的な研修の実施を計画していきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 校内・校外研修への参加	✓ ICT教育および観点別評価に関する研修会等を校内で実施し、職員の積極的な参加が多く見られた。生徒指導についても、これまでの指導のあり方を確認するとともに、見直すべき点等について意見交換できる場が設けられた。
(2) 他校の授業見学、研修・研究会への参加	✓ 次年度入学生からの一人一台端末の実施に向け、福岡女子商業高校へ訪問を行い、ICT教育の実施状況等を学んだ。また、オンラインでの研修や研究会は様々実施されていたため、適宜、該当職員が参加し知見を深め情報共有を行っていた。
(3) 長崎国際大学および長崎短期大学との合同研究協議会の充実	✓ 専門科目における連携など、現場の先生方の意見交換などは行われているが、研究協議会という名目の具体的な活動には至っていない。今後、テーマの設定等を明確にし、より頻繁な意見交換等がなされることに期待したい。
(4) 本学園の職員としての意識構築および確認	✓ 年度当初の職員会議において、会議資料に掲載し確認をいただくよう伝達を行った。また、創立記念式や学祖追悼式等の行事において資料を配付し、建学の精神を改めて確認するとともに、生徒に伝える場を設けている。

(4) 生徒支援活動

取組の総括	
✓ 「安全で安心な学校環境の構築に努める」に関して、生徒の不安を少しでも軽減できるように専門の人材を配置し、適宜支援を行うことができた。調査の実施等も定期的に行い、生徒の違和感を早期に把握し、対応できるように努めた。年々生徒数が増えてきているが、そのような中でも一人一人を大切に支援していける体制を続けていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) キャリアガイダンスの充実	✓ 進路指導室には就職指導員を1人配置し、協力をいただきながら職場見学やインターンシップの実施を行うなどし、生徒の職業観の育成に努めた。また、グループ内の学校説明会を行い、進学に関する情報提供も行った。
(2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置	✓ 2人のSC(およびSSW)を配置し、毎週定期的にカウンセリングに当たっていただいている。その都度担任等との情報共有も行い、生徒支援に繋げている。
(3) 特別支援教育、道徳教育の充実	✓ 道徳教育に関しては、各学科コースまたは各教科・科目等における計画を行い、様々な場面でその教育がなされるよう取り組みを進めている。特別支援教育については、グループ内の合同研修へ参加するなどし、教育的ニーズの把握や支援のあり方についての理解向上に努めている。
(4) いじめ・体罰防止の徹底	✓ 各学期に1回ずついじめ悩み調査を行い、年に1回体罰調査を行うなどして、実態の把握および防止の徹底に努めた。早期対応につながっていると思うので、今後も継続していきたい。
(5) 課外活動補助	✓ 運動部・文化部における各種大会およびコンクール等の参加補助を行った。さらに大会等への参加補助規定を明確にして、部活動間での平等化を図った。
(6) 学生寮・スクールバスの充実	✓ 若竹寮および野球部寮の運営を学園のグループ会社に業務委託を行い、学校負担の軽減につながった。入学者の増加に伴いスクールバス利用者も増え、路線の確保に困窮しつつ本校の契約ドライバーの協力もあり、全ての利用希望者の要望に応えることができた。スクールバスの19時便において「北部便(吉井方面)」、「南部便(早岐方面)」の運行を始め、部活生および補習受講生のニーズに対応できた。

《部活動・生徒の活動等の主な実績》

大会等名	実績
(1) 第67回全球種私立高等学校ソフトボール選抜大会1部リーグ	✓ 優勝
(2) 第9回高校生「志」小論	✓ 優秀賞(全国4位) 1年S組 庄山 真由

文コンテスト(同志社大学主催)	
(3) 平和へのメッセージ from 知覧 第33回スピーチコンテスト高校生の部	✓ 最優秀賞(全国1位) 3年4組 井手 美優
(4) 第69回「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」中央大会	✓ 法務大臣賞(全国2位)3年4組 井手 美優

(5) 地域連携・国際交流活動

取組の総括	
✓ 「活動を通し視野を広めるとともに、地域および国際社会の一員という認識を深める」に関して、少ない機会ではあったものの普通科の生徒を対象に留学生との交流の機会を設けることができた。Sグローバルコースがスタートしたので、今後はそのコースを中心に国際交流が盛んになればと期待している。また、地域との連携についてはさほどできておらず、しばらくぶりに連携会議を持つことはできたものの、地域の方々も高齢化等が進んでいることもあって、連携した活動に繋げることができなかった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 長崎国際大学・長崎短期大学の留学生との交流会	✓ 長崎国際大学との連携行事である「異文化理解教室」を実施し、中国からの留学生2人と交流を深めることができた。留学生の状況もコロナ以前に戻りつつあると思うので、次年度はさらに様々な国の留学生と交流できることを期待したい。
(2) 姉妹校および韓国的高校との交流	✓ 相手校からの申し出に応じて、修学旅行生等を受け入れ交流会を実施する準備はしているが、コロナ禍のため申し出がなく実施していない。
(3) 地域との合同協議会および交流会の充実	✓ 椎木町との合同会議は7月15日に実施した。新型コロナウイルス感染防止の観点から、交流活動の実施は見送ることとなったが、少しずつ連携の機会が戻ってきている。

(6) 広報および生徒募集活動

取組の総括	
✓ 「本校の魅力を的確に伝えとするとともに、安定した定員充足を目指す」に関して、複数の媒体を活用して本校の魅力の発信を定期的に行うことができていた。特にホームページに関しては、リニューアルをしてから記事をアップするまでの手間が大きく削減されたこともあり、これまで以上の頻度で情報発信することができていた。オープンスクールをはじめとした募集関係の行事では、これまでも、中学生やその保護者また地域に寄り添った手作りの内容を提供し好評を得てきたので、これから準備には十分力を注ぎ、さらには生徒も表に立ってアピールしていけるようなものを作っていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) パンフレットおよびホームページの充実	✓ パンフレットについては、昨年度からの伝わりやすいデザインに加え中身の充実を図り、より情報を得やすいような冊子になるよう工夫した。ホームページについてはリニューアル後、オープンスクール等の大きな行事での活用はもちろん、日頃の学校活動に関するこまめな情報発信を心がけた。専攻科についてはホームページの活用がほとんどできていなかったため、次年度は節目で情報発信ができるように準備を進めていく。
(2) オープンスクール、入試相談会、入試説明会の充実	✓ 今年度は例年通りの7月、8月にオープンスクールを実施し、多くの参加者を受け入れることができた。内容に関しては日によって少しずつ変化をつけるなど、複数回参加する生徒にもその都度新しい体験をしてもらえるような工夫を凝らした。入試相談会や入試説明会も活発な質問、相談がなされ、生徒募集のヒントとなる情報も多く得られた。
(3) 中学校訪問の強化	✓ オープンスクールの案内やパンフレットの配布のため、本校生徒の出身中学校や受験の実績がある中学校などへ訪問を行った。要請に応じて離島地区などへの訪問にも対応できるよう準備は行っている。
(4) 幼小中高連携・高大連携の推進	✓ 生徒および学生どうしの連携はコロナ禍ということもあり計画実施が難しいが、先生方や一部の学生に来ていただくことで、出前授業や学科コースの説明会という形の連携を行うことはできた。
(5) 地域住民との交流・連	✓ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、交流活動は見送った。清掃活動という形で

携	地域に貢献する活動は実施することができた。
(6) 学業(グループ内特待)・スポーツ特待生の確保強化	✓ それぞれの部の核となって活躍できる生徒について県内外を問わず募集を行い、各部数人ずつ確保することができた。また、学業特待生についても入試結果の芳しい生徒を一定数確保することができている。
(7) 入学試験の検討・分析	✓ 実施日程について、今年度は1月の3～4週目となっていたが、細かい日にちについては私学同士の日程が重なることを回避するよう学校間で連絡し合い調整している。また、普通科Sコース等については、今後出願の基準を検討していく必要は残っている。

(7) 学園内連携の促進

取組の総括	
✓ 「九州文化学園グループのさらなる強みを構築するために、内部進学にかかる委員会やグループ内の一貫教育についての検討委員会等に参加する」に関して、様々な連携会議に参加し率直な意見交換を行うことができている。ただ、会議の結果を受けて次の行動に繋げることができているものもあれば、話をするだけにとどまっているものもあるので、会議を行うことが目的にならないように、会議の形はコンパクトに収めて、具体的に次の行動に繋げられるような実効性のある会議のあり方が必要であると感じている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学園内募集担当者会議	✓ 各部門の状況報告等を行い、部門を越えて協力できることなどがないか協議を重ねた。昨年度も実施したが、高校から各地域へ出向いての説明会に短大の職員も同行して簡単な説明会を行いたいとのことであったので、2地区において高校と短大を合わせた説明会を実施した。
(2) 食物分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学率を上げるための、各部門の課題や他部門へ期待することなどの情報共有および各部門とのイベントや合同授業企画等を話し合った。合わせて各部門の活動実施報告(オープンキャンパス等)を行った。
(3) 福祉分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学者数の増加に繋げるための具体的な連携の検討 ✓ 高大連携授業の実施に向けた具体的な内容の検討 ✓ 卒業生による講演会の開催に向けた協議 ✓ 在校生の進路希望調査結果報告卒業生(内部進学者)の状況報告と連絡協議
(4) 各部門の英語科職員の合同研究協議会	✓ 各部門の取り組みについて報告 ✓ 今後の部門間の連携のあり方や、グループ内での英語指導の縦の流れについて検討
(5) SDGs に関する連絡協議会	✓ 3月のSDGs イベント参加に向けた準備および各部門で進めているSDGsに関する取り組みの進捗報告

(8) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 「これまでの活動とSDGsの関連性を知り、これからの活動にSDGsを意識する」に関して、その目標の通りこれまで生徒を第一に行ってきた本校の教育が、今大きく叫ばれているSDGsの目標と繋がりを持っていることを確認することができている。SDGsの目標を達成するために本校の教育を合わせるといことでは決していないが、意識ができれば学びの幅が広がることにはなるので、授業の中だけではなく、学校活動の随所にちょっとした配慮も織り交ぜながら、SDGsの広がりとともに本校の活動も魅力を増していけるようにしていきたい。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) 地域清掃活動の実施	✓ 12月3日(土)に学校周辺地域の清掃活動を実施した。	11
(2) 食材の有効活用	✓ 3月のグループ内で行われた推進イベントにおいて、食物調理科の有志メンバーが「もったいない食材(バナナ)」を活用したお菓子を作り販売およびその過程の発表を行った。	12、15
(3) 教育内容および環境の充実	✓ スクールバスや寮を完備し、多方面からの通学を可能として、あらゆる生徒に本校での学びの機会を与えている。また、授業内容に工夫を凝らし、課題等を適切に課すことで、課程でも十分な内容の学習ができるよう指導を行っている。	4
(4) 健康的な活動の奨励	✓ コロナ禍という事もあり、日頃の健康観察を欠かさないように心がけ、無理を控え、その分健康であるときには活発に学校活動がなされるよう声かけ等を行った。	3
(5) ジェンダー平等の実現	✓ 混合名簿の使用や体操服、ジャージを男女統一したデザインに変更し使用するなどしている。	5
(6) 働きがいのある労働環境	✓ 昨年度まで隔週で設定していた土曜の生徒登校日を、長期休暇中の登	8

境の促進	校日に振り替えることで、職員が土曜日に部活動や研修を行えるまたは休暇を取れるようになるなど、各自の状況に合わせた働き方のできる行事予定等を作成した。	
------	--	--

(9) 管理運営

取組の総括	
✓ 「コンプライアンスに即した学校運営と経営」に関して、規定および規則に即した予算の執行ができています。財務実績については、削減努力が今後にも必要な科目がある。新型コロナウイルス感染拡大において情報収集、感染状況に応じたクラス運営等コンプライアンスに即した運営ができた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 収支率の目標達成	✓ 8%の目標に対し 4.9%の実績であった。奨学費の圧縮を目指す(9.6%→8.0%)。
(2) 課外活動への取組みを推奨	✓ スクールバス 19 時発を増便し、活動時間の確保に努めた。
(3) 適切な経費支出	✓ 部活動補助支出において、規定の見直しを行い公平な経費の支出が実行できた。
(4) 教職員の危機管理意識醸成	✓ 感染症、自然災害等の緊急情報の把握、共有ができていた。
(5) 校内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 情報機器(タブレット配布)およびネットワーク環境(全館無線 LAN 機器の設置)の整備ができた。

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 学校保健委員会	✓ 3 月 2 日(木)
(2) 衛生委員会	✓ 11 月 29 日(火)対面開催 ✓ 2 月 28 日(火)対面開催 ※それ以外の月については書面開催
(3) 情報セキュリティ委員会	✓ 実施できていない

(10) 施設整備等

取組の総括	
✓ 「成長に合わせた整備および投資を行う」に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン授業、タブレットを使った学習支援の導入は急務であった。設備の充実度において ICT 教育の推進は優先度が高く、本校としても機器の導入と並行して設備工事を行い年度内の導入を達成した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経年劣化に伴う危険個所の早期発見および早期対応	✓ 年度中のエレベーター点検において、吊下げワイヤーの劣化消耗が指摘され、早期対応により事故および運転停止に至らずに済んだ。調理実習室・若竹寮のエアコンの不具合が頻繁に発生したため、基板交換ならびに室内機清掃、寮内は機器の取替えに至った。
(2) ICT 教育推進	✓ 80 台の iPad を導入し、新館多目的教室での使用を中心に、各授業で活用した。また、12 月以降は S コースへ持ち帰りを含めた試験的貸出を実施し、課題の配信やリモートによる補習などを行った。次年度からは新入生全員に端末を持たせられるよう準備するとともに、wi-fi 環境等のインフラ部分の整備も年度末に実施した。
(3) 職員向け業務用端末を貸与	✓ 年度内の貸与が間に合わず、新年度に全員貸与する予定。

(11) その他

取組の総括	
✓ 「保護者および同窓会との連携を図る」に関しては、コロナ禍のため活動が制限および縮小されているものが多く、あまり活発な活動ができていないのが現状である。今後コロナの状況も緩和されていく方向にあるため、社会的情勢に合わせ、様々な活動を再開し、保護者、同窓生の協力を得ながら本校活動のさらなる活発化を図りたいと考えている。また、この機会にこれまでの連携のあり方を見直し、お互いにとってさらにより活動がなされていくよう検討を重ねていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 同窓会との連携	✓ コロナ禍により行事等も縮小、中止となる中、学校と同窓会、および会員同士の連絡が少なくなっている現状にある。今後、同窓会会長、副会長との連絡を密に

	し、会のあり方や活動について検討を重ねていきたい。
(2) 保護者との連携	✓ 夏期休暇中の補習および補充授業が行われている日の午後等を三者面談の時間として設定しており、各クラス保護者との連絡を取りながら計画、実施している。学校行事については、コロナ禍のため実施自体難しくなっているが、実施できるものについても教職員と生徒だけのような限定的な実施となっていることが多く、保護者の方々への参加案内はほとんどできていない。今後状況に合わせて、案内の可否を検討していく。

4.九州文化学園中学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

2) 1年間の総括と評価

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらではあったが、運動会や学習発表会等の学校行事、オープンスクール等の募集活動は中止することなく計画通りに実施できた。唯一、カナダへの修学旅行は、国内での英語研修・修学旅行に変更して実施した。 本校の教育の3本の柱である英語教育・IT教育・日本文化教育については、十分な時間をかけ、環境も整え提供することができている。充実したICT環境を生かし、海外とのオンライン交流も積極的に行った。 現状に満足することなく、計画的に職員の研修を実施してきた。学力調査(県・全国・標準学力)の結果も分析し、各校種および全教科共通の課題を設定してその課題改善に努めてきた。11月には授業公開(研究発表会)を主催した。 SDGsについては、常に意識し関連付けをすることで、生徒に持続可能な社会をつくる一員としての自覚を持たせた。また、年度末にその取り組みをまとめて発表することで、プレゼンテーション力の向上にも繋がった。 今後は定員40人の充足に向けて、知名度を高めるための広報活動や情報発信、小学校や学習塾との良好な関係性を構築すべく様々な方策を打ち出す必要がある。
--

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を取得させ、教員としての資質の向上に努めた。また、イマージョン教育の実践に向けてグローバル研修を実施し、教職員の英語力の水準向上に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 英語教育においては引き続き生徒個々の能力に応じた指導を行い、英検取得の成果に繋がっている。また、ITを活用した教育では、遠隔授業やAIドリル等による家庭学習を充実させた。
戦略Ⅲ	✓ 佐世保市の姉妹都市等交流事業を活用し、オーストラリアや中国の同世代との交流ができた。 ✓ 地元企業OB会のグラウンドゴルフ大会の実施のためにグラウンドの貸し出しや、よさこいチームへの体育館貸し出しを実施し、地域振興に寄与した。
戦略Ⅳ	✓ 校内ネットワークやICT機器類の運用はおおむね良好に行えている。補助金を活用し、AIドリルを整備することが出来た。 ✓ 安全・防犯対策の一つとして、校門付近の防犯カメラを1台追加設置した。
戦略Ⅴ	✓ 2回のオープンスクール実施に加え、地域イベントに学校ブースを設ける等本校の魅力発信に努めた。結果、受験者増に繋がったが、県立中学校との併願が多く、入学者の大幅増とはならなかった。今後は併願であっても本校が選ばれるよう、本校にしかない魅力を前面に打ち出し入学者増へと繋げる。 ✓ 各学校行事においてプレスリリースを継続的に発信し続けることでメディアリレーションを構築し、本校の特色発信に繋がっている。
戦略Ⅵ	✓ 各種補助金を積極的に活用し、支出を最小限に努めているが、経常収支赤字の低減には、定員の充足とさらなる自助努力が何よりも必要である。
学園内の連携促進	✓ 二期生が24人卒業し、うち7人(29.1%)が九州文化学園高等学校に進学した。 ✓ サマースクールでは、長崎国際大学と連携し、英語の交流学习、薬剤師体験、茶道の校外学習を実施した。
付帯計画と課題	✓ 児童生徒数増に伴う施設の拡充を法人事務局と協議した。

4) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

区分	人数	備考
中学校	24人	
卒業者の累計	43人	

【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
実用英語技能検定(英検)	延べ55人	【準1級】2人、【2級】3人、【準2級】12人、

		【3級】20人、【4級】10人、【5級】8人
実用数学技能検定(数検)	延べ26人	【2級】1人、【準2級】2人、【3級】5人、 【4級】7人、【5級】11人

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月8日(金)	
入学式	4月9日(土)	
運動会	5月22日(土)	
第1回オープンスクール	7月9日(土)	
サマースクール	8月1日(月) ～8月5日(金) 8月22日(月) ～8月26日(木)	
第2回オープンスクール	8月6日(土)	
ものづくり工作教室	8月10日(水)	
修学旅行(英語研修)	8月24日(水) ～8月26日(金)	
第3回わくわくフェスティバル	8月27日(土)	中央公園にてブース出店 アリロ体験実施
修学旅行	9月13日(火) ～9月16日(金)	
入試説明会	10月1日(土)	
第1回受験対策講座	10月22日(土)	
学習発表会	10月30日(日)	
第2回受験対策講座	11月19日(土)	
個別相談会	11月24日(木) ～12月23日(金)	
学祖追悼式	1月30日(月)	
卒業式	3月12日(日)	
エキノワ マーケット	3月19日(日)	エキマチ1丁目佐世保にてブース出店 英語体験を実施
修了式	3月24日(金)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
第1次適性検査	12月3日(土)	
第2次適性検査	2月4日(土)	
編入試験	2月11日(土)	

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な教学運営方針

✓ 探求心、思考力、コミュニケーション能力、思いやりや協調性を育て、国内外との連携を強化し、将来世界へはばたき、よりよい国際社会を築く担い手となる人材を育成する。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 学習機会と学力の保証を根底に、グローバル人材の育成の実現のため本校の教育の3本の柱である英語、IT、日本文化教育を随所に取り入れ、教科の横断・連携を意図した学習活動を実施した。 ✓ IT教育によって児童生徒の情報活用能力をよりブラッシュアップし、これまでの伝統的教育手法と今日的ICT効果教育のBest Mixを図りながら、児童生徒の一人ひとりの学力向上に繋げた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 英語教育	✓ 週6時間の英語の授業を実施した。7月・12月にはイマージョンデイを設け、より英語に触れる機会を創出した。また、習熟度別に教室を分け、個々のレベルに合わせた授業を展開した。

(2) プログラミング教育	✓ 外部非常勤講師の指導のもと、年間 30 時間の事業を実施した。コンピュータの基本的操作だけでなく、情報モラルの育成やプレゼンテーション力を高めた。
(3) ICT 機器の活用	✓ 授業だけに限らず、課題の提出や自宅学習で AI ドリルを活用することでスキルを習得できた。
(4) 茶道教育	✓ 学年に応じて茶道の礼法・作法を体得し、10 月の学習発表会では鎮信流のおもてなし「3 年間の学び」として発表した。また、3 年生においては観月の茶会を実施し、保護者に対してお点前を披露した。
(5) 探求学習	✓ 進路保証のための学習に留まらず、英検や数検対策も引き続き実施し、検定合格に繋がった。 ✓ 1・2 年生においては、SDGs に関連した学習を行った。1 年生は「学校の中の SDGs」をテーマに日常生活のどの様なところに SDGs に関連したものがあるか探す授業を通して SDGs を身近に感じ、2 年生は「私たちの SDGs 身の回りに潜む課題」をテーマに、生徒一人ひとりが活動を行った。来年度の SDGs アイデアコンテストへの出展を見据え、3D プリンターを用いて「ゴミを捨てやすいゴミ箱」を制作するなど、試行錯誤しながら自分のアイデアを実際に形にした。

(3) 研究活動および教職員の研修

取組の総括	
✓ 本校経営目標の特性の実現のため、多岐にわたる研修を計画的に実施した。その成果の一つとして、10 月の全日本教育工学研究協議会全国大会での発表や、11 月の授業公開を実施することが出来た。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) ICT 活用研修	✓ 文部科学省 ICT 活用教育アドバイザーの福田孝義氏による研修を実施。10 月には第 48 回全日本教育工学研究協議会全国大会(愛知・春日井大会)において、「GIGA スクール時代における AI ドリルを活用した学習支援について」の題目にて本校の取り組みを発表した。また、11 月には ICT を活用した授業公開を実施し、他の小学校や中学校教員等と授業研究を行った。
(2) グローバル研修	✓ 児童生徒がより英語に触れる環境を作るためにクラスルーム・イングリッシュの研修を実施し、イメージ教育の実践に向けて教職員の英語力の水準向上を図った。
(3) 若手研修	✓ 採用 2 年目の職員については、引き続き公立の初任者研修と同様の内容および私学の教員に求められる資質について実施し、教員としての基礎的・基盤的な資質能力の育成に努めた。
(4) 各種研修会への参加	✓ 一般財団法人日本私学教育研究所が主催する私立学校初任者研修へ参加した。私立学校教員としての心構えを体得し、実践的指導力の育成に励んだ。

(4) 生徒支援活動

取組の総括	
✓ 安心・安定的な学校生活の保障のための基盤づくりに取り組み、課題解決のための協議や研修、情報共有を行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 給食施設	✓ 南風崎 MG レジデンスへ業務委託し、安定した給食の提供に努める中で、課題について解決のための協議を重ねた。
(2) スクールバス	✓ 生徒数増に伴い、中型バスを 1 台購入し、4 路線から 5 路線に増やし運行した。 ✓ 改めて安全運転の意識の向上のためにドライバーの研修を実施した。また、児童生徒の降ろし忘れ等が無いようドライバーの「乗務日誌・日常点検表」に新たにチェック項目を増やした。
(3) 多様な児童生徒の支援	✓ スクールカウンセラーによるケーススタディや、「i-check」を活用した研修を実施し、職員間の児童生徒の情報を共有するとともに多様な児童生徒への対応力を高めた。

(5) 地域連携・国際交流活動

取組の総括	
✓ 県や市が実施している事業等も活用し、実践的な学びを広く提供することが出来た。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 地域と連携した教育活動	✓ 統計的手法を用いた課題解決能力を育むため「ながさき県政出前講座」を活用し、データサイエンスについて学んだ。データの的確な読み取りや有効な活用の方法など、基本的な統計の知識を身に付けさせることができた。

	✓ 夏休み期間中に実施しているサマースクールにおいて、有名ホテルで勤務した後、ホテルコンサルタントとして活躍されている方を招いてビジネスマナーを2日間にわたり実施した。
(2) 海外校との交流活動	✓ 佐世保市が実施している姉妹都市等交流事業の一環として、豪州コフスハーバー市との中学生同士のオンライン交流会を実施した。加えて、3月には同じく姉妹都市の中国・廈門市を含む3か国のオンライン交流を実施した。同年代の生徒同士が関わり、異文化に触れ、日々の学習の成果を発揮できたことは自信につながり、更なる学習意欲を促すことができた。

(6) 広報および生徒募集活動

取組の総括	
✓ 定員充足のために広報活動を行った。具体的にはオープンスクールを2回実施したが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なり、参加者が減少となった。コロナ禍で学校の情報発信を充実するためにホームページを一新し、日々の様子を受検対象者に届くように努力した。募集追加イベントとして、夏休みにもものづくり工作教室、クリスマスに親子参加型の英語レッスンを実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 生徒募集活動	✓ オープンスクール等のイベント毎に小学校や学習塾へ訪問し、本校の知名度アップや集客に力を入れた。 ✓ 地域イベントへの出展の機会も生かし、8月・3月に本校ブースで募集活動を実施した。
(2) 広報活動	✓ ホームページを一新し、News & Topics に日々様子やイベント情報を頻繁に更新して情報発信に努めた。また、イベント毎にプレスリリースを出し、取材を受けることで本校のアピールに繋がった。課題としては、ホームページ掲載が遅れることがあるため、情報が新しいうちに発信することが挙げられる。
(3) オープンスクール、入試説明会、個別相談会	✓ コロナ禍の中、感染症対策を講じて実施した。2度のオープンスクールの開催だけでなく、8月にはものづくり工作教室も開催し、学校の魅力を直に感じてもらった。

(7) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 児童・生徒への多種多様な学びの機会の創出のため、学園内の連携は積極的に行った。 ✓ 各担当者が各種会議の結果や各部門の担当者とのやり取りを報告することで情報を共有し、更なる連携促進を図った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs に関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、3月17日のSDGs記念イベントに向けて準備を行った。連絡協議会前後には、運営委員会等を通して校内で情報を共有した。
(2) 学園内募集担当者会議	✓ 各部門の取組等を知ることができ、大変有意義であった。九州文化学園高等学校の担当者との情報共有や連携強化を図り、定員充足に向けて募集活動を行っていく。
(3) 学園内の各部門との連携	✓ 1年生を対象にキャリア教育の一環として長崎国際大学 社会福祉学科と連携し、学科紹介を実施した。
(4) 他部門との合同研修	✓ 九州文化学園高等学校の英語科との研修を実施した。授業研究を行い、更なる英語教育の充実へ向けて活発な意見交換がなされた。

(8) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 常にすべてのことにSDGsの意識を持った取り組みを実施すべく、ESDに基づいた授業づくりや各種行事にSDGs目標を掲げ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることの自覚を促した。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) ESD に基づいた授業	✓ 問題解決的な学習を適切に位置付け、探求的な学習過程を重視し、生徒を中心とした主体的な学びの機会を充実させ、体験や活動を取り入れた。また、知識・理解に留まらず、学びを活かし、様々な問題を自分の問題として捉えさせ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることを自覚できるよう授業を行った。	4
(2) 行事にSDGs目標を掲	✓ 各専門委員会において、毎月の活動内容が17の目標のうちどの目標に	

げる	当てはまるかを照らし合わせ決定し、月目標を生徒集会にて全校で共有した。 ✓ いじめ反対の意思表示としてピンクシャツ運動を実施した。「KBG Pink Shirt Week～広がれ、いじめ反対の思い～」として、1週間ピンクのシャツの着用やピンク色の物を身に付け、いじめ反対の意識を高めた。	10、16
(3) 資源の節約	✓ 節電、節水、ペーパー削減に努めた。	12

(9) 管理運営

取組の総括		
✓ 適正な予算執行に努めるべく無駄を省いた。施設の不具合箇所等については可能な限り自力で修繕を試み、修繕費を抑えた。設備の不備等については、他所から借用できるものは借用する等して購入費用を抑えた。 ✓ 職員間の情報共有を密にし、業務の円滑な調整に努めた。		
項目	取組の実績・成果・課題	
(1) 予算執行	✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めたが、支出が収入を大きく上回っているため、さらに無駄を省くとともに教職員一体となって教育の質を上げ、児童生徒増に繋げ、収入増を目指さなければならない。	
(2) 施設・設備・備品管理	✓ 月に1度の安全点検を実施し状況把握に努め、優先度の高いものから修繕を試みているが、不具合箇所が多く、今後課題を残している。	
(3) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 運営委員会や職員会議を通じて情報の共有を図った。また、生徒指導部会を定期的に開催し、生徒理解に努めた。	

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 学校保健委員会	✓ 2月1日(水)開催
(2) 情報セキュリティ委員会	✓ 2月6日(月)開催

(10) 施設整備等

取組の総括		
✓ 根本的に施設が老朽化していることもあり、常に修繕を要する状況の中、職員間で知恵を出し合い自らで修繕に励んだ。また、何事も早期に対応することで問題が大きくなる前に対処することができた。		
項目	取組の実績・成果・課題	
(1) 給食施設の新規体制づくり	✓ 南風崎 MG レジデンスに業務委託し、安定した給食提供体制を構築した。	
(2) 施設設備の管理	✓ 月に1度の安全点検を実施し、不具合箇所の把握と修繕に努めた。	

(11) その他

取組の総括		
✓ 保護者とのさらなる連携の強化を目指し、アンケート調査を2回実施した。		
項目	取組の実績・成果・課題	
(1) 保護者との連携	✓ メール連絡システムやクラウド型学習支援アプリ「ロイロノート」も活用し、情報を密にした。	

5.九州文化学園小学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

2) 1年間の総括と評価

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらではあったが、運動会や学習発表会等の学校行事、オープンスクール等の募集活動は中止することなく計画通りに実施できた。特に、充実したICT環境によって、コロナ禍でも学びを止めることなく遠隔授業ができたことは、他校に先んじた取り組みが引き続き功を奏している。 本校の教育の3本の柱である英語教育・IT教育・日本文化教育については、十分な時間をかけ、環境も整え提供することができている。 現状に満足することなく、計画的に職員の研修を実施してきた。学力調査(県・全国・標準学力)の結果も分析し、各校種および全教科共通の課題を設定してその課題改善に努めてきた。11月には授業公開(研究発表会)を主催した。 SDGsについては、常に意識し関連付けをすることで、生徒に持続可能な社会をつくる一員としての自覚を持たせた。また、年度末にその取り組みをまとめて発表することで、プレゼンテーション力の向上にも繋がった。 今後は定員40人の充足に向けて、知名度を高めるための広報活動や情報発信、小学校や学習塾との良好な関係性を構築すべく様々な方策を打ち出す必要がある。
--

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を取得させ、教員としての資質の向上に努めた。また、イマージョン教育の実践に向けてグローバル研修を実施し、教職員の英語力の水準向上に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 英語教育においては引き続き生徒個々の能力に応じた指導を行い、英検取得の成果に繋がっている。また、ITを活用した教育では、遠隔授業やAIドリル等による家庭学習を充実させた。
戦略Ⅲ	✓ 米軍佐世保基地内にある Sasebo Elementary School との交流を実施した。 ✓ 地元企業 OB 会のグラウンドゴルフ大会の実施のためにグラウンドの貸し出しや、よさこいチームへの体育館貸し出しを実施し、地域振興に寄与した。
戦略Ⅳ	✓ 校内ネットワークやICT機器類の運用はおおむね良好に行えている。補助金を活用し、AIドリルを整備することが出来た。 ✓ 安全・防犯対策の一つとして、校門付近の防犯カメラを1台追加設置した。
戦略Ⅴ	✓ 2回のオープンスクール実施に加え、親子参加型のイベント・クリスマス フェスティバルの開催や地域イベントに学校ブースを設ける等本校の魅力発信に努めたが、受検者数の減少となった。 ✓ 各学校行事においてプレスリリースを継続的に発信し続けることでメディアリレーションを構築し、本校の特色発信に繋がっている。
戦略Ⅵ	✓ 各種補助金を積極的に活用し、支出を最小限に努めているが、経常収支赤字の低減には、定員の充足とさらなる自助努力が何よりも必要である。
学園内の連携促進	✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園に対して、英語の授業を春、ハロウィン、クリスマスの時期に計6回実施した。また、長崎短期大学学生による本校児童への絵本の読み聞かせ、長崎国際大学が主催する波佐見町のお茶会に児童が参加するなど学園内の連携を積極的に行った。
付帯計画と課題	✓ 児童生徒数増に伴う施設の拡充を法人事務局と協議した。

4) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

区分	人数	備考
小学校	—	学年進行中のため卒業者なし

【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
実用英語技能検定(英検)	延べ28人	【準2級】1人、【3級】2人、【4級】10人、【5級】15人
実用数学技能検定(数検)	延べ63人	【4級】1人、【6級】1人、【7級】4人、

		【8級】11人、【9級】13人、【10級】10人 【11級】23人
--	--	--------------------------------------

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月8日(金)	
入学式	4月9日(土)	
運動会	5月22日(土)	
第1回オープンスクール	7月9日(土)	
第2回オープンスクール	8月6日(土)	
第3回わくわくフェスティバル	8月27日(土)	中央公園にてブース出店 アリロ体験実施
入試説明会	10月1日(土)	
学習発表会	10月30日(日)	
個別相談会	11月24日(木) ～12月23日(金)	
クリスマス フェスティバル	12月17日(土)	
学祖追悼式	1月30日(月)	
卒業式	3月12日(日)	
エキノワ マーケット	3月19日(日)	エキマチ1丁目佐世保にてブース出店 英語体験を実施
修了式	3月24日(金)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
第1次適性検査	11月5日(土)	
第2次適性検査	1月21日(土)	
編入試験	2月5日(日)	

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な教学運営方針

✓ 思いやり、協調性、コミュニケーション能力を学校生活を通じて育てる。 ✓ 思考力、探求心を高める多様な教育活動を展開する。 ✓ 将来世界へはばたき、よりよい国際社会を築く担い手となる人材への基礎的な力を育成する。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 学習機会と学力の保証を根底に、グローバル人材の育成の実現のため本校の教育の3本の柱である英語、IT、日本文化教育を随所に取り入れ、教科の横断・連携を意図した学習活動を実施した。 ✓ IT教育によって児童生徒の情報活用能力をよりブラッシュアップし、これまでの伝統的教育手法と今日的ICT効果教育のBest Mixを図りながら、児童生徒の一人一人の学力向上に繋げた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 英語教育	✓ 小学1・2・3年生は週4時間、4年生は週5時間の英語の授業を実施した。7月・12月にはイマージョンデーを設け、より英語に触れる機会を創出した。
(2) プログラミング教育	✓ 外部非常勤講師の指導のもと、年間30時間の事業を実施した。コンピュータの基本的操作だけでなく、情報モラルの育成やプレゼンテーション力を高めた。
(3) ICT機器の活用	✓ 授業だけに限らず、課題の提出や自宅学習でAIドリルを活用することでスキルを習得できた。
(4) 茶道教育	✓ 学年に応じて茶道の礼法・作法を体得し、波佐見町歴史文化交流館での茶会に参加した。授業参観において礼法を披露する等、実践の場を設けた。
(5) 探求学習	✓ 小学4年児童の探求学習を実施し、教科指導だけでなく、ビジョントレーニングや右脳トレーニングなど多岐にわたる学びを提供した。

(3) 研究活動および教職員の研修

取組の総括	
✓ 本校経営目標の特性の実現のため、多岐にわたる研修を計画的に実施した。その成果の一つとして、10月の全日本教育工学研究協議会全国大会での発表や、11月の授業公開を実施することが出来た。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) ICT活用研修	✓ 文部科学省 ICT活用教育アドバイザーの福田孝義氏による研修を実施。10月には第48回全日本教育工学研究協議会全国大会(愛知・春日井大会)において、「GIGAスクール時代におけるAIドリルを活用した学習支援について」の題目にて本校の取り組みを発表した。また、11月にはICTを活用した授業公開を実施し、他の小学校や中学校教員等と授業研究を行った。
(2) 若手研修	✓ 採用1年目の職員については、公立の初任者研修と同様の内容および私学の教員に求められる資質について実施し、教員としての基礎的・基盤的な資質能力の育成に努めた。
(3) 各種研修会への参加	✓ 福岡雙葉小学校の授業公開や長崎精道小学校の授業公開・英語暗唱大会視察など、積極的に他校に学んだ。

(4) 児童支援活動

取組の総括	
✓ 安心・安定的な学校生活の保障のための基盤づくりに取り組み、課題解決のための協議や研修、情報共有を行った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 給食施設	✓ 南風崎 MG レジデンスへ業務委託し、安定した給食の提供に努める中で、課題について解決のための協議を重ねた。
(2) スクールバス	✓ 生徒数増に伴い、中型バスを1台購入し、4路線から5路線に増やし運行した。 ✓ 改めて安全運転の意識の向上のためにドライバーの研修を実施した。また、児童生徒の降ろし忘れ等が無いようドライバーの「乗務日誌・日常点検表」に新たにチェック項目を増やした。
(3) 多様な児童生徒の支援	✓ スクールカウンセラーによるケーススタディや、「i-check」を活用した研修を実施し、職員間の児童生徒の情報を共有するとともに多様な児童生徒への対応力を高めた。

(5) 地域連携・国際交流活動

取組の総括	
✓ 移動動物園やフラワーアレンジメント教室等、実践的な学びを広く展開した。また、近隣の小学校にて出前授業を実施することで地域の学校とも連携し、本校の学びを提供することができた。米軍基地がある佐世保の地域特性を活かし、Sasebo Elementary School との交流プログラムも実施し、日頃の英語教育の実践の場となった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 地域と連携した教育活動	✓ 1年生の生活科の授業にて、「森きらら」より移動動物園を実施した。小動物との触れ合いを通して命の大切さを学んだ。加えて、給食の野菜くずを動物園の飼料として寄付することでSDGsの食品ロス削減についても学ぶことができた。 ✓ 3年生においては、県内生花商組合によるフラワーアレンジメント教室を実施した。県内花きの産地等を学び、花きに触れることで豊かな心を育むことができた。
(2) 国内校との交流活動	✓ 佐世保市立山手小学校でICT(プログラミング)の出前授業を実施する等、近隣学校のプログラミング的思考の向上に寄与した。
(3) 海外校との交流活動	✓ 米軍佐世保基地内にある Sasebo Elementary School との交流プログラムを実施し、日頃の英語教育の実践の場となり、更なる学習意欲を促すことができた。

(6) 広報および児童募集活動

取組の総括	
✓ 定員充足のために広報活動を行った。具体的にはオープンスクールを2回実施したが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なり、参加者が減少となった。コロナ禍で学校の情報発信を充実するためにホームページを一新し、日々の様子を受検対象者に届くように努力した。募集追加イベントとして、夏休みにものづくり工作教室、クリスマスに親子参加型の英語レッスンを実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 生徒募集活動	✓ オープンスクール等のイベント毎に保育園・幼稚園等を訪問し、本校の知名度アップや集客に力を入れた。

(2) 広報活動	✓ ホームページを一新し、News & Topics に日々の様子やイベント情報を頻繁に更新して情報発信に努めた。また、イベント毎にプレスリリースを出し、取材を受けることで本校のアピールに繋がった。課題としては、ホームページ掲載が遅れることがあるため、情報が新しいうちに発信することが挙げられる。
(3) オープンスクール、入試説明会、個別相談会	✓ コロナ禍の中、感染症対策を講じて実施した。2度のオープンスクールの開催だけでなく、12月には親子参加型のイベント、クリスマス フェスティバルを開催し、学校の魅力を直に感じてもらった。

(7) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 児童・生徒への多種多様な学びの機会の創出のため、学園内の連携は積極的に行った。 ✓ 各担当者が各種会議の結果や各部門の担当者とのやり取りを報告することで情報を共有し、更なる連携促進を図った。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs に関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、3月17日のSDGs記念イベントに向けて準備を行った。連絡協議会前後には、運営委員会等を通して校内で情報を共有した。
(2) 学園内募集担当者会議	✓ 各部門の取組等を知ることができ、大変有意義であった。認定こども園九州文化学園幼稚園担当者との情報共有や連携強化を図り、小学校の児童増に繋げたい。
(3) 学園内の各部門との連携	✓ 1年生においては、「九文ミニまつり」として九州文化学園幼稚園との交流を実施した。日本文化教育で学んでいる、「おもてなしの心」と「相手を思いやる心」の実践の場となった。 ✓ 4年生を対象に食育の一環として長崎国際大学 健康栄養学科と連携した災害食栄養教育や、社会福祉学科と連携した高齢者の疑似体験を実施した。

(8) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 常にすべてのことにSDGsの意識を持った取り組みを実施すべく、ESDに基づいた授業づくりや各種行事にSDGs目標を掲げ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることの自覚を促した。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) ESD に基づいた授業	✓ 問題解決的な学習を適切に位置付け、探求的な学習過程を重視し、児童を中心とした主体的な学びの機会を充実させ、体験や活動を取り入れた。また、知識・理解に留まらず、学びを活かし、様々な問題を自分の問題として捉えさせ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることを自覚できるように授業を実施した。	4
(2) SDGs 理解促進	✓ 給食の調理の際に出た野菜の皮や子供たちが食べたみかんの皮を肥料にした。また、「ごちそうさまカレンダー」を作成し、給食の残飯をなくす活動も実施した。 ✓ いじめ反対の意思表示としてピンクシャツ運動を実施した。「KBG Pink Shirt Week～広がれ、いじめ反対の思い～」として、1週間ピンクのシャツの着用やピンク色の物を身に付け、いじめ反対の意識を高めた。 ✓ 九州電力・九電産業による出前授業を実施した。模型や実験を通して電気をつくる仕組みや送電方法を学ぶことができた。	12 10、16 3、4
(3) 資源の節約	✓ 節電、節水、ペーパー削減に努めた。	12

(9) 管理運営

取組の総括	
✓ 適正な予算執行に努めるべく無駄を省いた。施設の不具合箇所等については可能な限り自力で修繕を試み、修繕費を抑えた。設備の不備等については、他所から借用できるものは借用する等して購入費用を抑えた。 ✓ 職員間の情報共有を蜜にし、業務の円滑な調整に努めた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 予算執行	✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めたが、支出が収入を大きく上回っているため、さらに無駄を省くとともに教職員一体となって教育の質を上げ、児童生徒増に繋げ、収

	入増を目指さなければならない。
(2) 施設・設備・備品管理	✓ 月に1度の安全点検を実施し状況把握に努め、優先度の高いものから修繕を試みているが、不具合箇所が多く、今後課題を残している。
(3) 学内組織や構成員間の 情報伝達・共有の円滑化	✓ 運営委員会や職員会議を通じて情報の共有を図った。また、小学校部会や生徒指導部会、給食委員会を定期的に開催し、児童理解に努めた。

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 学校保健委員会	✓ 2月1日(水)開催
(2) 情報セキュリティ委員会	✓ 2月6日(月)開催

(10) 施設整備等

取組の総括	
✓ 根本的に施設が老朽化していることもあり、常に修繕を要する状況の中、職員間で知恵を出し合い自らで修繕に励んだ。また、何事も早期に対応することで問題が大きくなる前に対処することができた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 給食施設の新規体制づくり	✓ 南風崎 MG レジデンスに業務委託し、安定した給食提供体制を構築した。
(2) 施設設備の管理	✓ 月に1度の安全点検を実施し、不具合箇所の把握と修繕に努めた。
(3) 教室数の確保	✓ 空き教室を利用し、次年度分の教室を確保した。

(11) その他

取組の総括	
✓ 保護者とのさらなる連携の強化を目指し、アンケート調査を2回実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 保護者との連携	✓ メール連絡システムやクラウド型学習支援アプリ「ロイロノート」も活用し、情報を密にした。

6.認定こども園九州文化学園幼稚園

1) 経営理念・経営目標

経営理念	園児ひとりひとりを大切にし、質の高い保育・教育を行う。
経営目標	強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける。

2) 1 年間の総括と評価

✓	本園は平成 27(2015)年に新しい認定こども園という制度に移行し、8 年となり、令和 5(2023)年度末に初めて 0 歳児で入園し 6 年間過ごした園児を卒園させることになる。認定こども園としてスタート期の次の段階に入っていると言える。定員 270 人に対する充足率は 80%台を推移し、令和 4(2022)年度は入園数が前年より減少している。園児の安定確保のため、質の高い保育・教育を日々積み重ね保護者から選ばれる園であり続ける必要がある。そのためには教職員個々の資質・能力を高め、組織としての結束力を高めることが必須である。園経営の安定のためには園児数に見合った職員組織の編成が不可欠であるが、令和 4(2022)年度も離職率が高く、転勤による退職の可能性など未確定要素が多く安定した組織編成とは言えなかった。離職率を下げるために、安定的に働ける職場として環境を整えると共に、各職員の努力や工夫の成果を保護者や地域の声として職員へ還元し続けていきたい。
---	---

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 職員連絡会や職員会議・面談等の機会を利用し、職種や正規・パートの違いを超えて互いを尊重し、協力して職務に専念する意識を高めた。職員室の掲示スペースを拡充し、行事にかかわる情報を共有できるようにした。さらに、大切な伝達事項に関してはメール配信を行った。意見交換についても全職員が紙上ではあるが発言する機会を設定し、意見を集約することで本園の成果と課題を明確にすることができた。組織内の様々な立場や考え、意見等があることに改めて気づき、他者を理解し、尊重することの意義についても再認識できたことで、組織力を高めることができた。
戦略Ⅱ	✓ 認定こども園として、0 歳児から小学校就学前までの一貫保育・教育を展開するため、新指導要領に示された小学校就学までに育てたい 10 の姿勢を基本とした教育・保育の連続性のあるカリキュラム編成に取り組むこととし、年間カリキュラムの中に、茶道・英語活動・運動遊びの位置づけを図り、情操教育、英語教育、体育・健康教育の推進を図ることができた。
戦略Ⅲ	✓ コロナ禍ではあったが、感染症対策を講じながら園外保育を行い、子どもたちに多様な体験活動を経験させることができた。また、その園外保育を通して、交通ルールや公共の場におけるマナー・モラル・安全教育を並行して行い、各現場において実践的な力を育むことができた。令和 4(2022)年度は対面による老人ホーム訪問ができなかったが、手紙やプレゼントを通して交流を図ることができた。
戦略Ⅳ	✓ 園ホームページのリニューアルに伴い、画面が明るくなり、操作性が向上したことで利用者の増加につながっている。行事や日頃の活動について写真画像を中心に閲覧できる環境を整え保護者や地域への広報活動の充実を図った。今後も保護者等が必要とする情報が発信できるよう、動画配信やリモート配信についてのスキルや環境を整える必要がある。
戦略Ⅴ	✓ 今年度も年度当初に報道各社に向けて 1 年間の行事予定を添付した報道依頼を行い、取材の依頼に対して積極的に対応し、テレビ佐世保等を通して活動の様子を年間 3 回、NBC ニュースで 1 回、発信することができた。広報内容及び広報方法について検討し、園行事や日頃の活動をホームページにて周知を行い、内容の充実を図ってきたことで閲覧者が定着してきた。
戦略Ⅵ	✓ 2,3 号希望者増に対応するため令和 5(2023)年度からの定員の見直しを図ると共に、体育倉庫を保育室に改修した。11 月の園児募集を控えた 10 月の「1 日入園」(説明会と見学)を園児募集の最大の機会ととらえ、園の魅力を発信することにより入園希望者の確保を図ったが、結果として前年度実績より減となった。本園の強みを再度洗い出し、在園児の保護者から信頼され、未就園児保護者から選択される園となるため、日々の保育・教育の質を向上させることが重要である。
学園内の連携促進	✓ 学園内から実習等(生徒、学生)を受け入れ、生徒、学生にとっての学びの場、研修の場となるよう連携促進を図ることができた。また、長崎短期大学との連携促進会議においては両校にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議することができた。今後も養成機関としての長崎短期大学と密接に連携しながら、本園職員の資質向上と保育・教育の質向上及び充実を図っていききたい。九州文化学園小中学校との連携においては幼小連携の魅力を発信することで、内部進学を増員を目指した。これから幼稚園に関連する各校の特色や魅力、そして教育力を本園の保育・教育活動に活用していくことで、本園の強みを発信していきたい。
付帯計画と課題	✓ 離職率が高く、職員組織においては不確定要素が多く、求人活動が恒常化している。また、保育士不足の影響から求人に対する反応が極めて鈍く、職員補充の見通しが立たない。そのため、定員に満た

ない学年において入園希望があっても、受け入れることができない。園児募集においても市全体の受け皿の増加と少子化によって厳しい状況が具体化している。乳児の段階で園児数を確保しなければならないが、令和5(2023)年度においては1歳児の入園が伸び悩んでいる。その原因についても推測の域を脱しておらず、今後も未就園児保護者のニーズについて分析しなければならない。

4) 主要情報

(1) 卒園者数

【卒園者数】

区分	人数	
1年課程修了	0人	
2年課程修了	3人	
3年課程修了	26人	
4年課程修了	13人	
5年課程修了	6人	
6年課程修了	5人	
総計	53人	
卒園者の累計	6,235人	

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入園式	4月12日(火)	
歓迎遠足	4月19日(火)26(火)	石岳動植物園森きらら 年少・年長、年中
幼児部ファミリーのつどい	6月11日(土)	
乳児部こっそり参観 WEEK	7月11日(月)～15日(金)	
年長お泊りキャンプ	7月20日(水)～21日(木)	長崎県立佐世保青少年の天地
年中お泊り保育	8月26日(金)～27日(土)	園内
幼児部キッズフェスティバル	9月10日(土)	
乳児部運動会	9月17日(土)	
幼児部運動会	10月9日(日)	
一日入園(入園募集)	10月20日(木)	
YOSAKOI させば祭り参加	10月21日(金)	
ふれあいコンサート	12月4日(日)	アルカス SASEBO 観客制限なし
乳児部お遊戯会	12月24日(土)	
幼児部お遊戯会	2月5日(日)	
一日体験入園	2月16日(土)	入園説明会及び体験入園
乳児部親子お楽しみ会	2月25日(土)	
卒園式	3月17日(金)	第75回卒園式 53人卒園

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な園の運営方針

区分	取組内容
園全体	・ 幼保連携型認定こども園としての教育・保育の充実 園児の一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮し園児一人一人を大切にした教育・保育の内容や展開を工夫し乳児部(0・1・2歳児)と幼児部(3・4・5歳児)の連続性を強化する。
乳児部	・ 十分に養護の行き届いた中で情緒を安定させて心身の調和的な発達を図ると共に健康安全などの日常生活に必要な基本的な習慣や態度を養う。
幼児部	・ 自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成し、指導計画のもと豊かな体験を通して小学校就学までに自立性・協同性・表現力・思考力・道徳性を培い数量や図形や文字などへの関心を高める。 ＜年少進級までの到達目標＞ ・ 排泄面：トイレトレーニングの終了 ・ 食事面：自分で食べる、食べようとする(2歳児クラスは3学期から箸での食事開始)

	・生活面：自分で着脱ができる(2歳児クラスはパジャマ等で練習を行う) 靴、靴下、ボタンなども ・その他：リトミック活動の充実を図る <進学までの到達目標> ・就学までに育てたい10の姿を目標に、一人一人の園児に合った保育を行う。 ・食事面：箸を上手に使い、楽しみながら食事を摂ることができるようになる。 ・その他：年長で行うマーチングに向け、日頃から音楽活動の充実を図る。
--	--

(2) 子育て支援の推進と充実

取組の総括	
✓ 子育て支援の主な内容は下記の通り「預かり保育」「未就園児親子教室」「幼児文化センター」「スクールバス送迎」である。特に認定こども園としての大きな役割の1つが、本園の物的・人的な環境を存分に生かし、在園児だけではなく地域の子育て世代に対する支援である「未就園児親子教室」である。本園では「子どもの城」として、年間の予定を計画し、定期的に開催してきた。コロナ禍の開催となり、人数を制限しながらも予定通り年間を通して実施することができた。複数回参加する親子も多く、この教室が新たな保護者交流の場となっていた。スクールバス送迎については、1号認定の減少に伴い、利用者が減少傾向にあるが、一定数の利用希望者があるため、コース等を工夫しながら運行している。幼稚園バス自体が広報の役割を果たしているため、安全で効率的な運行を務めていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 認定こども園として家庭・保護者への支援を拡充する	✓ 0歳児～2歳児(3号認定)、2歳児(一時預かり保育)、3～5歳児(2号認定、1号認定)の受け入れ ✓ 未就園児教室の実施・・・「子どもの城」体験教室、園庭開放、家庭訪問、講演会の充実 ✓ 外国人園児の受け入れ・・・外国人向けのパンフレットや手紙の充実 ✓ 全園児提供の自園給食の充実、手作りおやつ、預かり保育の土曜日給食の実施
(2) 在園児の子育て支援	✓ 預かり保育の充実 (平日・午前7時30分～8時30分、午後2時30分～午後7時) (土曜日・午前7時30分～午後7時) ✓ 幼児文化センターの実施・・・情操教育や知的活動により園児の持っている能力の芽生えを図る。専門講師による指導、ピアノ教室等5教室 ✓ スクールバス運行 5コース 保育者同乗
(3) 子どもの成長や生活の様子の伝え方の工夫	✓ 乳児部は送迎時に保護者と短時間ではあるが面談による情報交換が可能である。さらに、必要に応じて連絡帳を通じて情報交換を行っている。幼児部は送迎時の面談が難しいので、連絡帖や電話を活用し、家庭訪問や学期毎の「めばえ」を通じて補完している。
(4) 保護者同士の懇談の場の設定	✓ 幼児部歓迎遠足では学級役員を中心に各学級で昼食場に集まり、連絡方法の確認を行った。その他、学級懇談会を通じて悩みや課題等を共有できた。
(5) 就労家庭の支援	✓ 登園後の発熱等の場合の対応を確認し、理解いただいている。
(6) 発達上の課題のある園児の保護者支援	✓ 保護者の理解を得て関係機関と連携し、情報交換の機会を設けたり、保育、教育にかかわる助言を求めたりしている。さらに、関係機関による発達相談における参考資料提供にも協力している。

(3) 教職員研修の充実

取組の総括	
✓ 経営理念に掲げている「質の高い保育・教育」のために、経営目標に掲げている「保育者のスキルアップに努める」ことが絶対条件であり、学び続ける教育者はどの校種においても求められる教師像の上位項目である。教育界において「不易と流行」は繰り返し確認されている方向性である。時代や状況の変化に応じて変えていくものと、教育の本質として変えてはいけないものの見極めを絶えず行わなければ、今求められている保育・教育から取り残されてしまう。下記の通りあらゆる機会を活用して研修を深めながら、今の子どもたちに最適な保育・教育を模索する令和4(2022)年度であった。個人や園内では容易に解決しがたい課題も明確になり、研修の必要性を職員が共有できたことが、研修に対する主体性に繋がった。さらに、市の研究発表を通じて、市の幼児教育センターや他の教育機関と交流できたことで、視野を広げることができた。本園の保育・教育を他からの視点でとらえ直したり比較したりすることで、本園の課題と成果が明確となり、次年度に生かすことができる。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 園内研修の実践	✓ 乳幼児指導の研究及び各学年の公開研究保育を乳児部、幼児部において実施した。令

	和4(2022)年度は初任者が乳児部に在籍していたため、乳児部において年間3回公開研究保育を行い乳児指導の研究を深めることができた。幼児部においても採用2年目の若手職員が公開研究保育を担当した。勤務形態より集合研修が難しいが、実際の乳児・幼児指導の実践を通して具体的に指導の在り方について研究を深めることができた。
(2) 園外研修の充実	✓ 園外研修や九州文化学園小学校との相互交流による教師の指導力の向上及び資質向上に努めた。卒園先である小学校における指導の様子を知ることで、出口における必要なスキルや態度を理解し、それらの力や態度を見通しながら乳幼児指導を行うことができた。
(3) 茶道の取組	✓ 建学の精神を体現する茶道文化について、その理念や意義を十分に理解し尊重し、感染症対策を講じながら実施された長崎短期大学における茶道大会に園からも複数人参加した。
(4) 市の研究発表	✓ 佐世保市私立幼稚園協会主催の「保幼小連携」研究発表園として本園の取組をリモートで市内保育施設及び小学校担当職員に対して発表することができた。年長担任が担当し、佐世保市幼児教育センターの指導・助言を受けながら発表内容を整理することができた。
(5) 人権擁護の視点をもった保育	✓ 昨年度実施した「人権擁護セルフチェック」を今年度も実施し、日頃の保育における人権擁護意識を自己評価した。今年度は全国的に報道された不適切保育を受け、「不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き」を配布し、自己研修の資料とさせた。これらの研修は、複数回実施し、時間の経過によって自らの保育・教育がどのように変わったかふりかえることが大切であることから、次年度も実施する計画である。

(4) 健康安全・食育の推進

取組の総括	
✓ 健康安全・食育の推進は乳児・幼児の保護者にとっては健やかな成長に関わる大きな関心事の1つである。入園を検討されている保護者にとっても大切なチェックポイントの1つである。特に園児の命に係わる事故や心と体を傷つける不適切な保育に関する報道があったことで、園の保護者はもちろん、一般の地域住民も保育施設全体に対して不安感を抱いている。元気に登園してきた子どもたちを笑顔で降園させることは園にとっての最大の使命でもある。(3)の保護者との緊密な連携においても、園児の所在確認を確実にするための、欠席、遅刻連絡の改善を図った。特に連絡がない欠席園児がないよう保護者への確認連絡を徹底している。(2)の施設・設備については、経年劣化が確認できる箇所が目立ち始め、応急的な処置を必要としている状況である。予算的な計画も含めて施設・設備の改修計画の策定が必要である。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 健康安全教育	✓ フッ素洗口、歯磨き、体育、健康的な環境づくり、体力増進、安全指導及び各災害の避難訓練の実施を計画通り実施することができた。毎月1回実施している避難訓練に関しては内容によって消防署員、警察署員の協力、指導を得て専門的な立場からの園職員に対する助言を生かしている。交通安全についても交通安全協会の協力により交通安全や交通ルールについて指導いただいた。
(2) 安全点検及び安全な施設・設備の充実	✓ 敷地内(園庭、園舎を含む)の点検、補修、スクールバスの安全な運行、乗降車時の確認を行っている。スクールバスの運行に関しては、他県の事故を受け、マニュアルの見直しを図り、職員と保護者と共有することができた。車内置き去り防止システムの設置については行政の指導を受けて着実に準備を進めている。最終的な安全確認は「人」であることから、バスの安全な運行にかかわる研修動画(文部科学省)によって関係者の研修を行った。施設・設備に関しては専門業者に調査を依頼し指摘を受けている。今後、施設・設備の改修に関して、年次計画を策定しなければならない。
(3) 保護者との緊密な連携	✓ 安心メールの配信や電話による連絡を丁寧に行っている。欠席・遅刻については保護者からメールによって園に連絡出来るようにシステムを整えた。予定がわかっていれば忙しい時間帯を避け、事前に送信可能で記録が残ることから、保護者側も園側も有効であることが確認できた。安心メールに関しては、ファイルを添付して送信できることから、紙資料によるお知らせを少しずつ減少させ、仕事の効率化を図っている。
(4) 食育の推進	✓ 日々の給食指導を通して食の楽しさや大切さを伝え、食材や作った方々等への感謝の気持ちを表現することを指導している。さらに、食用野菜や根菜の栽培活動を行い食材の生産についても理解させている。管理栄養士の計画で栽培した野菜の調理や

	箸の使い方の練習などを実施した。
--	------------------

(5) 広報及び園児募集

取組の総括	
✓ 園の経営安定のために、園児の安定確保は最大の重要課題である。広報活動によって認定こども園九州文化学園幼稚園を認知していただくことは、将来的な園児募集活動でもある。(1)～(7)の活動を例年通り丁寧に実施したが結果として新入園児が45人と昨年度の51人より6人減少している。本園の認知度に関しては、一日入園への参加者を対象としたアンケートによると、初めての来園が5割、在園時のきょうだいが2割、こどもの城体験が2割、見学経験ありが2割であった。どの活動も一日入園への動機付けとしての役割を果たしており、今後も園児募集に結びつくよう工夫を重ねなければならない。入園にかかわるメールや電話による相談は園が設定している募集期間を過ぎても、新年度に入っても随時あり、その都度担当によって丁寧に対応し、次の段階である見学につなげている。園からの園児募集の発信方法については、今後も効果的な方法、手段について検討を重ねていく。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 1日入園の内容充実	✓ 入園を検討している保護者に対し、本園の特色や魅力を理解してもらうようにわかりやすい提示・説明に努めた。さらに、運動会で披露したマーチング及びよさこい踊りを園庭で披露し、活動の一端と年長、年中クラスの子どもの様子を見ていただいた。さらに、幼児部学級において製作活動などの体験ができるよう場の設定を行った。来園いただいた保護者に対しては、入園に繋がる活動になった。
(2) 未就園児体験教室「こどもの城」・園児解放・教育相談の充実とPR	✓ 認定こども園として子育て支援に取り組む姿勢と実際の活動を広く理解してもらえるように努めた。好評を得ている「こどもの城」の活動を継続して、子育て世代の交流や悩み相談の場とした。コロナ禍の開催で人数制限は部屋の大きさに合わせて行った。長崎短期大学より講師を招聘し、講演会を開催することができた。さらに、本園管理栄養士による「食育」にかかわる教室を開催した。リピーターも多く複数回参加された家族もあった。本園の認知、理解から入園に繋げる教室として今後も定期的に開催していきたい。
(3) ホームページや園便りによる園活動の広報	✓ 入園を検討する保護者の情報収集手段として園ホームページが上位であると推察される。今年度リニューアルしたことで、全体的に明るい雰囲気となり、動きもスムーズである。特に転居にかわり市外、県外、海外からの問い合わせもホームページが重要な起点となっている。園よりは本園保護者に対して、お知らせやお願いが中心となっている。保護者が必要だと思われる日程等の情報をわかりやすくシンプルにお伝えすることを今後も継続していきたい。
(4) 園児の姿を通じた本園のPR	✓ 地域の行事に参加したり、マーチングの練習の成果を披露したりして、園児の生き生きとした姿を多くの人に知っていただくことで、本園の活動をPRすることができた。指導者としても、子どもたちの努力や成長を認めていただくことで、モチベーションを高める動機付けとなった。より高い評価を得られることが、園児、保護者、指導者の自信や満足に直結するため、今後も表現力を高めていきたい。
(5) 募集活動の推進	✓ 年間を通じた募集活動に加えて、園児募集の時期には多くの人の目につくような様々な媒体を活用した。(ホームページ、チラシ、スクールバス、お便り等)一日体験で来園された保護者へのアンケート結果より、来園の動機付けとして多かったのが、園からの案内(園児のきょうだい)(4割)に次いで園のホームページ(3割)であった。新聞チラシと友だちからの紹介は1割程度であった。入園について検討される家庭に対して情報がより届けられるよう方法や媒体について今後検討しなければならない。
(6) 九州文化学園幼稚園ならではの教育環境をアピールする	✓ 明るくて広い園舎・園庭、市の中心部にあって西九州自動車道ICのすぐ近く、九州文化学園グループ校との連携は、他園にはない本園の魅力であり、強みである。保護者に対する入園に関する説明会など様々な場面を通じて、積極的にその魅力を発信し続けている。入園いただいた保護者に対してもその魅力や強みを実感できるよう、環境整備に配慮し、グループ校との連携をさらに深めていかなければならない。
(7) 報道依頼	✓ 年度初めに報道各社に対して園の年間行事予定表を添付した報道依頼を行い、可能な限り積極的に取材を受け入れた。

(6) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 学園内の連携促進が本園の強みであり、特色であることから、園経営において学園内の連携促進は不可欠である。それぞれの目的に応じた連絡会があり、その目的に絞った協議によって具体的、実践的な情報交換が可能となり即効性も高い。各会議によって関連校のニーズや状況を理解することができ、配慮すべき事項をふまえながら協議を	

進めることができた。これらの会議において法人本部総合企画室の支援や調整等によって各会議が有意義なものになっている。また、他校種との交流によって視野を広げ、刺激を得る絶好の機会と考えている。今後も目的に応じた連携促進にかかわる活動に積極的に参加していきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs に関する連絡協議会	✓ 「九州文化学園と言えば SDGs」との認知度を高めるため、学校間の情報交換を通して取組の質の向上を図ることができた。特に九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント 2023(令和 5(2023)年 3 月 17 日開催)を通して情報交換が密になり、内容がより充実した結果となった。公募作品の部において理事長賞の評価を得た。
(2) 学園内募集担当者会議	✓ 幼稚園から大学まで繋がった九州文化学園の強みを意識し、強みを生かした連携の構築と魅力発信について相互理解と推進を図った。内部進学者数増員を目指して九州文化学園小学校と連携を深め、保護者会での説明や資料配布など具体的な手立てが実践された。 ✓ 長崎短期大学とは保育士採用に向けて学生の傾向や動向などを知ることができ、今後の募集活動におけるポイントを知ることができた。本園の特色や魅力として、学園の強みをさらにアピールできるよう会議を生かしていきたい。
(3) 幼稚園と短大保育学科の連絡協議会	✓ 連絡協議会の実施によって、双方向の情報交換が密になる関係性が構築されている。活動の目的を共有し、成果と課題を明確にすることで、次の計画の精度が高まっている。幼稚園においては長崎短期大学保育学科との連携深化によって、行事や活動が充実したものになり、日々の保育・教育の質が高まるよう連絡協議会を活用していきたい。

(7) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 学園としての構想をもとに、幼稚園だからできる SDGs は何かを探索するため、これまでの活動を SDGs の視点から洗い出すと共に、家庭と連携した取り組みによって、九州文化学園で取り組んでいる SDGs についての意識化を図り、定着を図ることをねらいとした。園児が理解できるように、園児が実践できるように職員や保護者が意識し、工夫することが、幼稚園だからできる SDGs の出発点となる。活動を単純化し、日常的に幼児でも容易に実践することが可能で、実践結果が意欲を高めるよう内容を検討し以下のような項目に取り組んだ。(1)～(3)は幼児部や幼児部年長園児を対象とした。子どもたちの理解や意欲の高まりがどの程度のものかを数値化することは難しいが、体験活動によって得られる感覚と価値や意義と結びつける言語化の機会となった。(4)は園全体で取り組み、園児、保護者、職員全体での取り組みとして意義あるものとなった。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) 行事や活動を楽しもう	✓ 特色ある活動の代表が①「お茶ごっこ」②「ふれあいコンサート」である。①については茶道の作法の基本を学び、最後は長崎短期大学の茶室で本格的な雰囲気を楽しむことができた。②については大ホールの舞台に立ち、マーチング、器楽、歌唱を大勢の観客に表現することで、緊張感や達成感を味わうことができた。	4
(2) 心を育てる	✓ 人々とのふれあい交流活動を通して感謝の気持ちや思いやりの心を育てることをねらいとした。コロナ禍で対面を避け、世知原老人ホームの方々にメッセージポスターをプレゼントした。さらに行事等開催時のボランティア(大学、短大、高校)の学生、生徒に対して、感謝の気持ちを言葉やメッセージで伝える活動を行った。老人ホームの方々からの返事や学生等の表情から、感謝の気持ちを伝えるよさを実感した。	10、16
(3) 平和について考える	✓ 生活協同組合ララコープ主催「へいわの絵」への応募を通して平和について考えるきっかけとした。アルカス SASEBO に展示された絵を親子で見に行った家族はさらに平和について親子で話す機会となった。保育活動、園行事においても平和について考える機会を意図的に設けた。	10、16
(4) ペットボトルキャップを集めてワクチンに	✓ 園全体の取り組みとして、園児、保護者、職員で行えるペットボトルキャップの回収を行った。回収したキャップは定期的に集計して地域の回収業者へ持ち込んだ。この活動がポリオワクチンになるシステムを発達段階に応じて説明しながら年間を通して行う活動とした。個々の活動を園全体で合わせることで、大きな力になることも学ぶことができた。	1,3,17
(5) ごみゼロの日	✓ ごみゼロの記念日を知り、子どもたちと共に実践できることを考え、	2,4,14

	学年毎にゴミを無くしたり、減らしたりする活動を考えた。紙類の再利用を行ったり、給食の残菜を減らしたり、コンポストでの堆肥づくりに挑戦したりした。これらの活動を通して、ゴミについて、ゴミを減らす活動について考える機会となった。	
--	--	--

(8) 管理運営

取組の総括	
✓ 「健やかな心としなやかな体で子どもたちが生き生きと活動し、学びの芽を育む園づくり」を念頭に、積極的かつ特色ある取組を展開して、選ばれる園であるよう努力を続けた。新入園児数の減少から選ばれる園である必要性はさらに高まっている。本園を選択する理由と共に、選択しない理由についても出来る限り意見を収集し、園の課題と成果を整理しなければならない。全国的に、そして市内においても発生した不適切保育の事例を活用し本園で発生することがないよう発生の原因や問題点について分析しなければならない。また、経営理念、教育目標等を整理し、関連性を明確にすることで、方向性をそろえる準備をすることができた。保護者から選ばれる園であることは、経営目標におけるキーワードであり、そのために全職員の力を集約することが管理運営の重要事項である。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 協働	✓ 子どもたちを中心に据え、保護者、地域、職員など立場や年齢を超えて、子どもたちの健やかな成長のために、繋がりを深める保育、環境づくりに努めることができた。
(2) 人材育成	✓ 教職員の資質向上のために、学園内の共通課題を洗い出すことは今後も必要である。共通の目的に向かって活動することで、学校種の垣根を超えた交流が自然発生し、個々の視野を広げる効果が期待できる。幼稚園が発展し続けていくために、個々の意欲・資質能力の向上及び次世代の人材育成を組織的に行うことが大切であるが、経験年数や役割に応じた研修制度をさらに整備しなければならない。
(3) 園内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 各自が組織の一員として自らの役割を理解し、圧倒的な当事者意識をもって園経営に参画する重要性を伝えた。確かな情報が確実に共有できるように報告・連絡・相談の徹底を図る意義について共通理解し、共通実践に向けて取り組みを強化した。一斉集合によらない周知徹底について今後も工夫しなければならない。
(4) 情報セキュリティ	✓ 個人情報保護の趣旨に基づいた教育情報の作成・保管・保存の園内体制及びファイリングシステムの確立を図った。さらに、情報セキュリティポリシーに基づいて適切に管理を行った。今後も紙媒体によらないデータの管理についてそのシステムを整備しなければならない。
(5) 園評価による PDCA の充実	✓ 自己評価(職員)、保護者評価を実施し、課題と成果を整理することができた。課題についてはその原因と課題解決の方策を全職員で出し合い(紙媒体によって)、学校関係者から提言・評価を受けて次年度にかかわる重点課題を整理し、全職員で共有することができた。この一連の評価活動にかかわる取り組みを丁寧を実施することで次年度の重点課題に対する職員の理解が深まった。

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 情報セキュリティ委員会	✓ 本園における、情報セキュリティの現状をふりかえり、課題と成果を明確にすると共に、情報セキュリティの重要性について再認識することができた。
(2) 外部関係者評価(第三者委員会)	✓ 内部評価、保護者評価を受けて、PDCA サイクルに則った園評価を目指した「達成状況を踏まえた改善の方策」について協議を行った。評価項目、評価結果、達成状況を踏まえた改善の方策を園側から説明し、外部評価委員から改善の適切さを評価してもらい、ご意見をいただいた。これを園評価の総括とし、その結果を次年度に反映する意味や意義を明確にすることができた。

(9) 環境整備及び施設・設備の充実

取組の総括
✓ 園児が健康で快適にかつ安全に活動できる環境を整えることは、経営理念を達成するための基盤とも言える重要事項である。本園は現在地への新築移転より 18 年経過し、施設・設備の経年劣化が進行している。対処的に応急的な補修作業を行っているが、専門業者による調査結果によるとその範囲が広がっていることが確認できた。補修、改修については多額の予算を伴うので、年次的な計画を策定する必要がある。(1)の園務の効率化については職員の労働条件を改善し、働きやすい職場にすることにねらいがある。子どもたちに向き合う時間と心のゆとりが、保育・教育の質をあげることに繋がっていく。年次計画によって、必要な改修や設備の交換を行いながら、「限りある資

源を大切に使う」という意識を全職員で共有することも大事にしていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 園務の効率化システムの推進	✓ 11月より、欠席、遅刻の連絡に限ってメールによる連絡ができるようにした。電話連絡、連絡帳での連絡、口頭での連絡と合わせて併用できるように提案し、朝の忙しい時間帯の電話連絡と伝達ミスが減少した。給食の栄養計算ソフトを年度末に導入し本格的な稼働に向けて準備をしている。担当者による事務処理が1日あたり、数時間効率化できると期待している。園児の登園管理についてICT化を検討中である。
(2) 清掃の徹底と環境整備の充実	✓ コロナ感染拡大防止のため、清掃の徹底は継続して行うことができた。時季に応じた花苗の栽培や行事等に応じた壁面環境の整備も例年通り実施することができた。
(3) 教材の補修及び施設の補修	✓ 施設設備の経年劣化については、専門業者によって調査を依頼し、デッキ、園舎の屋根や壁、空調等の状況を把握し、補修等の必要性について整理することができた。
(4) With コロナ時代にマッチした配信システムの整備	✓ 幸いにも休園や学級閉鎖を行うことはなかったが、園や園児の様子を保護者に伝える配信システムの整備は必要である。簡易的な内容であれば、現状の機器類で配信可能であるが、実践的なスキルと経験を高めていく必要がある。
(5) SDGsの取り組みの一つ「物を丁寧に扱い、長く使う」	✓ 物を丁寧に扱い、可能であれば補修して「限りある資源を大切に使う」ことを園児にも理解させるため、教職員が意識して範を示すことを今後も継続して行う必要がある。

(10) その他の活動の推進

取組の総括	
✓ 園内外の人的・物的な教育環境に働きかけて、教育効果を上げることを目指した。With コロナで園児の体験・交流活動実施にシフトし、参加人数の制限や分散化を図りながら実施することができた。子どもたちにとってはこれまでの練習の成果を表現する絶好の機会となり、緊張感や達成感など表現する楽しさを実感することができた。保護者にとっても、我が子の努力や成長を間近に参観することで、園の教育活動に対する理解や協力に直結していた。地域の皆様にとっても、幼児の真剣に表現したり、活動したりする姿に出会うことで、認定こども園九州文化学園幼稚園を認知していただくことができた。人々から認知していただくことは、指導する職員にとってもモチベーションを高める効果があり、教育効果を上げる目的を達成することができた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 小学校・地域・外部団体との連携及び協力	✓ 幼児教育センターが中心となって進めている保幼小連携にかかわる取り組みにおいて、佐世保市立大久保小学校と対面による連携活動を実施することができた。次年度の滑らかな就学に向けて、体育館での1年生との交流活動や、1年生教室での学校生活の説明などが計画され、入学にかかわる不安を軽減し、期待を高める工夫があった。
(2) 保護者との連携	✓ 教室やプレイルームなど屋内における参観日や行事等においては、密集を避けるために参加人数を制限しながらも、年間を通してほぼ計画通りに実施することができた。園生活の様子を知る機会として、積極的な保護者の参加があり、父母の会も協力的であった。
(3) 地域との交流	✓ 今年度はYOSAKOI させば祭り、かつちえてふるさと祭りでマーチングやよさこい踊りを披露し、清水地区公民館祭りには年長組園児が絵画作品を出品し、認定こども園九州文化学園幼稚園を認知していただく機会とした。園行事への招待については次年度より具体的な検討ができそうである。

7.九州文化学園調理師専門学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成
経営目標	● 自主・自律を重んじ、積極的で意欲のある学生の育成 ● 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成

2) 1年間の総括と評価

全体を通して、インターンシップを含め教育活動を計画通りに実施することが出来た。学生レストランは、7回実施し年間総来客数は367人で高評価を得ることが出来た。3年ぶりに開催した卒業記念食事は、17人の保護者の方々に満足いく食事を提供できた。研修旅行(関西方面)を2月に実施したが充実した研修となり、学生たちの良い思い出となった。今年度新たに実施したものは、①一流シェフ講演会②年金セミナー③南地区コミセン祭りであった。次年度以降も継続していく予定である。また資格取得に関しては、ほとんど資格を受験者全員合格した。 今年度も就職率100%を達成した。修学支援新制度および学生サポート制度の周知と対応も滞りなく実施できている。また新設された企業奨学金なども学生に周知・対応し、採用決定できた。 学生募集に関しては、令和4(2022)年4月から路線バスで、バス停前での車内アナウンス広告を開始した。また、バス停に九州文化学園専門学校前という表記を入れてもらった。ホームページを4月後半からリニューアルしたことで高校生や保護者が知りたい情報が見やすくなった。オープンキャンパスの参加や資料請求もできるようになり利用者も増えた。今後も積極的に更新して閲覧数を増やしたい。オープンキャンパスの参加者数は、年間63人(高校生39人、保護者24人)で、昨年度の51人より増加した。
--

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 職員は目標としていた1人年2回以上の研修に参加 ✓ インターンシップおよび学生レストラン・集団給食実習など即戦力となる人材の育成に効果的な教育課程が充実してきた
戦略Ⅱ	✓ 学校関係者評価委員の助言を活かせるように事業計画書・報告書の項目に沿った評価シートに変更 ✓ 教育支援に関する制度の周知を徹底的確な運用に心がけた
戦略Ⅲ	✓ 夏休み子ども料理教室を開催 ✓ 南地区コミセン祭りへの参加 ✓ 民間講師派遣事業(年3回) ✓ 高校生体験入学の受入れ(年6回)
戦略Ⅳ	✓ 調理実習後の安全点検および点検票記入の徹底 ✓ 調理実習室のテレビモニター機器の取り換え実施 ✓ 給湯器取替工事 ✓ LED照明取替工事
戦略Ⅴ	✓ ホームページ・学校案内パンフレットのリニューアル ✓ 路線バスでのアナウンス広告開始 ✓ バス停に学校名を掲示 ✓ 留学生用入学案内ガイド作成と配布
戦略Ⅵ	✓ 財政面における支出内容の見直しも数回行い、適切に処理をした ✓ 就学支援新制度および「学生サポート制度」も適切に処理をした
学園内の連携促進	✓ 他部門からの講師派遣により充実したカリキュラムが実現している ✓ オープンキャンパスの送迎バスを依頼 ✓ 他部門からの行事や調査など積極的に協力している
付帯計画と課題	✓ 長崎市内の調理学校が募集停止となり、その影響を受けた学生3人が本校に入学した ✓ 日本語学校に留学している学生向けの入学ガイドを作成し配布している ✓ 司厨士協会および関係企業・機関との連携を強化することで、実習内容・教育課程・学生募集をはじめ学校運営に役立 ✓ 調理師の魅力を発信することについて、様々な機関との連携を図る ✓ 地域の小中高校との行事を計画し、将来の調理師の卵を育成する

4) 主要情報

(1) 卒業生数、資格等に関する実績

【卒業生数】

課程名	人数	備考
衛生関係専門課程	11 人	
総計	11 人	
卒業生の累計	1,985 人	※ 専修学校時代も含む

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	11 人	2 年生 11 人修了(100%)
介護食士 3 級	13 人	1 年生 13 人受検(100%)
色彩コーディネーター 3 級	1 人	1 年生 11 人受検(9.1%)
ラッピングコーディネーター	14 人	1・2 年生 14 人受検(100%)
サービス技能検定 3 級	9 人	2 年生 11 人受検(81.8%)
サービス技能検定 2 級	4 人	2 年生 10 人受検(40%)
カフェクリエーター	10 人	2 年生 10 人(100%)
食品技術管理専門士	10 人	2 年生 10 人(100%)

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4 月 7 日(木)	
入学式	4 月 8 日(金)	学生・保護者・職員のみ
オリエンテーション	4 月 8 日(金)	理事長講話(入学式終了後)
オリエンテーション	4 月 11 日(月)	校長講話等
学生レストラン「メランジェ」①	4 月 23 日(土)	53 人(和食 30 人・中華 23 人)
学生レストラン「メランジェ」②	5 月 21 日(土)	38 人(和食 26 人・中華 12 人)
学生レストラン「メランジェ」③	6 月 18 日(土)	48 人(和食 27 人・中華 21 人)
第 1 回オープンキャンパス	6 月 19 日(日)	5 人参加(高校生 3 人・保護者 2 人)
学生レストラン「メランジェ」④	7 月 16 日(土)	48 人(和食 30 人・韓国料理 18 人)
第 2 回オープンキャンパス	7 月 24 日(日)	13 人参加(高校生 8 人・保護者 5 人)
第 3 回オープンキャンパス	8 月 21 日(日)	11 人参加(高校生 8 人・保護者 3 人)
夏休み小学生料理教室	8 月 22 日(月)	10 人参加(小学生 7 人・保護者 3 人)
第 4 回オープンキャンパス	9 月 17 日(土)	13 人参加(高校生 9 人・保護者 4 人)
学園祭	10 月 9 日(日)	弁当(212 食)クッキー(240 個)を販売
第 5 回オープンキャンパス	10 月 29 日(土)	10 人参加(高校生 7 人・保護者 3 人)
南地区コミセン祭り	11 月 13 日(日)	アジア 3 国丼(103 個)焼き菓子(46 個)販売
学生レストラン「メランジェ」⑤	11 月 19 日(土)	41 人(和食 14 人・中華 27 人)
創立記念日講話	12 月 15 日(木)	校長講話
第 6 回オープンキャンパス	12 月 17 日(土)	7 人参加(高校生 4 人・保護者 3 人)
第 7 回オープンキャンパス	1 月 21 日(土)	中止
学祖追悼式	1 月 31 日(火)	朝のホームルーム(HR)
卒業記念食事会	2 月 18 日(土)	保護者 17 人参加
研修旅行(関西方面)	2 月 20 日(月)～23 日(木)	2 年生 9 人参加
卒業式	3 月 8 日(水)10:00	学生・保護者・職員・来賓(司厨士協会 1 人)
第 8 回オープンキャンパス	3 月 11 日(土)	7 人参加(高校生 5 人・保護者 2 人)
SDGs 宣言の日記念イベント	3 月 17 日(金)	食べるラー油販売 最優秀部門賞受賞
終了式・離任式	3 月 22 日(水)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
推薦入試	11 月 1 日(火)	9 人受験(指定校 7 人・公募 2 人・学内 0 人)
一般(1 期)入試	11 月 1 日(火)	1 人受験
一般(2 期)入試	12 月 1 日(木)	2 人受験

一般(3期)入試	2月1日(水)	受験者なし
一般(随時)入試	3月20日(月)	2人受験(社会人2人)

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な教学運営方針

① 職業人としての調理師養成
② 一般教養および人格の向上
③ 調理師として必要な知識と技能の修得
④ 調理師に付随した科目(トータルコーディネート等)による資格取得

(2) 教育活動

取組の総括	
全体を通して、インターンシップを含め教育活動を計画通りに実施することが出来た。学生レストランは、7回実施し年間総来客数は367人で高評価を得ることが出来た。3年ぶりに開催した卒業記念食事は、17人の保護者の方々に満足いく食事を提供できた。学生の強い要望もあって研修旅行(関西方面)を2月に実施したが充実した研修となり、学生たちの良い思い出となった。 今年度新たに実施したものは、①一流シェフ講演会②年金セミナー③南地区コミセン祭りであった。次年度以降も継続していく予定である。また資格取得に関しては、ほとんど資格を受験者全員合格したが、色彩コーディネーター3級には1人しか合格できなかったため、次年度は資格取得のサポートをするが必要である。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 即戦力強化を意識したカリキュラムの充実	・ 一流シェフ講演会 7月11日(月)Zoom 安徳先生授業(1・2年合同) ・ 野口治久氏(フォーポイントバイシェトラン名古屋中部国際空港 総料理長) ・ テーブルマナー 11月4日(金)1・2年生 ホテルオークラ桃花林 ・ テーブルセッティング・テーブルマナー 11月30日(水)1・2年生 ハウステンボスレンブラント ・ 2年生研修旅行(関西方面)2月20日(月)～22日(水) ・ 西洋・中華・日本料理の基礎から応用までの調理実習と高度調理実習 ・ レストランプロデュース・カップリングカフェ&リカー・フードサービス実習・接客作法Ⅱ ・ 資格取得(カフェクリエイター・ラッピング・介護食士・色彩・サービス接遇) ・ 調理関連学習(テーブルマナー・テーブルセッティング・茶懷石マナー・シュガーデコレーション・介護食士3級) ・ 年金セミナー(佐世保年金事務所)9月26日(月)調理2年生・11月2日(水)調理1年生 ・ サービス接遇検定3級(2年生) 6月11日(土) ・ サービス接遇検定2級(2年生) 11月5日(土) ・ 色彩検定3級(1年生) 11月13日(日) ・ 専門調理師技術考査筆記試験 1月19日(木) 【課題等】 ・ テーブルセッティングを学び、メランジェなどで生かす。ということを学生が意識するように指導する必要がある
(2) インターンシップの実施	・ 2年生インターンシップ 8月3日(水)～ 8月25日(木) ・ 1年生インターンシップ 3月13日(月)～ 3月20日(月) 【課題等】 ・ 就職も見据えた受け入れ企業の開拓 ・ 2年生のインターンシップは、就職先の確保に繋がっている
(3) 学生レストランメランジェの実施	・ 学生レストランメランジェ：年間来客者数367人 - メランジェ① 4月23日(土) (53人：和食30人・中華23人)内24人はキャンパス・ツアー来校 「春だより御膳」・「春キャベツの回鍋肉ランチ」 - メランジェ② 5月21日(土) (38人：和食26人・中華12人) 「初鯉の漬け井御膳」・「初夏のアランチーニとアヒージョのランチ」 - メランジェ③ 6月18日(土) (52人：和食28人・中華24人) 「水無月御膳」・「中国まんぷくランチ」 - メランジェ④ 7月16日(土)

	(46人：和食29人・韓国料理17人) ウクライナ避難家族4人ご招待 「文月御膳」・「夏香るランチ」 メランジェ⑤ 11月19日(土) (41人：和食14人・中国料理27人) 「霜月御膳・天津飯ランチ」 メランジェ⑥ 12月10日(土) (87人：和食44人・洋食43人) 「海鮮カップ寿司御膳・Xmasランチ」 メランジェ⑦ 1月28日(土) (50人：和食31人・洋食19人) 「睦月御膳・初春中華ランチ」 ・ 集団給食実習 ① 4月27日(水)(59食) ② 5月25日(水)(44食) ③ 6月22日(水)(45食) ④ 7月13日(水)(30食) ⑤ 9月28日(水)(48食) ⑥ 10月21日(金)(36食) ⑦ 11月22日(火)(40食) ⑧ 12月20日(火)(40食) ⑨ 1月27日(金)(34食) ⑩ 2月14日(火)(37食) 年間合計413食 ・ 学園祭 10月9日(日) 弁当・クッキーをテイクアウトで販売 ・ 南地区コミセン祭り 11月13日(日) アジア3国井103個・焼き菓子46個販売 ・ 学院クリスマス会ランチボックス作成 12月23日(金) ・ 卒業記念食卓会 2月18日(土)
--	---

(3) 教職員の研修

取組の総括	
令和4(2022)年度は、学園内の研修会および調理師養成施設関係の研修会も対面で開催されるようになり、可能な限り参加した。若い教職員にとっては、日々の授業や教育活動も研修になっている様で成長していく姿がうかがえる。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 研修会等への参加	・ 講師会総会中止、資料および委嘱状送付 ・ 全国調理師養成施設九州地区幹事会・定例会 6月30日(木)Zoom ・ 食品衛生講習会(アルカス佐世保) 7月12日(火) ・ 介護食士夏季研修講座受講(西日本調理製菓専門学校) 8月16日(火)～18日(木) ・ 長崎国際大学健康栄養学公開講座 9月23日(金) ・ オリーブオイルについて研修会(長崎短大) 11月16日(水) ・ 調理師養成施設教員向けジビエセミナー(中村調理製菓専門学校) 11月5日(土) ・ 長崎留学生支援センター研修会 Zoom 11月18日(金) ・ 厚生労働省 労働法セミナー WEB 1月26日～2月9日 【課題等】 ・ 中止されていた協会などの研修が復活し、受講機会が増えた ・ 学生レストランの実施は、学生だけでなく若い先生たちのスキルアップもできている
(2) 研修会の情報収集	・ 専各連九州ブロック長崎大会 7月21日(火) Zoom ・ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連) 10月28日(金)Zoom ・ 県専各連職員研修会 2月22日(水)Zoom ・ 長崎県専各連理事会 3月23日(木) 【課題等】 ・ 食に関する企業との情報共有および相互協力体制の強化 ・ 他の教育機関との連携 ・ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有

(4) 学生支援活動

取組の総括	
今年度も就職率 100%を達成した。修学支援新制度および学生サポート制度の周知と対応も滞りなく実施できている。また新設された企業奨学金なども学生に周知・対応し、採用決定できた。日々の遅刻・欠席の連絡確認も学生一人一人に向き合った細かな指導をしている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 就職率 100%	・ 11人の卒業生全員が就職決定した(1人は4月に決定)

	・ 求人情報提供、面接練習実施、ハローワークとの連携 ・ 講師・卒業生の勤務先との連携 ・ 面接試験指導 【課題等】 ・ 大手ホテルへの就職先開拓、インターンシップの受入施設開拓 ・ 2年生のインターンシップは、就職先の確保に繋がって、良かった
(2) 修学支援制度の活用	・ 申請等、外部への提出書類および手続関係 ・ 修学支援金新制度 更新申請(6月中) →長崎県学事振興課 8月下旬認可 ※ 今年度対象者 7人 入学金・授業料県支給 - 奨学金1年 給付型4人、貸与型4人 - 奨学金2年 給付型3人、貸与型5人 ・ 学生および保護者への周知と適切な対応
(3) 学生サポート制度の活用	・ 学生および保護者への周知と適切な対応 ・ 年度末支給予定 1年:通学費補助1人、家賃補助0人、駐車場代補助0人 2年:通学費補助3人、家賃補助0人、駐車場代補助1人
(4) 留学生対応	・ 在留カード資格変更届手続き4月20日(水) ・ ホームページ 留学生ガイド掲載開始 11月16日(水) ・ 長崎留学生支援センター研修会 Zoom 11月18日(金) ・ 日本料理海外普及事業4年目の卒業生の修得状況調査 1月6日(金) ・ 申請等取次報告(福岡出入国管理局) 1月16日(月) ・ 特定技能試験合格へサポートおよび就職支援 ・ 日本語学院および佐世保警察署外事課との情報共有 ・ 日本語の学習時間を設定 ・ アルバイト先の紹介 ・ 留学生の対応が課題である。 ・ 日本語レベルを把握した上での受入れをしなければならない。
(5) 個人面談・保護者面談の実施	・ 調理1年保護者会 7月2日(土) 16人出席 ・ 担任による個人面談は、必要に応じて実施 ・ スクールカウンセラーおよび生活相談員の活用
(6) 企業奨学金	・ マルゼン食みらい創造財団給付型奨学金採用決定 7月25日(月)

(5) 地域連携・国際交流活動

取組の総括	
民間講師派遣事業では、高校3校から依頼を受け実施した。体験入学は、5校の高校から延べ111人を受け入れた。今年度新たに、夏休み子ども料理教室の開催と南地区コミセン祭りへの参加をした。両方とも地域から高評価を得ることが出来、地域とのつながりを強めることが出来た。今後も継続していく。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 民間講師派遣事業	・ 民間講師派遣事業3回実施 ① 6月2日(木) 大村高校(鴨川・梶山)家政科3年38人 ② 6月23日(木)川棚高校(鴨川・梶山)生活総合学科3年11人 ③ 7月13日(水)北松農業高校(鴨川・梶山)3年5人
(2) 高校生の体験入学	・ 佐世保東翔高校1年生来校(13人) 6月13日(月) ・ 清峰高校1年生来校(14人) 6月14日(火) ・ 北松農業高校1年生体験入学(11人) 10月19日(水) ・ 大村城南高校1年生体験入学(18人) 10月26日(水) ・ 九州文化学園高校1年1組(31人) 11月9日(水) ・ 九州文化学園高校1年2組(24人) 11月10日(木)
(3) 地域への食の提供	・ 夏休み子ども料理教室 8月22日(月)13:30～15:00 - 藤原町2組子ども会(小学生7人・保護者3人) - ウィナーロール、シュガーレーズンパンズ・オレンジゼリー ・ 学生レストラン・学園祭等での地域への食の提供
(4) 市民プロジェクト	・ 南地区コミセン祭り 11月13日(日) アジア3国井103個・焼き菓子46個販売 ・ 南地区自治協議会新春の集い 1月21日(土) ・ 子ども会やコミセン祭りなど地域と関わりがもてる行事に積極的に参加できた ・ 学生が協力してくれるので、とても助かっている
(5) 地域清掃活動	・ 年間4回の地域清掃活動ボランティアを実施

(6) 地元企業への講師派遣	・ 地元企業と連携したレシピの開発 ・ 地元メディア企画イベントへの協力およびレシピの共同開発 ・ 地元の野菜・果物等を使用した料理の開発
----------------	---

(6) 広報および学生募集活動

取組の総括	
令和4(2022)年4月から路線バスで、バス停前での車内アナウンス広告を開始した。また、バス停に九州文化学園専門校前という標記を入れてもらった。ホームページを4月後半からリニューアルしたことで高校生や保護者が知りたい情報が見やすくなった。オープンキャンパスの参加や資料請求もできるようになり利用者も増えた。今後も積極的に更新して閲覧数を増やしたい。オープンキャンパスの参加者数は、年間63人(高校生39人、保護者24人)で、昨年度の51人より増加した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 情報発信	・ ホームページリニューアル閲覧開始 4月28日(土) ・ ホームページ更新作業説明会 7月11日(月) ・ ホームページ更新対策会議 2月13日(月) ・ 令和4(2022)年度版パンフレット 4月4日(月) ・ 九州文化調理師専門学校のWikipedia新規作成 9月15日(木) ・ ホームページの更新：随時 ・ Instagramの更新：随時 (フォロワー数 171 → 226) ・ 路線バスでバス停前での車内アナウンス開始 令和4(2022)年4月 ・ バス停名を「藤原橋」→「藤原橋・九州文化学園専門校前」に変更 ・ 留学生ガイドブック作成・日本語学院110部配布 10月7日(金) ・ ホームページ 留学生ガイド掲載開始 11月16日(水) ・ 学園祭チラシ配布 藤原町1組2組3組回覧板へ 8月29日(月) 【課題等】 ・ ホームページ閲覧者数および閲覧箇所のチェック ・ 同窓会への情報発信(LINEの利用) ・ 進路ガイダンスへの参加と内容の見直し ・ 日々の授業と行事の多さおよびガイダンス等の出席により、教員の多忙が目立ったので、内容を吟味して計画していく必要がある
(2) オープンキャンパス(OC)	・ 年間8回実施(内容を変えて実施) ・ 送迎バスを準備(第1回から第3回) - 第1回 6月19日(日) ①(諫早2人)、②(松浦1人) - 第2回 7月24日(日) ①(諫早2人・大村5人) - 第3回 8月21日(日) ①(諫早1人) ・ ホームページから申込できるようにした(参加およびバス利用)
(3) 高校訪問	・ 5月20日～6月3日 72校(長崎県50校・佐賀県22校) 内容：新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、OC案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書 等 ・ 7月11日～7月14日 8校 内容：OCポスター、高校進路状況、情報交換 等 ・ 県内の離島13校には、6月8日に郵送 内容：学生サポート制度、本校就職状況、OC案内、募集要項、ポスター ・ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校説明 7月26日(火) 7月27日(水) 8月24日(水) ・ 高校訪問9校(10/28高校教員との意見交換会案内) 9月27日(火) ・ 高校訪問11校(県専各連パンフ1,700冊配布)12月20日(火) 21日(水)
(4) 地元メディアの活用	・ 県内の新聞社・テレビ局への取材要請 ・ テレビ佐世保：入学式・卒業式・コミセン祭り(スポットインサセボ放映) ・ 長崎新聞社：卒業式・夏休み子ども料理教室
(5) 体験入学の受入れ	・ 高校生体験入学5校6回(令和3(2021)年度は3校3回) ・ 佐世保東翔高校 1年生来校(13人) 6月13日(月) ・ 清峰高校 1年生来校(14人) 6月14日(火) ・ 北松農業高校 1年生体験入学(11人) 10月19日(水) ・ 大村城南高校 1年生体験入学(18人) 10月26日(水) ・ 九州文化学園高校 1年1組(31人) 11月9日(水) ・ 九州文化学園高校 1年2組(24人) 11月10日(木)

(6) 募集要項の見直し	・ 高校生および保護者に分かりやすく1枚にまとめて作成して配布 ・ 募集要項は、指定校・学内・公募と分けていたのを令和4(2022)年度から1つにまとめたことにより、見やすく分かりやすくなった
--------------	---

(7) 学園内の連携促進

取組の総括	
学園内の案内のあった行事には、積極的に参加する姿勢でのぞんでいる。7月開催のオープンキャンパスでは、送迎用として九州文化学園小中学校のマイクロバスを出していただき、大変助かった。ワクチン接種に関しては、長崎国際大学で多くの学生や職員が接種することが出来たので有難かった。インフルエンザワクチン接種に関しては、本校で接種できるので感謝している。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs に関する連絡協議会	・ 協議会の内容を全職員で共有する。(議事録の回覧など) ・ 年間の行事計画の設定と学生・職員への周知 ・ 学園SDGs担当者連絡会議 ・ 九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント(長崎国際大学)3月17日(金)
(2) 学園内募集担当者連絡会	・ 連絡会の内容を全職員で共有する(議事録の回覧など) ・ 他部門との相互協力体制を図る ・ 募集担当者会①(長崎短期大学)4月26日(火) ・ 募集担当者会WG①(本校図書室)5月31日(火) ・ 学園内募集担当者WG②(長崎短期大学)9月26日(月) ・ 留学生用ガイドブックおよびホームページの英語版を九州文化学園小中学校ルーク・ロベージュ副校長に作成を依頼し、完成させた。
(3) 茶道大会等への参加	・ 波佐見茶会(3人参加)7月2日(土) ・ 開国祭茶会(5人参加)10月30日(日) ・ 波佐見 秋の茶会(2人参加)11月19日(土) ・ 長崎短期大学茶道大会(5人参加)12月11日(日) ・ 長崎短期大学「幼児のための音楽と動きの集い」アルカス佐世保(1人参加)11月22日(火)
(4) 食物分野関係連絡協議会	・ 食物分野連絡協議会 9月13日(火)(長崎短大) 【課題等】 ・ 情報の共有・連携により協力体制の強化 ・ 学園全体と各学校の将来を見据えた計画立案 ・ 食物分野に関する連絡協議会は、今後も総合企画室からの呼びかけや進捗を望む
(5) 進路ガイダンス	・ 九州文化学園高校体験入学の実施 - 九州文化学園高校1年1組(7人) 11月9日(水) - 九州文化学園高校1年2組(14人) 11月10日(木) ・ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月26日(火) 7月27日(水) 8月24日(水)
(6) オープンキャンパスの協力依頼	・ 7月第2回オープンキャンパスでの送迎バスで九州文化学園小中学校送迎バス1台を借用 ・ 6月の第1回と8月の第3回オープンキャンパスの送迎で法人本部のワゴン車を借用

(8) SDGs の推進

取組の総括		
多くの教育活動が SDGs の取組に関連している。このことを学生に理解させ意識させることが大切である。その都度説明している。今後学生がアイデアを出して取り組む場面を多く作る必要がある。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) SDGs 推進の周知	・ オリエンテーション校長講話(SDGsの説明)4月11日(月) ・ 年度初めにSDGs推進の周知。ホームルームで資料等配布 ・ SDGsの取組報告書を作成し、学生に配布 2月下旬 【課題等】 ・ 学生の意識を高める工夫が必要である	4
(2) 地域清掃ボランティア	・ 学校周辺の清掃活動ボランティア	11,17
(3) 食物ロス減少活動	・ 食材は必要な分だけ購入し使い切る ・ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発	2,4,12
(4) 地域への食の提供および	・ 学生レストランの実施	2,4,17

び食育の推進	・ 地域イベント(地元小学生対象料理教室)の開催および参加	
(5) 地産地消の推進のためのレシピ開発	・ 地元企業との連携による開発 ・ 生産者との連携による開発 ・ 地元メディアとの連携による開発	4,8,11,17
(6) 民間講師派遣事業	・ 高校での調理実習の講師派遣 ・ 高校家庭科教諭研修会での講師派遣	4,17
(7) 高校生体験入学受入れ	・ 高校の教科「総合的な学習の時間」における進路学習 ・ 高校の教科「家庭」における調理実習を実施する	4,17
(8) 学園 SDGs 宣言の日	・ 九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント 3月17日(金)(長崎国際大) 「えび塩」販売 最優秀部門賞受賞	4,17

(9) 管理運営

取組の総括		
財政基盤を安定させるために 25 人以上の入学希望者確保を目指したが 14 人の入学に終わった。常に支出の見直しを図りながら予算執行をした。情報セキュリティでは、データサーバー・バックアップシステム設置したため、USB での情報共有は減少し、学内 Gmail や共有フォルダでの適切な情報データの共有が行われた。新型コロナウイルス感染予防対策も適切に行うことができた。		
項目	取組の実績・成果・課題	
(1) 予算の適正な執行	・ 中期計画に則した予算編成と適正な執行 ・ 募集定員の確保につとめる ・ 常に支出の見直しを図る	
(2) 情報セキュリティマネジメント	・ パソコン(職員室)3台搬入 6月14日(火) ・ データサーバー・バックアップシステム設置 6月14日(火) ・ 情報資産管理者台帳の更新 ・ 共有フォルダの整理 ・ 情報セキュリティポリシーの周知徹底	
(3) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	・ 学内メール便の有効活用 ・ 学内Gmailでの適切な情報データの共有 ・ 学校法人九州文化学園辞令交付式(長崎国際大学) 4月1日(金) ・ 学校法人九州文化学園評議員会(長崎国際大学) ① 5月27日(金) ② 6月27日(月) ③ 9月30日(金) ④ 12月2日(金) ⑤ 3月24日(金) ・ 学園責任者連絡会議 ① 4月13日(水)Zoom ② 7月4日(月)長崎国際大学 ③ 9月5日(月)長崎短期大学 ④ 9月20日(火) ⑤ 11月7日(月)長崎短期大学 ⑥ 1月10日(木)Zoom ⑦ 3月6日(月)本校	
(4) 新型コロナウイルス感染症予防	・ 新型コロナウイルス感染予防の徹底 ・ 正しい情報の収集と適切な判断・対応・学生の授業実習に支障が出ないようにする。 ・ インフルエンザワクチン接種 10月17日(月)7+5人 ・ 新型コロナワクチン接種 5月27日(金)1年生9人 10月24日(月)15+5人	

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 情報セキュリティ委員会	・ 1回実施 1月20日(金)
(2) 4040 会議	・ 11回実施 校長・事務長・教務主任参加 (行事の確認と事務局長会議の報告)
(3) 学校関係者評価委員会	・ 2回実施 8月と2月

(10) 施設設備等

取組の総括
年間を通して施設設備の定期点検実施している。取替改修工事も優先順位を付けて学校運営に支障がでないように対応した。今年度は、全館の 90%以上の電気照明器具を LED に取替工事を行った。電気料金の値上げに対応していけることを期待している。コピー印刷機も低コストを意識したものに取り換えた。

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の定期点検実施	・ 消防署立ち入り検査 5月10日(火) 指摘事項なし ・ 貯水槽清掃 8月16日(火) 異常なし ・ 消防設備点検 8月24日(水) 異常なし ・ 施設管財会議 9月28日(水) ・ ハウステンボス・技術センター、南風崎MGレジデンス、法人本部、校長 ・ 地籍調査に伴う現地立会 10月3日(月) ・ 毎日の清掃時間における点検の実施 ・ 毎月1回の定期点検と報告・点検の日を定着させて、早期発見と早期対応に努める。
(2) 実習設備・器具の点検と整理整頓	・ 実習時間の準備と後片付け時における点検と整理チェックシート記入と報告の徹底
(3) 計画的な取替・改修工事の実施	・ 安全第一主義で将来を見据えた計画的な実施 ・ ポンプ取替工事 4月9日(土)、11日(月) ・ ワックスがけ(1階玄関・下足室・廊下) 4月9日(土) ・ パソコン(職員室)3台搬入 6月14日(火) ・ データサーバー・バックアップシステム設置 6月14日(火) ・ 調理実習排水管清掃作業 6月11日(土) ・ 製菓実習室水漏れ修理 6月28日(火) ・ 調理実習室カメラ・モニター取替工事 7月13日(水) ・ 都市ガス警報器取替改修工事(調理実習室等) 8月30日(火) ・ 製菓実習室水漏れ修理 10月15日(土) ・ 1F・2F洗面台排水修理 11月14日(月) ・ 2F女子トイレ水漏れ修理 12月1日(木)、12月8日(木) ・ 2F調理職員室コピー印刷機取替 9月9日(金) ・ 給湯器取替工事 1F 1月30日(月) 2F 3月14日(火) ・ LED取替工事 2月4日(土)、2月5日(日) ・ 環境整備 校舎周りの樹木の剪定

(11) その他活動

取組の総括	
同窓会との連携をする取り組みができなかった。歯科衛生士学院との連携は、年間を通して計画通りにできた。特に集団給食や調理実習は、歯科衛生士学院の学生も楽しみにしていて好評である。学校関係者評価委員会は5人の委員の内2人が入れ替わり8月と2月に2回開催した。評価の内容の報告と公表も滞りなくしている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 同窓会との連携	・ 設備の補充などで同窓会に協力をさせていただいて大変ありがたい ・ 同窓会連絡網の整備は、まだ不十分である ・ LINEを利用した情報発信をしていく
(2) 歯科衛生士学院との連携	・ 学生健康診断の共同実施 4月19日(火) ・ 防災避難訓練の共同実施 5月10日(火) 千代消防署 ・ 学園祭の共同開催 10月9日(日) ・ 調理実習(歯科1年生) 11月29日(火) 2月9日(木) ・ 調理実習(歯科2年生) 2月9日(木) 3月15日(水) ・ 集団給食実習への食事注文協力 ・ 学院クリスマス会ランチボックス作成 12月23日(金) ・ 4040プロジェクト：月に1回開催(校長・事務長・各教務主任) ・ 集団給食を楽しみにしている学生が多く、注文は協力的である ・ 学院生の調理実習の受講料入金は、本校の収入となっているのでとてもありがたい
(3) 学校関係者評価委員会	・ 第1回学校関係者評価委員会 8月23日(火) ・ 自己評価(学生)実施 11月17日(木) 23人 ・ 自己評価(職員)実施 11月21日(月)～12月26日(火)7人 ・ 第2回学校関係者評価委員会 2月3日(金) ・ 学校関係者委員会評価の報告(県学事振興課へ) 3月上旬 ・ 学校関係者委員会評価の公表(ホームページ) 3月上旬 ・ 令和4(2022)年度事業報告(法人本部へ) 4月下旬 ・ 令和5(2023)年度事業計画(法人本部へ) 3月上旬

8.九州文化学園歯科衛生士学院

1) 経営理念・経営目標

経営理念	資格取得のための知識と高い技術を養い、社会に貢献しうる人間教育を目指す
経営目標	歯科衛生教育に関連する施設・行政等と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行うため、研修・研究を重ね学生指導に努める

2) 1年間の総括と評価

国家試験対策では、学生一人毎に全職員での分析会議を実施し、学生の弱点科目が顕著となり、全職員で情報を共有することで、苦手科目克服の対策強化、得意科目の更なる点数アップに繋がった。令和4(2022)年度も新型コロナ対策しながら卒業生24人全員受験することができた。結果は22人合格で合格率は91.7%であった。 3年ぶりに2年生の研修旅行(大分・熊本方面)を実施し、研修と学生の相互理解にもなり素晴らしい思い出を作ることが出来た。また、今年度新たに「年金セミナー」や「子宮頸がんワクチン講話」など外部講師を招き現代の社会人としての知識を得る機会を設けた。 コロナ禍で制限されていた学生の自治会活動も少しずつではあるが、工夫をしながら活動することが出来た。修学支援新制度・専門実践教育訓練給付金制度・学生サポート制度に関して適切に対応することができた。就職支援については、就職率100%である。 今年度は、ホームページ・パンフレット・募集要項などのリニューアルと路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス実施し、「藤原橋」のバス停名を「藤原橋・九州文化学園専門校前」に変更した。また、高校生の体験入学の受入れも昨年の3回から6回に倍増した。また、紙媒体での業者広告は無くした。 今後は、進路変更や成績不振で退学をする学生を減らすための学生支援を充実させていきたい。また、ホームページ・Instagramなどの更新を定期的に充実した内容にしていきたい。
--

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 学生自治会委員会を4月に立ち上げ、学生が主体的に行事を企画・運営する場面を月に1回程度設けた。 ✓ 職員研修は、リモートで1人2回以上の参加できた。
戦略Ⅱ	✓ 学校関係者評価委員会では、事業計画書・報告書の項目に沿った評価シートに変更した。 ✓ 教育支援に関する制度の周知を徹底的に運用できた。教育訓練給付金制度の継続および修学支援新制度への対応も滞りなく出来た。
戦略Ⅲ	✓ 講師会総会をZoomで開催した。 ✓ 歯科医院就職合同説明会および就職講話を10月に全員参加形式で開催し、地元就職率向上に繋がった。 ✓ デンタルフェスティバルおよび「8020運動」など歯科医師会との連携行事に多くの学生が参加できた。
戦略Ⅳ	✓ 必要に応じてZoomでの授業を実施している。 ✓ 職員室のデータサーバー・バックアップシステムの設置が出来た。
戦略Ⅴ	✓ ホームページ・学校案内パンフレットをリニューアルした。 ✓ 路線バス内での学校案内アナウンス広告を実施。 ✓ バス停標識に学校名を入れた。 ✓ メディア・ガイダンスなど広告費用に見合う効果が出ているか検証し、継続および中止を決定した。
戦略Ⅵ	✓ 専門実践教育訓練給付金制度利用希望者1人入学。 ✓ 財政面における支出内容の見直しも数回行い、適切に処理をした。 ✓ 入学者が39人であった。 ✓ LED照明に取替工事をして省エネ化を図った。
学園内の連携促進	✓ 他部門からの講師派遣により充実したカリキュラムが実現している。 ✓ オープンキャンパスの送迎バスを依頼した。 ✓ 小中学校・幼稚園でのブラッシング指導の実施。
付帯計画と課題	✓ 歯科衛生士養成校と相互発展を目指し情報交換を積極的に行い歯科医療発展に寄与していく。 ✓ 県や佐世保市歯科医師会と実習機関先・実習内容・教育課程・学生募集に関してさらに連携を強化していく。

4) 主要情報

(1) 卒業生数、資格等に関する実績

【卒業生数】

課程名	人数	備考
医療関係専門課程	24 人	
総計	24 人	
卒業生の累計	1,311 人	※ 2 年課程時代を含む。

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
歯科衛生士	22 人	24 人受験(91.7%：全国平均 93.0%)

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4 月 5 日(火)	
入学式	4 月 6 日(水)13:00	学生・保護者・職員のみ
オリエンテーション	4 月 7 日(木)	理事長講話を含む
第 1 回オープンキャンパス	6 月 19 日(日)	17 人参加(高校生 12 人・保護者 5 人)
第 2 回オープンキャンパス	7 月 24 日(日)	41 人参加(高校生 32 人・保護者 9 人)
第 3 回オープンキャンパス	8 月 21 日(日)	20 人参加(高校生 16 人・保護者 4 人)
第 4 回オープンキャンパス	9 月 17 日(土)	16 人参加(高校生 12 人・保護者 4 人)
学園祭	10 月 9 日(日)	WEB 開催
研修旅行(大分・熊本方面)	10 月 12 日(水)～14 日(金)	2 年生
第 5 回オープンキャンパス	10 月 29 日(土)	2 人参加(高校生 1 人・保護者 1 人)
第 6 回オープンキャンパス	12 月 17 日(土)	6 人参加(高校生 2 人・保護者 4 人)
戴帽式	1 月 13 日(金)	学生・保護者・職員・来賓(歯科医師会 1 人)
第 7 回オープンキャンパス	1 月 21 日(土)	7 人参加(高校生 4 人・保護者 3 人)
第 32 回歯科衛生士国家試験	3 月 5 日(日)	24 人受験 場所(九州産業大学)
卒業式	3 月 10 日(金)13:00	学生・保護者・職員・来賓(歯科医師会 1 人)
合格者登校日	3 月 24 日(金)	入学予定者 39 人参加
歯科衛生士国家試験合格発表	3 月 24 日(金)	22 人合格(24 人受験)91.7%

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
指定校推薦	書類選考	22 人受験
公募推薦・学内推薦入試	11 月 4 日(金)	14 人受験(公募 10 人・学内 4 人)
一般(一期)入試	12 月 2 日(金)	受験者なし
一般(二期)入試	2 月 6 日(月)	2 人受験
一般(三期)入試	3 月 9 日(木)	1 人受験

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 基本的な教学運営方針

① 現場で役立つ歯科衛生士として必要な知識と技能の修得
② 歯科疾患の予防および診療の補助者としての有能な歯科衛生士の育成
③ 地域の歯科医療向上への寄与

(2) 教育活動

取組の総括
国家試験対策では、年 14 回実施する業者模擬試験受験後、学生一人毎に、全職員での分析会議を実施。学生の弱点科目が顕著となり、また、全職員で情報を共有することで、苦手科目克服の対策強化、得意科目の更なる点数アップに繋がった。令和 4(2022)年度も新型コロナ対策しながら卒業生 24 人全員受験することができたことに感謝している。結果は 22 人合格で合格率は 91.7%であった。 10 月には、3 年ぶりに 2 年生の研修旅行(大分・熊本方面)を実施し、研修と学生の相互理解にもなり素晴らしい思い出を作ることが出来た。また、今年度新たに「年金セミナー」や「子宮頸がんワクチン講話」など外部講師を招き現代の社会人としての知識を得る機会を設けた。

コロナ禍で制限されていた学生の自治会活動も少しずつではあるが、工夫をしながら活動することが出来た。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 国家試験合格 100%	・ 早期取組(2年生 12月から模擬試験実施) ・ 模擬試験 14回実施 ・ 国家試験対策講座と冬季補習の実施 ・ 担当制指導により個別にきめ細かく指導 ・ 全職員による模擬試験点数分析会議の実施 ・ 進研アドテストを実施(1・2年生) 7月29日(金) ・ 国家試験日: 3月5日(日) 会場: 九州産業大学 発表: 3月24日(金) ・ DHS講座(2・3年生) 1月10日(火) 【課題等】 ・ 1、2年次から国家試験合格を目指した早期取組を対策強化する ・ 国家試験に向けて早期の取組をしている割には、学生の意識レベルがまだ低い ・ 担当制による個別指導と模擬試験の分析会議の結果を、職員間で情報共有する ・ 1年時から勉強する習慣を身に着けることから指導する
(2) 先進の歯科医療技術の修得	・ 高齢者・障がい者施設、リハビリ・大学病院、急性期医療施設における多職種連携による口腔ケア・先進の歯科医療技術の修得 ・ 臨床実習(2年生28日間、3年生90日間)の実施 ・ 戴帽式(2年生) 1月13日(金)
(3) 地域歯科保健活動の実践的修得	・ 佐世保市中央保健福祉センターにおける臨地実習 ・ 佐世保共済病院など臨床実習では、新型コロナの影響で中止 ・ 中止となった施設に対しての代替授業を実施した
(4) 見学会・講習会参加	・ 長崎大学医学部解剖見学(1年生)は中止 ・ 長崎県歯科医学大会講演会(1・2年生)9月4日 Zoom参加 ・ 研修旅行(2年生)大分・熊本方面 10月12日(水)～14日(金) ・ 矯正歯科見学(2年生) 実施 3月7日(火)
(5) 即戦力強化	・ 理事長講話(1年生) 4月7日(木) ・ 学生によるWEB学園祭(動画配信) 10月9日(日) ・ 学生自治会による「南地区コミセン祭り」参加 11月13日(日) 内容: 歯科衛生士体験コーナー、紙芝居、塗り絵、ヨーヨー釣り ・ 学生によるクリスマス会開催 12月23日(金) ・ 医療事務管理士技能認定試験(歯科)の実施 ・ 救急救命法講習会(2年生) 7月11日(月) 千代消防署 ・ 接遇マナー講座(1・2年生) ・ 接遇マナー検定試験3級(2年生) 11月5日(土) ・ 年金セミナー(1・2年生) 1月11日(水)・19日(木) ・ 村上病院「子宮頸がんワクチン」講話(全学年)8月18日(木) 【課題等】 ・ ホームルームの学生自主運営により朝と帰りのホームルームで準備物の確認等、皆の前に立って発言することで対人関係や発表の練習になる ・ 学生自治活動の定着とSDGs推進のボランティア活動の充実 ・ 学生自治活動は、行事ごとに学年担当制を設けたことにより、計画から実行にあたり、充実した自治活動が学生主体でできた

(3) 教職員の研修

取組の総括	
ほとんどが Zoom での研修だったが、対面での研修も開催された。全衛協九州大会が中止となり書面開催となったのが残念だった。今年度は対面で意見交換できる場がなかった。ただし、Zoom での開催は、時間と場所と費用の面から考えれば、効率的な面が多いので今後も積極的に研修に参加する体制をつくりたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 指導力向上のための研修会	・ 職員健康診断 6月15日(水)～6月17日(金) ・ 進研アドWEBセミナー 7月7日(木) ・ 歯科衛生士専任教員講習会Ⅳ 8月22日(月)～26日(金) 8月22日～8月23日は学校でZoom 8月24日～8月26日は東京で講習 研修終了後職員間で情報共有した ・ 長崎県歯科医学大会講演会(1・2年生) 9月4日 Zoom参加 ・ 全衛協九州地区会(佐賀) 9月10日(土) 中止 → 書面開催

	・ Google Workspace研修会(長崎短期大学)12月26日(月)3人参加 ・ 厚生労働省 労働法の教え方セミナー WEB 1月26日～2月9日
(2) 学校運営に関する研修会	・ 講師会総会 4月1日(金)19:30～Zoom 講師15人参加 ・ 専各連九州ブロック長崎大会 7月21日(火)Zoom ・ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連) 10月28日(金)Zoom ・ 県専各連職員研修会 2月22日(水)Zoom ・ 長崎県専各連理事会(長崎) 3月23日(木)
(3) 研修会の情報収集	・ 全国歯科衛生士教育協議会との連携 ・ 他の教育機関および学園内での連携 ・ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有

(4) 学生支援活動

取組の総括	
修学支援新制度・専門実践教育訓練給付金制度・学生サポート制度に関して適切に対応することができた。スクールカウンセラーの利用頻度は少ないが、心強い存在である。就職支援については、就職率 100%である。進路変更や成績不振で退学をする学生を減らすための学生支援を充実させていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 修学支援新制度	・ 学生および保護者への周知と適切な対応
(2) 厚労省専門実践教育訓練給付金制度	・ 令和4(2022)年度は1年生2人の社会人が利用している ・ 令和5(2023)年度以降も更新申請中(3年ごとの更新) ・ 教育訓練給付金制度の申請条件に、入学者数に対する就職率が80%以上という条件がある。この制度の再指定および新規で申請する際に重要な事項であるため、退学者を減らすことと就職率100%が大事である
(3) 学生サポート制度	・ 学生および保護者への周知と適切な対応 ・ 令和4(2022)年度の利用者は 1年生(通学費補助3人・住宅費補助2人・駐車場代補助0人) 2年生(通学費補助1人・住宅費補助0人・駐車場代補助6人) 3年生(通学費補助3人・住宅費補助0人・駐車場代補助4人)
(4) スクールカウンセラーの利用	・ 毎週月曜日午後にはカウンセラーの来校、秘密の遵守 ・ 生活相談に関しては、随時、生活相談員と連携した早めの対応 ・ 学生健康診断 4月19日(火) ・ スクールカウンセラーは、学生や職員にとって大変心強い存在で、継続配置したい
(5) 就職率 100%	・ 求人票など情報提供を確実にする ・ 佐世保市歯科医師会との連携 (院内見学会・合同就職説明会・就職講話) ・ 面接指導および就職試験報告書の作成と有効活用
(6) 家庭との連携強化	・ 保護者面談の実施 1年(6/22～7/19)、2年(6/20～8/2)、3年(8/19～9/9) ・ 電話連絡およびプリント配布による情報共有

(5) 地域連携・国際交流活動

取組の総括	
佐世保市歯科医師会との連携については、今年度新たに歯科医師会による就職に関する講話と合同就職説明会を開催した。今後も連携を強化して内容を充実させていきたい。 教育施設等でのブラッシング指導に関して、対面で実施する機会が増えた。今年度は新たに平戸高校から強い要望があり実施した。 地域清掃活動だけでなく地域の祭りに参加し地域連携を深める機会となった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 佐世保市歯科医師会との連携強化	・ 講師会総会Zoom (講師15人参加) 4月1日(金) ・ 佐世保市歯科医師会(畳屋医師)による就職に関する講話(3年生) 9月15日(木) ・ デンタルフェスティバル関係団体合同会Zoom 9月15日(木) ・ 七熊正先生旭日双光章受賞祝賀会 10月16日(日) ・ 佐世保市歯科医師会「合同就職説明会」(3年生全員+歯科医院10) 10月23日(日) ・ 院内見学会(3年生) 11月1日(火)～随時 ・ 市内就職率向上のための取組は実施しているが成果としてまだまだである。 ・ 市内就職に関する講話(令和4(2022)年9月実施：畳屋先生)を3年生だけでなく2年・3年合同で実施する。3年生はすでに就職地域をほぼ決定しているため、2年生の段階で市内就職の魅力を伝え、市内で就職をする学生が増えるのではないかと考える。

	・ デンタルフェスティバルおよび地域清掃活動については、学生自治会を中心に積極的に参加できた。
(2) 教育施設等でのブラッシング指導	・ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室(DVDでの指導) 6月6日(月) ・ 九州文化学園小学校ブラッシング指導2年生 Zoom 6月27日(月) ・ 平戸高校ブラッシング指導2年生 8月3日(水) ・ 三川内中学校ブラッシング指導2年生 Zoom10月19日(水) ・ 歌浦小学校ブラッシング指導2年生 11月16日(水)
(3) 地域清掃活動	・ 地域清掃ボランティア活動(2年生) 7月8日(金)・9月29日(木) 【その他】 ・ 南地区コミセン祭り 11月13日(日) 内容：歯科衛生士体験コーナー、紙芝居、塗り絵、ヨーヨー釣り

(6) 広報および学生募集活動

取組の総括	
今年度は、ホームページ・パンフレット・募集要項などのリニューアルと路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス実施し、「藤原橋」のバス停名を「藤原橋・九州文化学園専門校前」に変更した。また、高校生の体験入学の受入れも昨年の3回から6回に倍増した。また、紙媒体での業者広告は無くした。 今後は、ホームページ・Instagramなどの更新を定期的に充実した内容にしていきたい。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 情報発信	・ ホームページリニューアル閲覧開始 4月28日(土) ・ ホームページ更新作業説明会 7月11日(月) ・ ホームページ更新対策委員会 2月13日(月) ・ 令和4(2022)年度版パンフレット 4月4日(月) ・ 九州文化歯科衛生士学院のWikipedia新規作成 9月15日(木) ・ ホームページの更新：随時 ・ Instagramの更新：随時 (フォロワー数268 → 377) ・ 路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス実施 令和4(2022)年4月以降バス停名を「藤原橋」→「藤原橋・九州文化学園専門校前」に変更 【課題等】 ・ ホームページ閲覧者数および閲覧箇所のチェック ・ 魅力あるホームページ更新とInstagramの更新 ・ 同窓会への情報発信(LINEの利用) ・ 進路ガイダンスへの参加と内容の見直し
(2) オープンキャンパス(OC)	・ 年間7回実施(内容を変えて実施) ・ 送迎バスを準備(第1回から第3回) - 第1回 6月19日(日)①(諫早2人)、②(松浦1人) - 第2回 7月24日(日)①(諫早2人・大村5人) - 第3回 8月21日(日)①(諫早1人) ・ ホームページから申込できる(参加およびバス利用)
(3) 高校訪問	・ 5月20日～6月3日 72校(長崎県50校・佐賀県22校) - 内容：新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、OC案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書 等 ・ 7月11日～7月14日 8校 - 内容：OCポスター、高校進路状況、情報交換 等 ・ 県内離島13校には、6月8日に郵送 - 内容：学生サポート制度、本校就職状況、OC案内、募集要項、ポスター 等 ・ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校説明 7月26日(火) 7月27日(水) 8月24日(水) ・ 高校訪問9校(10/28高校教員との意見交換会案内) 9月27日(火) ・ 高校訪問11校(県専各連パンフ1,700冊配布) 12月20日(火)21日(水)
(4) 地元メディアの活用	・ 県内の新聞社・テレビ局への取材要請 ・ テレビ佐世保：入学式、戴帽式(スポットインサセボ放映) ・ 長崎新聞社：平戸高校ブラッシング指導、戴帽式
(5) 体験入学の受入れ	・ 高校生体験入学5校(令和3(2021)年度は3校) - 佐世保東翔高校1年生来校(7人) 6月13日(月) - 清峰高校1年生来校(5人) 6月14日(火) - 北松農業高校1年生体験入学(4人) 10月19日(水)

	大村城南高校1年生体験入学(1人) 10月26日(水) 九州文化学園高校1年1組(7人) 11月9日(水) 九州文化学園高校1年2組(14人) 11月10日(木)
(6) 募集要項の見直し	・ 高校生および保護者に分かりやすく1枚にまとめて作成して配布 ・ 学則変更：令和5(2023)年度より男女共学 ・ 募集要項は、指定校・学内・公募と分けていたが、令和4(2022)年度から1つにまとめたことにより、入学希望者・保護者・私たちも見やすく説明しやすくなった。
(7) 歯科医師会との連携	・ テレビ佐世保：歯磨きのポイント、オープンキャンパス案内(学生出演、8020推進隊) ・ オープンキャンパス案内ポスターを各医院に貼付のお願い

(7) 学園内の連携促進

取組の総括	
学園内での連絡協議会や他部門への行事および研究調査等の協力で積極的に参加することで連携促進をしている。また、オープンキャンパスでの送迎バスなど九州文化学園小中学校の協力を得て実施できた。新型コロナワクチン接種やインフルエンザワクチン接種では、学園内の協力体制が出来ているので感謝している。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGsに関する連絡協議会	・ 協議会の内容を全職員で共有する(議事録の回覧など) ・ 年間の行事計画の設定と学生・職員への周知 ・ 学園SDGs担当者会議 8月25日(木) 10月27日(木) 12月22日(木) ・ 九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント(長崎国際大学) 3月17日(金)
(2) 学園内募集担当者連絡会	・ 連絡会の内容を全職員で共有する(議事録の回覧など) ・ 他部門との相互協力体制を図る ・ 募集担当者会①(長崎短期大学) 4月26日(火) ・ 募集担当者会WG①(本校図書室) 5月31日(火) ・ 学園内募集担当者WG②(長崎短期大学) 9月26日(月)
(3) 茶道大会への参加	・ 波佐見茶会(3人参加)7月2日(土) ・ 開国祭茶会(5人参加)10月30日(日) ・ 波佐見 秋の茶会(2人参加)11月19日(土) ・ 長崎短期大学茶道大会(1人参加)12月11日(日) 【その他】 ・ 長崎短期大学「幼児のための音楽と動きの集い」 アルカス佐世保(1人参加)11月22日(火)
(4) ブラッシング指導	・ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室(DVDでの指導) 6月6日(月) ・ 九州文化学園小学校ブラッシング指導2年生 Zoom 6月27日(月)
(5) 進路ガイダンス	・ 九州文化学園高校体験入学の実施 九州文化学園高校1年1組(7人) 11月9日(水) 九州文化学園高校1年2組(14人) 11月10日(木) ・ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月26日(火) 7月27日(水) 8月24日(水)
(6) オープンキャンパス(OC)の協力依頼	・ 7月の第2回オープンキャンパスでの送迎バスで九州文化学園小中学校送迎バス1台を借用 ・ 6月の第1回と8月の第3回オープンキャンパスの送迎で法人本部のワゴン車を借用

(8) SDGsの推進

取組の総括		
SDGsの推進の取組は、以下のように様々な取り組みをしているが、学生がSDGsと意識して取り組むような工夫が必要だった。学生自治会を積極的に活用しながら推進していきたい。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) SDGs推進の周知	・ 年度初めにSDGs推進の周知。ホームルームで年3回資料等配布して啓蒙する。 ・ 2月にSDGsに関する作品を提出(1・2年生全員)	4
(2) ペットボトルキャップ回収	・ ペットボトルキャップ回収は45Lの袋に集まった。	1,3
(3) 地域清掃ボランティア	・ 地域清掃ボランティア活動(2年生) 7月8日(金)・9月19日(木) ・ 南地区コミセン祭り 11月13日(日) (歯科衛生士体験コーナー・紙芝居・塗り絵・ヨーヨー釣り)	11,17

(4) ブラッシング指導	・ 認定こども園九州文化学園歯磨き教室(DVDでの指導) 6月6日(月) ・ 九州文化学園小学校ブラッシング指導2年生 Zoom 6月27日(月) ・ 平戸高校ブラッシング指導2年生 8月3日(水) ・ 三川内中学校ブラッシング指導2年生 Zoom10月19日(水) ・ 歌浦小学校ブラッシング指導2年生 11月16日(水)	3,4,17
(5) デンタルフェスティバル	・ デンタルフェスティバル 6月5日(日) 学生 14 人、職員 3 人(表彰式: 校長)	3,17
(6) 8020 運動の推進	・ 佐世保市歯科医師会・テレビ佐世保と協力して実施 ・ テレビ佐世保8020推進隊においては、6月に2年生、11月に1年生(各2人ずつ)が、メディアを通して歯磨きのポイントを伝達し、オープンキャンパスの案内等を行った。	3,4,17
(7) 高校生体験入学	・ 高校の教科「総合的な学習の時間」における進路学習のサポート	4,17

(9) 管理運営

取組の総括		
財政基盤を安定させるために入学希望者の定員確保を目指したが 39 人の入学に終わった。常に支出の見直しを図りながら予算執行をした。情報セキュリティでは、データサーバー・バックアップシステム設置したため、USB での情報共有は減少し、学内 Gmail や共有フォルダでの適切な情報データの共有が行われた。新型コロナウイルス感染予防対策も適切に行うことができた。		
項目	取組の実績・成果・課題	
(1) 予算の適正な執行	・ 中期計画に則した予算編成と適正な執行 ・ 募集定員の確保 ・ 常に支出の見直しを図る	
(2) 情報セキュリティマネジメント	・ 情報セキュリティポリシーの周知徹底 ・ 情報セキュリティのための周辺機器の設置と構築	
(3) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	・ 学内メール便の有効活用 ・ 学内Gmailでの適切な情報データの共有 ・ 学校法人九州文化学園辞令交付式(長崎国際大学) 4月1日(金) ・ 学校法人九州文化学園評議員会(長崎国際大学) ① 5月27日(金) ② 6月27日(月) ③ 9月30日(金) ④ 12月2日(金) ⑤3月24日(金) ・ 学園責任者連絡会議 ① 4月13日(水)Zoom ② 7月4日(月)長崎国際大学 ③ 9月5日(月)長崎短期大学 ④ 9月20日(火) ⑤ 11月7日(月)長崎短期大学 ⑥ 1月10日(木)Zoom ⑦ 3月6日(月)本校	
(4) 新型コロナウイルス感染予防	・ 新型コロナウイルス感染予防の徹底 ・ 正しい情報の収集と適切な判断・対応・学生の授業実習に支障が出ないようにする。 ・ インフルエンザワクチン接種 10月17日(月)36+1人 ・ 新型コロナワクチン接種 5月27日(金)1年生9人 11月5日(土) 42+1人	

《主たる会議等の開催実績》

会議名	開催回・開催日等
(1) 情報セキュリティ委員会	・ 1回実施 1月20日(金)
(2) 4040 会議	・ 11回実施 校長・事務長・教務主任参加 (行事の確認と事務局長会議の報告)
(3) 学校関係者評価委員会 教育課程編成委員会	・ 2回実施 8月と2月

(10) 施設設備等

取組の総括	
年間を通して施設設備の定期点検実施している。取替改修工事も優先順位を付けて学校運営に支障がでないように対応した。今年度は、全館の 90%以上の電気照明器具を LED に取替工事を行った。電気料金の値上げに対応していることを期待している。コピー印刷機も低コストを意識したものに取り換えた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の定期点検実	・ 消防署立ち入り検査 5月10日(火) 指摘事項なし

施	・ 貯水槽清掃 8月16日(火) 異常なし ・ 消防設備点検 8月24日(水) 異常なし ・ 施設管財会議 9月28日(水) ・ ハウステンボス・技術センター3人、南風崎MGレヂデンス1人、法人本部3人、校長 ・ 地籍調査に伴う現地立会 10月3日(月) 【課題等】 ・ 毎日の清掃時間における点検の実施 ・ 毎月1回の定期点検と報告・点検の日を定着させて、早期発見と早期対応に努める。
(2) 実習設備・器具の点検と整理整頓	・ 3F学2教室窓サッシ修理 10月15日(土) ・ 4F実験室机電気修理 10月15日(土) ・ 実習時間の準備と後片付け時における点検と整理
(3) 計画的な取替・改修工事の実施	・ 安全第一主義で将来を見据えた計画的な実施 ・ ポンプ取替工事4月9日(土)、11日(月) ・ ワックスがけ(1階玄関・下足室・廊下) 4月9日(土) ・ データサーバー・バックアップシステム設置 6月14日(火) ・ 3F職員給湯室水道蛇口交換 9月15日(木) ・ 3F職員流しの水道管水漏れ修理 11月14日(月) ・ 3F歯科職員室コピー印刷機取替 11月21日(月) ・ 3F職員室デスクトップパソコン搬入 11月24日(木) ・ 環境整備

(11) その他活動

取組の総括	
同窓会役員会を3回実施できた。調理師専門学校との連携は、年間を通して計画通りにできた。特に集団給食や調理実習は、学生も楽しみにして好評である。学校関係者評価委員会は6人の委員の入れ替わりもなく8月と2月に2回開催した。評価の内容の報告と公表も滞りなくしている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 同窓会との連携	・ 一華会役員会 5月21日(土) ・ 一華会役員会(10人参加) 10月16日(日) ・ 一華会役員会 2月12日(日) 【課題等】 ・ 設備の補充および新設への協力体制作りおよび同窓会連絡網の整備・LINEを利用した情報発信
(2) 調理師専門学校との連携	・ 学生健康診断の共同実施 4月19日(火) ・ 防災避難訓練の共同実施 5月10日(火) 千代消防署 ・ 学園祭の共同開催 10月9日(日) ・ 調理実習(1年生) 11月29日(火)・2月9日(木) ・ 調理実習(2年生) 2月9日(木)・3月15日(水) ・ 集団給食実習への食事注文協力 ・ 4040会議を月に1回開催(校長・事務長・各教務主任) 【課題等】 ・ 華道(2年生)はカリキュラムの入れ込みが難しく、時期の調整と見直しが必要である ・ 集団給食を楽しみにしている学生が多く、注文は協力的である
(3) 学校関係者評価委員会	・ 第1回学校関係者評価委員会 8月2日(火) ・ 自己評価(学生)実施 11月17日(木) 84人 ・ 自己評価(職員)実施 11月21日(月)～12月26日(火)9人 ・ 第2回学校関係者評価委員会 2月3日(金) ・ 学校関係者委員会評価の報告(県学事振興課へ) 3月上旬 ・ 学校関係者委員会評価の公表(ホームページ) 3月上旬 ・ 令和4(2022)年度事業報告(法人本部へ) 4月下旬 ・ 令和5(2023)年度事業計画(法人本部へ) 3月上旬

9.法人事務局

1) 経営理念・経営目標

経営理念	学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す。
経営目標	学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す。

2) 1年間の総括と評価

✓ 成長力の確保については、長崎国際大学における多目的グラウンドの設置に伴う先行投資、次年度に向けた長崎短期大学への音楽教員の採用、九州文化学園高校への副校長の加配など、各部門の発展につながる人的資源の拡充などを支援した。 ✓ 教育力の向上については、九州文化学園高校の普通科を改組して四年制大学進学や英語教育の充実に特化したコースの設置や、部門間で連携した教育活動の促進を法人として支援を行った。 ✓ 約定返済の確実な履行については、従来の借入金は適切に返済できた。一方で安定した財務基盤の確立に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた在籍者数の減少に起因して、経常収支差額が落ち込み、中期計画で設定した目標を達成できなかった。一方で令和5(2023)年度の入学予定者は増加している部門もあり、これまで以上の徹底した経費効率化と併せて、財務改善を推進する。

3) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 制定・公表しているガバナンス・コードに基づく運営を行っており、その遵守状況については年度終了後に点検を行い、長崎国際大学・長崎短期大学のWEBサイト上で情報の公表を行う計画となっている。 ✓ 学園WEBサイトにおいて、学園創設期や建学の理念に関するコンテンツを充実させて掲載、また新入教職員対象のキャンパス・ツアーの実施により、建学の精神の浸透に努めた。 ✓ 年度当初に全教職員に事業計画書を共有し、学園及び各部門の年度の方針や取組を認識・理解させることで、内部質保証につながる組織醸成に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 各部門の教育改革に必要な予算・人員・施設設備について、大学の多目的グラウンド、短大への音楽教育教員の補充、高校のICT環境の整備や進学対応教員の加配、幼稚園の教室改修など、財務と人員構成の現状を踏まえながら資源配分や強化を行った。 ✓ 各部門の教育改革の課題を明確化するため、次年度事業計画の策定にあたり、学校長による重点教育課題の提示を行った。次年度から執行状況を学園責任者連絡会や事務局長会等で確認していく。
戦略Ⅲ	✓ 部門長、事務局長、会計担当、募集担当、分野別の連絡会議を定期的に開催し、部門間の情報共有と連携強化の支援を行った。 ✓ 令和7(2025)年度の創立80周年に向けて、寄附のあり方について他法人の状況調査含め検討を進めた。
戦略Ⅳ	✓ ハウステンボス・技術センター株式会社と締結した管財アドバイザー契約に基づき、各部門の施設・設備の現状と課題の把握を行い、修繕更新時期や資金規模に関するガイドラインとなる中期的な修繕計画の試作を試みた。 ✓ IT・DX化の推進に当たり、学園の現状と課題の把握及び基本戦略の策定をまず行うこととし、次年度から企業や学校法人での知見と経験を有する専門アドバイザーと契約することとした。
戦略Ⅴ	✓ リニューアルした各部門の公式サイトによる情報発信の促進のため、Google Analyticsによる閲覧状況分析を提示するなどして有効性の理解に努め、またメディア露出情報を学園WEBサイトで積極的に公表して認知度向上を行った。 ✓ 学園全体の募集担当者連絡会及び関係する部門間のワーキンググループを開催し、募集・広報活動に関する情報の共有や、内部進学促進に関する取組を推進した。
戦略Ⅵ	✓ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり学生数等の減少傾向が影響し、本年度の経常収支差額はマイナスとなった。令和5(2023)年度は大学・短大・高校・学院・小学校の在籍者数の増加と経費効率化により、学園全体で収支差額の改善に全力で努めることとした。 ✓ 借入金の約定返済は確実に履行した。
学園内の連携促進	✓ 各分野別連携会議において、会議の目的の再確認を行とともに、内部進学や広報、教育における具体的な連携策について検討を行い、募集に関しては、高校普通科総合進学コース、キャリアデザインコース1年生を対象にした専門学校の学校見学会を開催。また九文幼稚園と園児と短大のゼミの特色を生かした交流事業や、短大保育学科1・2年生を対象とした園長と幼稚園教員による幼稚園現場の説明会などを実施することができた。 ✓ 九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベントを3/17に開催し、各部門の特色を活かしたブースの出

	展を行い総合学園として連帯感の促進と対外的なブランディング強化に努めた。
付帯計画と課題	✓ 私学法改正に関する理事・監事・評議員向けの研修会を開催し、役員のガバナンス改革に対する理解促進を行った。 ✓ 学園責任者連絡会や事務局長会において、事業方針や事業計画、財務状況、各部門の現状や課題の共有を行うなど進捗管理の推進に努めた。 ✓ 新規事業については、特別顧問の助言や内外の関係者との情報共有や協議を踏まえて、実現可能性に向けた調査や検討を行った。

4) 主要情報

(1) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	令和4(2022)年4月1日	
学園歓迎会	—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
定例異動発令	令和4(2022)年6月1日	
学園忘年会	—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
内部監査	令和4(2022)年9月13日 令和4(2022)年12月14日	被監査部門：長崎国際大学 被監査部門：長崎短期大学
九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント 2023	令和5(2023)年3月17日	

(2) 主な会議等の開催実績

会議等名称	開催回数	開催日
評議員会	5回	第1回(5/27)、第2回(6/27)、第3回(9/30)、第4回(12/2)、第5回(3/24)
理事会	5回	第1回(5/27)、第2回(6/27)、第3回(9/30)、第4回(12/2)、第5回(3/24)
監事会	2回	第1回(5/27)、第2回(3/22)
学園責任者連絡会	6回	第17回(4/13 リモート)、第18回(7/4 法人本部)、第19回(9/20 短大)、第20回(11/7 高校[短大借用])、第21回(1/10 リモート)、第22回(3/6 専門学校)
事務局長会	12回	第1回(4/21)、第2回(5/19)、第3回(6/16)、第4回(7/21)、第5回(9/15)、第6回(10/20)、第7回(11/17)、第8回(12/22)、第9回(1/19)、第10回(2/16)、臨時(3/3)、第11回(3/16)、
会計担当会議	4回	第1回(6/24)、第2回(9/29)、第3回(11/24)、第4回(3/2)
学園ハラスメント防止等委員会	1回	第1回(3/16)
法人事務局情報セキュリティ委員会	3回	第1回(12/19)、第2回(2/27)、第3回(3/27)
長崎県内大学・短期大学等理事長・学長会(外部会議)	1回	第1回(10/13 リモート)

5) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 中期計画の確実な実行と進捗状況の把握

取組の総括	
✓ 予算執行に関しては新型コロナの影響が大きく、在籍者数の減少を主として収入減の影響が大きく、中期計画の經常収支差額の目標値の達成には至らなかった。令和5(2023)年度及び令和6(2024)年度に向けて、財務構造の安定化にこれまで以上に注力することとした。 ✓ 厳しい財政状況下において、中期計画や事業計画で設定した目標や課題解決の取組について、進捗管理や情報の共有、経営や教育における重点課題等を明確にするなどして質保証や経営改善につながる施策の推進に努めた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画に基づく適切な予算計画と執行	✓ 中期計画に基づく予算作成・予算執行を推進してきたが、引き続きコロナによる留学生の入学制限等の影響を受ける結果となった。
(2) 経常的な収支バランス	✓ 有利子負債の圧縮を意図とし、約定に則った確実な借入金の返済を進めている。一方、大学多目的グラウンドに伴う等、投資対効果が見込まれるものにつき、次年度借入を行うこととした。

(3) 安定した財務基盤の確立	✓ 適正な設備投資と支払資金の確保、負債の軽減を図っているものの、令和 4(2022)年度事業活動収支は赤字となったため、安定した財政基盤の確立には至らず。
(4) 令和 5(2023)年度事業計画の策定	✓ 中期計画の 3 年目として、法人本部長により示された「令和 5(2023)年度 重点経営課題」を計画に反映させることとする通知と併せて、12 月事務局長会において各部門に作成依頼を行った。また、監事の助言に基づき「重点教育課題」の設定を、1 月開催の学園責任者連絡会及び事務局長会を通じて各部門に依頼した。総合企画室において集約の上、3 月理事会において審議・承認した。 ✓ 事業計画書の構成について、項目の統一を行うとともに、「C 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有」の項目を設け、自部門の現状に対する分析結果を踏まえた上で取組を記載することとした。
(5) 中期計画の進捗状況管理	✓ 令和 4 年度事業報告書の作成と併せて、重点戦略等の進捗や達成状況の成果と自己評価を経年確認することを目的とした「中期計画進捗状況管理表」を部門毎に作成した。
(6) 中期計画の PDCA の実施	✓ 中期計画をガイドラインとして、年次の事業計画書、事業報告書、中期計画進捗状況管理表を作成し、中期計画の PDCA を行った。 ✓ 計画の進捗管理を各部門の事務責任者が意識するように、毎月の事務局長会において「中期計画・事業計画・事業報告について」を定例議案とした。

(2) 管理運営

取組の総括	
✓ 学校法人のガバナンス強化のため、国が示す教育改革方針や施策について適切に情報収集を行い、理事・評議員・監事等の役員間の共有を行った。また内外の法令・規則等に基づく学校法人経営の点検・評価に努めた。 ✓ 監事監査や内部監査の充実強化を行い、業務執行状況の確認と課題の早期発見・解決の提案等を適切に行った。 ✓ 危機管理体制については、感染症や情報セキュリティを中心に事業継続性を向上させる各種の取組や体制整備を推進した。 ✓ 法人事務局内におけるコミュニケーションと情報共有も積極的に実施した。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 私立学校ガバナンス改革への適切な対応	✓ ガバナンス・コードの公表に加えて、遵守項目に対する取組の実施状況を年度終了後に全学的に点検し、その結果を大学・短大のホームページ等に公表することとし、社会への説明責任を果たすこととしている。
(2) 理事会の役割、理事の責務を明確にした管理運営	✓ 理事会は、理事長・大学長をはじめ、法人本部長、法人事務局長と外部理事である地元経済界代表者からなる実質的な経営専門家で運営がなされた。 ✓ 理事の知識・経験・能力を活かし、教育・研究・経営面について、学園の持続的な成長と中長期的な安定経営のため適切な業務執行を推進できるよう、責務の明確化に努めた。
(3) 理事・評議員・監事の研修とサポート	✓ 「学校法人制度の概要及び私立学校法の改正について」をテーマに理事・監事・評議員向けの研修会を実施し、最新のガバナンス改革の状況を共有した。
(4) 監事会の充実	✓ 監事会の場を利用して、ガバナンス改革の動向の共有や、監事とのコミュニケーションを図り、より充実したサポートができるよう努めた。 ✓ 監事会において、年度内に実施する監査について事前通知をするよう働きかけを行い、より監事監査内容を明確にするよう努めた。
(5) 内部監査の充実	✓ 定期監査(長崎国際大学 9 月、長崎短期大学 12 月)を内部監査実施計画に沿って実施。 ✓ 監査実務において、諸規程の該当条項や MUST 事項を朱書追記し、監査方法を事例として教示。 ✓ 令和 7(2025)年度大学等の認証評価受審を見据え、試行的ながら内部監査チェックリストにガバナンス及びリスク・マネジメントの検証項目を追加。 ✓ 監査業務の要点を時系列に作表、平準化を図るとともに、恣意的な対応に陥らないよう、「内部監査実施手順」を作成。また、コロナ禍等の不測・緊急事態の対応も同手順に謳った。 ✓ 不正・誤謬リスクの発見、管理には至らなかった。 ✓ 研究機関(長崎国際大学 8 月・長崎短期大学 11 月)主導の公的研究費等モニタリングを合同実施。 ✓ 長崎国際大学は計画どおり、長崎短期大学は期中にて計画及びスケジュールの追加(起案)実施。 ✓ 監事とは随時、監査法人は決算・期中往査時に、状況報告を行うとともに、情報を共有し、監査機能の充実を図った。

(6) 危機管理体制の向上と適切な運用	✓ 危機管理体制(災害・事件事故・感染症・情報漏洩・サイバー攻撃等)の再整理・見直しを行うなど、組織運営体制の強化に努めた。 ✓ 危機管理体制の中でも、情報セキュリティの強化に努め、サイバーリスクに関する診断レポートを活用するなど、管理体制向上に努めた。
(7) 新設・改正法令等の適切な対応	✓ 規則管理システムを活用して、適切な対応を行うことができた。また、改正法令等に対応した対応、その改正点の周知も適切に行った。
(8) 文書・規則等の適切な管理	✓ 文書保存規程等を元に文書の保存期限を適切に把握し、管理に努め、またペーパーレス化推進においては、規程等を元に適切に対応するよう周知した。
(9) 事務局内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 法人事務局内課長等打合せにおいて、課内の業務進捗を報告、相談し、その情報を構成員間で共有することで、課員同士が業務把握をしながら進めることができた。 ✓ 毎朝の全体朝礼及び各課内での朝礼により職員間の情報共有を行っている。 ✓ 原則として毎週月曜日に、法人本部長・法人事務局長・各課長等による打合せを行い、週の予定や情報の共有を図っている。 ✓ Google Workspace のカレンダー機能を活用した法人事務局各職員のスケジュール共有を行っている。

(3) 人事政策と人件費の適正化計画

取組の総括	
✓ 設置基準や養成課程等の法令要件、教育の質保証の視点、各学校経営の充実・強化に必要な人員規模と体制の確保のため採用・育成活動や制度の点検・充実、システム活用による人事労務業務の効率化など、適切な人員規模や配置に努めているが、各学校種の教員不足、生産年齢人口の減少の中で、学園の求める人的資源を中長期的視点の中で確保・維持すること自体が困難な状況にある。 ✓ 一方で健全な財務収支のためには、人件費割合の適切な管理が必須であるため、引き続き有効かつ現実的な人事戦略を検討することとする。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画・事業計画に基づく人事計画の立案・実行	✓ 辞令交付時に、理事長より学園創立・沿革の概要について講話を行うと共に、新入教職員に対しキャンパス・ツアーを実施し、建学の精神の具現化である茶道についても講話すると共に、各部門を見学しながら概要を説明することで、学園に対する理解を深めた。 ✓ 業務の効率化について、年末調整に係るシステムを導入した。初年度のため、導入・運用について時間を要したが、次年度以降については教職員の提出状況等の管理ができるため、負担軽減となると考えられる。 ✓ 教員人事については、必要な人材の資格要件や、今後学園が目指す学びのビジョンを達成するための人材要件を各部門と協議し、学園の発展に寄与できる人材確保に努めたが、近年の教員不足の状況や退職申し出の時期により教員確保が難しい状況である。
(2) 各種人事制度の点検・改善	✓ 令和4(2022)年4月ならびに10月の育児・介護休業関係法令の改正・施行に対応するため、法人内の規則を整備し、教職員への周知を図った。 ✓ 働きやすい環境下で、教育機関である本学園がSDGsの掲げる「質の高い教育を行う」機会の提供につなげることで、育児休業・介護休業ともに、仕事の進め方・働き方を見直すきっかけとし、よりよい労働環境づくりに繋がることを周知した。 ✓ 子の看護休暇並びに介護休暇についても周知を図り、取得しやすい働きやすい環境づくりに努めた。 ✓ 教職員の人事考課について、教員は長崎国際大学および長崎短期大学において実施し、また事務職員は全部門で実施し、教職員共に自身の目標設定および振り返りの機会とした。上長や上司との面接を通して、互いの現状把握に加え、助言等を受けられる機会とした。
(3) 人事業務の適切・円滑な実施	✓ 労務管理については、勤怠管理を適切に行い、教職員の勤務時間・健康状態を把握し、また過剰な時間外労働が生じないように、管理職への啓発と業務分掌の点検を行った。 ✓ 教職員の人事考課について、教員は長崎国際大学および長崎短期大学において実施し、また事務職員は全部門で実施し、教職員共に自身の目標設定および振り返りの機会とした。上長や上司との面接を通して、互いの現状把握に加え、助言等を受けられる機会とする。今後も、現在の考課制度が適切に運用されるように努める。
(4) 人材開発、組織強化の推進	✓ 新入職員への研修並びにメンター制を導入し、各部門での状況並びに状況を把握し、情報を共有することができた。

(5) 人件費の数量的把握・管理	✓ 人件費の管理については、法人全体および各部門の人件費について、健全な財務収支を念頭に置くと同時に、教育や経営の質の向上にも勘案する必要があるが、近年の教員不足により教員採用に苦慮している状況は今後の大きな課題である。 ✓ 人件費抑制については、パート雇用も含めた採用に取り組んでいるが、同時に、教育機関である本学園においては、資格を有する教職員の採用という条件を有しているため、安心・安全、教育課程、資格取得・国家試験の合格率など、今後も選ばれ続ける教育機関であるために必要不可欠な人材確保が必要である。
------------------	---

(4) 経費の効率化計画

取組の総括	
✓ 厳しい財政状況を鑑み、予実管理の精度向上のため従来行っていた事務局長会における毎月の資金収支の把握状況について手法の見直しを行った。 ✓ 外部資金に関して、補助金の業務執行自体は円滑に行えたものの、改革総合支援事業など基準や要件が難化した項目について獲得に至らないものが生じた。寄付金については 80 周年事業を念頭に、次年度以降に具体的な取組を検討実施する予定である。 ✓ 従来の借入金に関しては約定返済を適切に履行できており、新規投資案件については借入時期を次年度として対応することとした。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 財務戦略の立案	✓ 大学多目的グランド造成といった先行投資に対し、借入金を令和 5(2023)年度で対応するなど資金面と回収性を相互に見定め実施した。
(2) 予算・資金の管理	✓ 予算の執行状況に関しては、システムにより予算執行責任者が随時把握し、また事務局長会において執行状況を把握・報告して状況の分析を行ってきたが、予算と実績の乖離が見受けられたため、次年度以降、毎月の状況把握の手法を見直すこととした。
(3) 外部資金の確保・調達	✓ 補助金の獲得については、情報の収集、収集した情報の各部門への伝達、集約、申請までの流れを適宜実行していくことができた。一方、寄付文化の醸成については次年度以降の検討事項と考える。
(4) 借入金の約定返済の履行	✓ 借入金の返済については、有利子負債の圧縮を原則とし、中期計画に基づき約定に則った確実な返済を進められた。
(5) 余剰資金の運用	✓ 余剰資金で借入金を返済して財務基盤を確保する計画であったが、前述のとおり令和 4(2022)年度は事業活動収支上の赤字であったため、余剰資産の運用は実施しなかった。
(6) 経理・会計業務の適切・円滑な実施	✓ 会計システムを活用し、会計の日常処理の軽減化を図り、加えて予算編成手続きや決算対応のシステム化を進めて、会計処理全般の精度は、高まってきている。

(5) 学園情報の積極的公開・開示および広報

取組の総括	
✓ 法令や制度、補助金等で義務化または積極的な公表が求められている情報については、法人 WEB サイトにおいて適切かつ分かりやすいように工夫して公表した。 ✓ 学園の信頼度や認知度の向上及びブランディング強化のため、リニューアルした法人 WEB サイトを活用し、メディア情報の掲載など更新頻度の向上や、学園史や建学の精神等の学園理解を促進するコンテンツを充実させた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 法令項目の遵守	✓ 法令に基づく情報の公表が必要な事項については、法改正にも対応して、ホームページなどを中心に適切に公表した。 ✓ 積極的な情報公開としては、法令に基づく以外のもので年次の事業計画書も公開しており、また掲載は年度始めに行った。また、法人 WEB サイトの「情報公開ページ」において、「情報公開の取り組み」「主な科目の説明」など財務に関して分かりやすく説明する資料を公表した。
(2) 補助金項目等への対応	✓ 私立大学等経常費補助金における情報の公表において示されている校舎等の耐震化率、寄附行為、役員等名簿、役員の報酬等の基準及び財務情報については、法人 WEB サイトにおいて適切に公表した。 ✓ 高等教育修学支援新制度において求められている中期計画、年度の事業計画(直近 2 ヶ年度分)を、法人 WEB サイトにおいて公表した。 ✓ その他、各部門の学生等数、教職員数も直近 2 過年度分を公表した。
(3) 信頼度とブランディング向上	✓ 学校法人公式 WEB サイトのリニューアルにより、建学の理念やあゆみなどコンテンツを充実させ、学園としての特色を積極的に発信した。また各部門のメディアへの

	掲載・放送情報も掲載し、広報実績の周知を行った。また各部門のWEBサイトに掲載した新着情報を自動的に学園WEBサイトにも反映・表示されるようにすることで、総合学園としての情報発信を強化した。 ✓ 2023年度版学園リーフレットを制作・配布した。 ✓ 九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベントを3月17日に学園全体での事業として開催した。対外的なメディア広報を行うとともに、各部門が企画したブース型のイベントとすることで取組に対するコミットメントの向上を行った。また令和5(2023)年2月に発生したトルコ・シリア大地震に対する義援金の募金を合わせて実施し、総額165,456円を駐日トルコ大使館に寄付する社会貢献も実施した。
--	--

(6) 中長期的視点での施設・設備等の整備

取組の総括	
✓ 専門業者への委託による管財アドバイザー制度の実施により、学園全体及び各部門の施設・設備の現状や課題の把握を行うことができた。また学園全体の中長期修繕計画の策定までは至らなかったが、専門学校部門を事例とした計画記載項目や着眼点、更新時期や費用の規模感を把握可能なできるイメージ案を作成することができた。予算上、次年度の委託継続は見送ることとしたが、翌々年度以降、財務の改善状況を踏まえて取組の再検討を行いたい。 ✓ ICT化・デジタル化については、学園の求める人材を地方において専任採用することが困難な状況であることを踏まえ、外部の専門人材を活用して現状と課題の把握と基本戦略の策定を目指すこととし、十分な知見とキャリアを有する専門アドバイザーを次年度から業務委託することとした。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 管財に関する総合アドバイザー制度の導入	✓ ハウステンボス・技術センター(株)と総合アドバイザー契約を締結し、学園全体及び各部門の管財に関して、「建築、電気設備、空調設備、給排水、外構」のハード関係、並びに「衛生管理、省エネ」に関する助言や解決策の提案、また定例協議の開催と問題開所の現場調査を行った。 ✓ 中長期修繕計画の策定に向け、初めに専門学校部門について現況と課題の把握を行うためのフォーマットを作成した。 ✓ 定例協議の開催実績：11回(4/27(法人)、5/26(短大)、6/23(幼稚園)、7/15(小中学校)、8/9(大学)、9/28(専門学校)、10/17(高校)、11/24(法人)、1/20(法人)、2/28(法人)、令和5(2023)/4/28(法人))
(2) 管財相談役の任命	✓ 1級建築士の資格を持ち、前職の大手企業において施設・設備管理の経験を有する、グループ企業である南風崎MGレジデンスの高橋常務に、ハウステンボス・技術センター(株)との定例協議・現地調査の際に、同席・同行してもらい助言をもらうことで施設・設備管理に関する精度を高めた。
(3) 中長期修繕計画の策定に向けた現況と課題の把握	✓ 学園全体の中長期修繕計画の策定の準備段階として、(1)及び(2)の取組の成果として、専門学校の中長期修繕計画のイメージ案を策定し、建物当りに必要となる修繕資金の規模を把握した。
(4) ICT化、デジタル化の推進	✓ IT化・DX化を効果的かつ効率的に行うに当たり、まず現状の把握と課題の認識及び基本戦略の構想を進める。 ✓ 高度な専門知識・技術及び経験を有する人材を、専任教職員として地方で採用することの困難な状況を踏まえ、外部人材の活用によるIT・DX専門アドバイザーとの外部委託に向け、パーソルキャリア(株)の紹介を受けながら人選を進めた。その結果、ITシステム企業及び3つの学校法人においてIT・DX化を推進した経験を有する専門人材とアドバイザー契約を次年度に締結することとした。

(7) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 本学園のキャンパスが分散していることを踏まえ、理事長や法人本部長の直轄として設置している総合企画室が、各種連携会議の調整を行いながら、学校長、事務局長、募集広報担当、共通分野、SDGsなどの連携会議を設置して、定期的に開催することで、総合学園としての特色や強みを活かした教育・経営の改善や補完を図り、また課題や情報の共有を行った。 ✓ 法人財務課の主導により、各部門の会計担当者による会議を行い経理・会計に関する情報の共有を行った。 ✓ 学園のIT・DX化を推進するデジタル室については、令和5(2023)年度に予定する基本戦略の策定を踏まえて、専従者の採用も含めて、令和6(2024)年度以降に設置することとした。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学園責任者連絡会	✓ 理事長、法人本部長及び各部門の学校長等からなる学園責任者連絡会を6回開催。

	事業計画と経営課題等に関する方針や現状の伝達・報告や、SDGs や共通ブランドイメージなどに学園全体に共通するテーマの協議、また各部門の現状等の情報共有を行った。
(2) 事務局長会	✓ 法人本部長、各部門の事務局長・事務長及び法人本部各課長等からなる事務局長会を12回開催(定例11回、臨時1回)。予算・資金収支の執行状況確認、中期計画・事業計画の進捗管理、内部監査関係、人事労務関係、SDGs や施設・管財など学園全体で共有すべき事項の協議・報告等を行った。
(3) 会計担当者会議	✓ 各設置校の会計に関する情報やノウハウの共有化を図った。また、年度末の締め関係上、今年度は第4回目の会議開催を3月第4週から3月第1週に移動するなど、開催時期の工夫も行った。
(4) 学園内募集担当者連絡会	✓ 幼稚園から大学までの募集担当者による連絡協議会を1回開催。内部進学促進に効果的な会議の在り方について提案・実行した他、各学校の募集状況や内部進学策等について情報共有や意見交換を行った。 ✓ 大学・短大・専門学校部門の募集担当者による連絡部会、そこに九州文化学園高校の進学担当教員が加わった連絡部会を各1回開催。具体的な企画として、新たに九州文化学園高校普通科総合進学コース、キャリアデザインコース1年生を対象に上位校の学校見学会を開催した。 ✓ 九州文化学園高校・九州文化学園中学校の募集担当者による連絡部会、九州文化学園小学校・認定こども園九州文化学園幼稚園の募集担当者による連絡部会を各1回開催。情報や課題の共有の他、教職員間の交流等について協議を行った。
(5) SDGs に関する連絡協議会	✓ SDGs に関する連絡協議会を4回開催。事業所及び教育機関としてSDGs に取組む意義・目的を認識・共有し、学園全体及び各部門のSDGs の取組を円滑に推進した。 ✓ 3月17日に九州文化学園SDGs 推進宣言の日記念イベントを長崎国際大学を会場として開催。各部門の特色を生かしたブースイベントや講演会等を企画・実施した。
(6) 各分野別の連携会議	【食物分野に関する連絡協議会】 ✓ 食物分野に関する連絡協議会を2回開催。情報や課題の共有に加え、内部進学促進や連携機能強化の観点から、高校食物調理科以外の1年生を対象とした上位校(食物分野)の体験ツアーや小学生・中学生対象料理教室等の具体的な企画の実現に向けて協議を行った。 【福祉分野に関する連絡協議会】 ✓ 福祉分野に関する連絡協議会を2回開催。情報や課題の共有に加え、内部進学促進や連携機能強化の観点から、高校福祉コース以外の生徒へのアプローチ、近隣の中学校対象出前講座等の具体的な企画の実現に向けて協議を行った。 【幼稚園・短大保育学科連絡協議会】 ✓ 全体の連絡協議会を2回、学外実習・ボランティア活動に関する部会を1回、就職・採用に関する部会を1回開催。情報や課題の共有に加え、ボランティア活動機会の創出や長崎短期大学保育学科のゼミ活動内での相互交流、認定こども園九州文化学園幼稚園説明会の開催等を企画・実施した。 【英語科総合会議】 ✓ 九州文化学園高校S グローバルコース主導の下、英語科総合会議を新設し会議を1回開催。大学・短大・高校・小中学校部門の英語科教員が参加し、学園内における一貫した英語教育の推進に向けて、各部門の英語教育の取組や課題等の確認を行い、具体的な連携に向けて協議を行った。 【養護教諭連絡協議会】 ✓ 長崎国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター主導の下、養護教諭連絡協議会を新設し会議を3回開催。大学・短大・高校・小中学校部門の養護教諭が参加し、保健や衛生等に関する情報交換の他、新型コロナウイルスや健康診断の対応などの協議を行った。
(7) 総合企画室	✓ 設置3年目として、理事長・本部長からの指示に基づき、新規案件の検討や基本的な調査、学園全体に係る課題として募集や管財、SDGs やIT・DX化に関する事項について検討・協議・企画を行った。また総合学園として部門間や分野間連携の強化のため各種の連携会議を調整・実施した。 ✓ 各部門の入学式・卒業式、仕事始めの会や納めの会、また主要な行事等に参加するなど、各部門との連携やコミュニケーションの円滑化に努めた。 ✓ 学園内で規模の大きい長崎国際大学の課長職による責任者連絡会に出席し、学園と大学の情報を相互に共有するようにしている。

(8) デジタル室の設置	✓ デジタル室専従者として必要な人材要件を明確にするため、まず令和 5(2023)年度に専門アドバイザーとの委託契約を行い、学園の IT・DX 化の課題把握と基本戦略を策定することを優先し、デジタル室の設置はいったん令和 6(2024)年度以降に延期することとした。
--------------	---

(8) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 事業体及び教育機関として、持続開発可能な社会の実現に貢献するため、事業計画において SDGs に関する取組を明記して各部門で推進した。その取組成果の発表の場として、「みんなで考える SDGs の日」である 3 月 17 日に「第 2 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント」を開催し、各部門がブースを出展して意識啓発に努めた。 ✓ 法人事務局としては、保健とジェンダーに関する目標に対応するため、法令に基づく一般事業主行動計画の見直しと公表を実施した。		
項目	取組の実績・成果・課題	関係目標
(1) 学園全体の取組推進	✓ 各部門の担当者からなる SDGs に関する連絡協議会において、「九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント」を企画・検討した。 ✓ 令和 5(2023)年 3 月 17 日に「第 2 回 SDGs 推進宣言の日記念イベント」を長崎国際大学で開催。佐世保市企画部政策経営課課長補佐の末永信介氏による「佐世保市の SDGs について」と題した講演、各部門が企画した 16 ブースによる展示・販売・発表・紹介を行い約 400 人が参加した。また公募作品、ブース企画、SDGs 推進部門の表彰を行った。 ✓ イベントにおいて、令和 5(2023)年 2 月に発生した「トルコ・シリア大地震」を支援する義援金を参加者に募り、ブースの一部売上金も併せて総額 165,456 円を駐日トルコ共和国大使館に寄付した。 ✓ 令和 4(2022)年度の取組をまとめた SDGs 実績報告書を作成した。法人 WEB サイトに掲載予定。	全て
(2) 法人事務局内の取組推進	✓ 「次世代育成支援対策推進法及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画」の見直しを行い、策定・公表した。 ✓ SDGs イベントにおいて、法人本部として売れ残った野菜を販売する「野菜即売会」を実施し、環境を意識する機会を提供した。	3・5・12

10. 学園全体

1) 学園全体に関する計画

取組の総括	
✓ 予測困難な時代を前に、「教育力の向上」のため、建学の精神の尊重、新型コロナ禍における教育の継続を推進するように努めた。 ✓ 一方で、現状維持では「成長力の確保」に結びつかないことから、教育や経営の改善、新規事業への挑戦には、積極的に取り組むように努めた。 ✓ 他方、在籍者数の減少による経常収支差額の落ち込みにより、財務改善が喫緊の課題となっている。次年度以降も約定返済を確実に履行していくためにも、収入の増加策、支出の効率化など財政基盤の安定に向けた取組を学園全体で推進することが必要となっている。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 伝統と実績	✓ 建学の精神の具現化である茶道文化に関して、新型コロナ禍の影響により行事や研修等は制限のかかる状況であったが、大学・短大・学院・小中学校・幼稚園部門では感染拡大防止に努めながら授業を実施するなど理念の浸透に努めた。 ✓ リニューアルした学園 WEB サイトにおいて、「設立趣旨の宣言」「歴代理事長」「教育理念」「白蝶の由来」「創立の頃」「理念の実践」「学園のあゆみ」「矢岳キャンパスの記憶」のコンテンツを設け、学園史を振り返ることができるようにした。
(2) 変革と挑戦	✓ 中長期的な視点で学園の発展につながる施策に関して、社会的ニーズを踏まえ、看護師養成の拡充、理工系人材を養成する課程の可能性などについて情報収集に努め、学園内及び地域の関係機関との意見交換等も行った。
(3) 新規事業	✓ 長崎国際大学のあるハウステンボスキャンパスに人工芝の多目的グラウンド(8,229.8 m²)を整備し、令和 5(2023)年 3 月末に竣工した。 ✓ 九州文化学園高校に設置した吹奏楽部との接続及び長崎短期大学における音楽教育の充実による魅力創出を企図し、県内高校音楽界で指導実績のある教員を令和 5(2023)年度より採用することとした。 ✓ 令和 4(2022)年度より九州文化学園高校普通科を S アカデミーコース、S グローバルコース、総合進学コース、キャリアデザインコースの 4 コース制に改組。高校全体の入学定員も 250 人から 280 人に増員し、312 人が入学した。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園乳児部の受入人数増員のため、佐世保市の助成金を活用し、1F 倉庫を 2 歳児用教室に改修した。
(4) 財務改善	✓ 学園全体として中期計画の経常収支差額 2%を目指すべきところであったが、予算編成の段階でマイナス状態となることが判明した。年度末までそのマイナス幅の圧縮に努めてきた。 ✓ 主な要因は、収入に見合う支出バランスの齟齬による短期大学・専門学校部門の不採算、併せて学年進行中あり学生確保の未充足による小中学校部門のマイナス幅も加わり、学園全体の経営状態に大きく悪化の影響を与えることとなった。 ✓ 今後は、学生の確保を最優先とし、収入に見合った経費の効率的な配分に努め、財務の健全化を進めていく。

2) その他特記事項

取組の総括	
✓ 学園全体での最適な組織体制の確立と、学園の求める人材確保に努めたが、生産年齢人口の減少が進む中で、人的資源の確保と効果的な配置が、引き続き重要な課題となった。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学園全体で最適な組織体制の形成	✓ 学園及び各部門の教育力の向上と成長力の確保、また経営の効率化と人員配置の合理化の両立を図るため、必要な人員の採用や組織の再編を検討し、長崎国際大学事務局の次長及び九州文化学園高校の副校長の新規採用、大学の学生課とキャリアセンターの融合、法人事務局総務課と人事課の合併を令和 5(2023)年度に実施することとした。 ✓ 円滑な判断を行い、経営力を強化できるように、令和 5(2023)年 3 月末に理事・法人本部長を常務理事に任命した。
(2) 学園の求める人的資源への対応	✓ 新規採用者を対象に 4 月にキャンパス・ツアーを実施し、佐世保市内に分散している各キャンパスを訪問することで、総合学園としての認識を高めた。 ✓ 地方の人口減少及び日本全体での生産年齢人口が減少する中、将来の学園の教育・経営を担う人材を確保・育成することの重要性を踏まえ、学園 WEB サイトの採用情報

	ページに「九州文化学園の目指すべき人材像」を掲載した。また令和5(2023)年度以降、採用に関するコンテンツを充実する予定である。
--	---

1 1.法人全体の計画の進捗・達成状況

1) 中期計画における財務上の数値目標の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経常収支差額について	✓ 学園全体の経常収支はマイナス状態となり、中期計画の目標達成には至らなかった。 ✓ 主な要因はコロナ禍の中、学生募集活動等が十分にできなかったことが挙げられる。
(2) 自己資金の確保について	✓ 厳しい収支状況により、自己資金の確保には至らなかった。
(3) 借入金の約定返済について	✓ 約定返済の確実な履行を実施した。
(4) その他	✓ 学園全体の経営判断指標による経営状態は「A3」と現状維持である。

2) 中期計画における実施計画の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 成長力の確保について	✓ 長崎国際大学において、コロナ禍で縮小・制限を余儀なくされていた学園祭等の諸行事について感染拡大予防に留意しながらもフルスペックで開催するなど、コロナ後を見据えた学校運営を行うことができた。また年度末には多目的グラウンドが竣工し、スポーツ活動を充実強化する環境が整った。 ✓ 前年度に認可された九州文化学園高校の普通科定員増と改組に関して、令和4(2022)年度は定員を上回る生徒を確保することができており、少子化において高校部門の更なる成長が期待できる1年目の実績となった。また年度末には校内Wi-Fi環境の整備が完了し、令和5(2023)年度からのICT教育充実に向けた準備ができた。
(2) 教育力の向上について	✓ 教育力の向上のため各部門において、自学または他校と連携したFD(Faculty Development)やSD(Staff Development)の開催、学校内外の研修会への参加、他校の授業見学、研究会への参加や発表を行うことで、教員の教育力や学生等に指導・支援に関する資質向上を行った。特に九州文化学園小中学校が、ICTを活用した教育に関して、第48回全日本教育工学研究協議会全国大会で発表を行ったり、幼稚園が佐世保市私立幼稚園協会主催の「保幼小連携」研究発表園として取組を発表したりと教育実践状況を発表する機会もあり、対外的にも教育力を示すことができた。
(3) 重点戦略について	✓ 戦略Ⅰ「建学の精神・理念に基づく人財養成と内部質保証の担保」については、冒頭に建学の精神を明記した事業計画書を、年度当初に全教職員に配布したり、本年度も新規採用者に対するキャンパス・ツアーを開催し、建学の精神を浸透・共有する機会とした。教育の質保証に対しては、学園及び各部門の教育目的や目標を踏まえた上で、FD・SD、研修等を実施し、教員の教育力の向上に努めた。 ✓ 戦略Ⅱ「成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実」については、コロナ禍による感染拡大防止に留意しながら、養成課程における国家試験の受験対策に注力したり、総合学園として相互に講師を派遣したり、行事に教育したりすることで教育の充実を図った。 ✓ 戦略Ⅲ「グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化」については、新型コロナの影響で移動に制限が多い中ではあったが、海外留学に関して、長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高校では、実際に学生や生徒が、留学等のため海外渡航することができた。九州文化学園小中学校でも、オンラインによる交流や、佐世保基地内の学校との交流事業を実施することができた。一方、外国人留学生についても、長崎国際大学や長崎短期大学では入国が叶うようになってきた。また、九州文化学園調理師専門学校では、学生食堂を7回開催し地域の方を招くことができた。さらにウクライナからの避難民に対し、クラウドファンディングで支援金を募り、4人の学生を長崎国際大学の科目等履修生として受け入れた。 ✓ 戦略Ⅳ「ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化」については、長崎国際大学薬学部において、文部科学省の助成事業による資材を活用して事前学習や生涯学習に活用する環境を整備し、また九州文化学園小中学校でも補助金を活用したAIドリルを整備することができた。更に九州文化学園高校において校内にWi-Fi環境を整えることができた。一方でインターネット回線の速度改善や、ICTを活用した業務の効率化や教育の特色化に課題があるため、令和5(2023)年度に専門アドバイザーを契約し、現状や課題の把握と基本戦略の策定を目指すこととした。 ✓ 戦略Ⅴ「認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足」については、九州文化学園高校の硬式野球部に元プロ野球選手の香田勲氏を監督に迎え、また部に昇

	格した吹奏楽部が、アルカス SASEBO 大ホールにおいて第1回定期演奏会を開催するなど課外活動を通じた認知度の向上が図られた。一方、学園全体の学生・生徒・児童・園児数は4,004人(総定員充足率92.3%)と9割を維持しているが前年度より2ポイント低下した。一方、長崎国際大学大学院と九州文化学園高校及び学年進行による九州文化学園小学校の在籍学生等数は増加した。 ✓ 戦略VI「財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化」については、在籍者数の減少に伴う減収の影響が大きく、経常収支差額がマイナスと状況となっている。学園責任者連絡会や事務局長会において現状の理解と、これまで以上の効率的な経費執行を行う必要性について法人事務局長より言及された。長崎国際大学では経営改善ワーキンググループを設置し、水光熱費やペーパーレス等の具体的な財務改善の取組を開始している。一方で財務改善には増収が欠かせないことから、募集広報の強化、学納金の値上げ、補助金や寄付金など外部資金の獲得などにも、注力していくこととした。
(4) 経営資源の配分について	✓ 人的資源については、現有の人員を最大限に活用する配置や、教育の質向上につながる新規採用を行ったが、成長力や競争力を確保するために計画的な人材育成や組織の再編などが課題となっている。 ✓ 予算の配分については、収入が減少する中で、効率的な経費執行のため当初予算、補正予算の編成を行った。また臨時の事務局長会を開催し、財務の健全化に向けて各門の経理責任者と情報と意識の共有を行った。

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概況

① 貸借対照表の状況の経年比較

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

	平成 30 (2018) 年度末	令和元 (2019) 年度末	令和 2 (2020) 年度末	令和 3 (2021) 年度末	令和 4 (2022) 年度末
固定資産	14,020	14,301	14,338	14,575	14,482
流動資産	2,452	2,216	2,041	1,823	1,568
資産の部合計	16,473	16,517	16,379	16,398	16,050
固定負債	2,213	2,664	2,358	2,322	2,057
流動負債	1,817	1,267	1,278	1,272	1,442
負債の部合計	4,030	3,931	3,637	3,595	3,499
基本金	17,700	18,521	18,963	19,415	19,622
繰越収支差額	△5,257	△5,935	△6,221	△6,612	△7,071
純資産の部合計	12,443	12,586	12,742	12,803	12,551
負債および純資産の部合計	16,473	16,517	16,379	16,398	16,050

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位: %)

比率名	算式	平成 30 (2018) 年度末	令和元 (2019) 年度末	令和 2 (2020) 年度末	令和 3 (2021) 年度末	令和 4 (2022) 年度末
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	13.3	16.8	19.3	17.8	14.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	134.9	174.9	159.7	143.3	108.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	24.5	23.8	22.2	21.9	21.8
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	463.1	431.3	414.3	364.4	316.6
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	93.1	96.5	96.9	96.1	97.8
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	53.7	53.0	48.3	43.6	38.0

(備考)「運用資産」＝ 現金預金＋特定資産＋有価証券

「外部負債」＝ 借入金＋学校債＋未払金＋手形債務

「要積立額」＝ 減価償却累計額＋退職給与引当金＋第 2 号基本金＋第 3 号基本金

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

収入の部	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
学生生徒等納付金収入	4,022	4,012	3,945	3,804	3,802
手数料収入	64	66	59	59	60
寄付金収入	5	14	61	153	16
補助金収入	1,264	1,201	1,417	1,389	1,405
資産売却収入	72	0	0	0	61
付随事業・収益事業収入	312	317	351	386	334
受取利息・配当金収入	17	22	27	28	27
雑収入	190	199	183	181	188
借入金等収入	1,223	800	0	420	0
前受金収入	498	473	454	458	452
その他の収入	1,632	1,561	1,738	1,698	1,709
資金収入調整勘定	△654	△663	△621	△588	△582
前年度繰越支払資金	1,564	2,306	2,040	1,881	1,671
収入の部合計	10,208	10,309	9,654	9,870	9,142

支出の部	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
人件費支出	2,965	3,150	3,226	3,270	3,292
教育研究経費支出	1,386	1,463	1,562	1,474	1,574
管理経費支出	607	628	642	719	760
借入金等利息支出	25	25	24	22	18
借入金等返済支出	673	332	322	472	355
施設関係支出	1,131	109	183	470	170
設備関係支出	217	144	216	128	228
資産運用支出	94	410	24	55	0
その他の支出	1,610	2,247	1,828	1,818	1,816
資金支出調整勘定	△806	△240	△253	△229	△503
翌年度繰越支払資金	2,306	2,040	1,881	1,671	1,431
支出の部合計	10,208	10,309	9,654	9,870	9,142

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,844	5,782	5,989	5,949	5,796
教育活動資金支出計	4,957	5,227	5,428	5,462	5,625
差引	887	555	561	487	171
調整勘定等	△6	△18	△2	△33	40
教育活動資金収支差額	881	537	560	453	211
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	22	23	24	23	8
施設整備等活動資金支出計	1,348	253	399	599	398
差引	△1,326	△231	△375	△576	△390
調整勘定等	653	△604	△1	3	224
施設整備等活動資金収支差額	△673	△834	△375	△573	△166
小計(教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額)	208	△297	185	△120	45
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,701	2,249	1,615	1,536	1,670
その他の活動資金支出計	2,165	2,212	1,950	2,111	1,959
差引	536	37	△335	△102	△289
調整勘定等	△1	△6	△9	12	4
その他の活動資金収支差額	534	31	△91	△91	△285
支払資金の増減額(小計＋その他の活動 資金収支差額)	742	△266	△159	△210	△240
前年度繰越支払資金	1,564	2,306	2,040	1,881	1,671
翌年度繰越支払資金	2,306	2,040	1,881	1,671	1,431

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

ウ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
教育活動資金収支差額 比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	15.1	9.3	9.4	7.6	3.6

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目		平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	4,022	4,012	3,945	3,804	3,802
	手数料	64	66	59	59	60
	寄付金	6	14	63	154	16
	経常費等補助金	1,251	1,179	1,393	1,366	1,398
	付随事業収入	312	317	351	386	334
	雑収入	190	194	180	180	187
	教育活動収入計	5,845	5,782	5,991	5,950	5,797
	事業活動支出の部					
	人件費	2,997	3,182	3,261	3,301	3,295
	教育研究経費	1,700	1,832	1,941	1,880	1,989
	管理経費	632	638	669	748	796
	徴収不能額等	12	8	12	7	7
	教育活動支出計	5,341	5,661	5,884	5,936	6,086
	教育活動収支差額	504	121	107	14	△289
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	17	22	27	28	27
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	17	22	27	28	27
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	25	25	24	22	18
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	25	25	24	22	18
	教育活動外収支差額	△8	△3	3	6	9
経常収支差額		495	118	110	20	△280
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	61	0	0	0	11
	その他の特別収入	49	45	49	42	22
	特別収入計	110	45	49	42	34
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	4	1	0	0	4
	その他の特別支出	0	19	1	1	2
	特別支出計	4	20	1	1	6
	特別収支差額	105	25	41	41	28
	基本金組入前当年度収支差額	600	143	157	61	△252
基本金組入額合計		△515	△826	△445	△452	△214
当年度収支差額		85	△683	△289	△392	△466
前年度繰越収支差額		△5,343	△5,257	△5,935	△6,221	△6,612
基本金取崩額		0	5	3	0	7
翌年度繰越収支差額		△5,257	△5,935	△6,221	△6,612	△7,071
(参考)						
事業活動収入計		5,971	5,849	6,066	6,019	5,858
事業活動支出計		5,371	5,706	5,910	5,958	6,110

(備考) 金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入(※)}}$	51.1	54.8	54.2	55.2	56.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入(※)}}$	29.0	31.6	32.3	31.5	34.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入(※)}}$	10.8	11.0	11.1	12.5	13.7
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	10.0	2.4	2.6	1.0	△4.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入(※)}}$	68.6	69.1	65.8	63.6	65.3
経常収支差差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入(※)}}$	8.4	2.0	1.8	0.3	△4.8

(備考)※「経常収入」＝教育活動収入＋教育活動外収入

2.その他

① 有価証券の状況 ＜総括表＞

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	112	137	25
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	636	542	△94
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合計	748	679	△69
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,599		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

＜明細表＞

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	330	289	△41
株式	112	137	25
投資信託	306	253	△53
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	748	679	△69
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,599		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

② 借入金の状況

(単位:百万円)

借入先	期末残高	利率	返済期限
十八親和銀行 浜田町支店	175	0.80%	令和 12(2030)年 12 月 31 日
〃	154	0.50%	令和 8(2026)年 9 月 30 日
〃	263	0.60%	令和 23(2041)年 6 月 30 日
十八親和銀行 佐世保中央支店	187	2.10%	令和 7(2025)年 12 月 31 日
〃	330	0.85%	令和 10(2028)年 12 月 31 日
〃	154	0.50%	令和 8(2026)年 9 月 30 日
三井住友銀行 佐賀支店	160	短プラ+0.95	令和 38(2056)年 3 月 31 日
合計	1,421		

③ 学校債の状況

該当なし

④ 寄付金の状況

(単位:千円)

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
研究助成金	企業・任意団体	4,009	
上記以外のその他の寄付金	校友、父母、篤志家等	11,823	
現物寄付(上記寄付金を除く)		14,209	

⑤ 補助金の状況

✓ 様々な補助金獲得に向け、各部門とも推進する一方、国の予算減少に伴う、圧縮傾向に憂慮している。

⑥ 収益事業の状況

✓ 該当なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

✓ 関連当事者は、理事 2 人との間でそれぞれ土地の賃借、施設設備の賃貸契約があり、関係法人は 2 社との間で出向契約、業務委託契約を、また役員の近親者と顧問契約をそれぞれ理事会の審議承認の上、締結している。

イ) 出資会社

当学校法人の出資割合が総出資額の 2 分の 1 以上である会社の状況は次のとおりである。

(i) ザ・グローバルズ株式会社

① 事業内容	ホテル・旅館の経営、レストラン・飲食店・売店の経営、学校・病院・福祉施設及びその付帯施設の管理・清掃・警備業務、研究・教育機器及びそれらの備品・書籍・教材等の販売・リース業、他			
② 資本金	40,000,000 円 (800 株)			
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日				
平成 17(2005)年 1 月 26 日	8,500,000 円	170 株	85.00 %	
平成 17(2005)年 4 月 6 日	30,000,000 円	600 株	96.25 %	
平成 18(2006)年 1 月 19 日	1,500,000 円	30 株	100.00 %	
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額				
イ. 事務所賃借料	2,218,500 円			
ロ. 支払手数料他	54,823,119 円			
ハ. 未払金	4,675,037 円			
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。			

(ii) ケイ・エム・サポート株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、売買、仲介斡旋、管理業務、病院・福祉施設の経営、病院・福祉施設及びその付帯施設の管理、清掃、警備業務、医療機器・同器具及びそれらの備品の販売・リース業他			
② 資本金	100,000,000 円（他に資本準備金 1,101,000,000 円、24,020 株）			
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日				
平成 18(2006)年 7 月 21 日	800,000,000 円	16,000 株	66.61 %	
平成 28(2016)年 3 月 25 日	1,000,000 円	20 株	66.69 %	
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額				
イ. 受取利息・配当金	12,000,000 円			
ロ. 備品・消耗品費他	210,000 円			
ハ. 未払金	20,500 円			
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。			

(iii) 南風崎MGレジデンス株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、業務仲介斡旋、借上げ寮の運営、日本語学校「長崎日本語学院」の運営		
② 資本金	1 円 (普通株式 1,600 株)		
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日	令和 3(2021)年 3 月 8 日	1 円	1,600 株 100.00 %
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額			
イ. 自販機電気料	413,805	円	
ロ. 支払手数料他	131,708,472	円	
ハ. 未払金	8,614,960	円	
ニ. 未収入金	23,473	円	
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。		

⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

3.経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経営状況の分析	✓ 今年度も、コロナ禍の影響は続いており、大学・短期大学の留学生の減少、また学生募集活動の制約も加わり、抜本的な少子化の中、学生等確保が厳しかった。 ✓ そのことは、学生生徒等納付金収入を目減りさせ、収支バランスの悪化を招いた。 ✓ 補助金においても、採択基準の高度化もあり、獲得目標の補助金総額に至らなかったことも、収入の減少に繋がっている。 ✓ 今後、寄附文化の醸成を進めていく。
(2) 経営上の成果と課題	✓ 令和 4(2022)年度も、財務の改善に向けて努めてきた。 ✓ 法人全体の経常収支の均衡には至らなかった。 ✓ その要因を分析し、今後の財務改善に繋がる施策の実行していく。
(3) 今後の方針・対応方策	✓ 令和 5(2023)年度は、不採算事業体の財務健全化を推し進める。 ✓ 健全な財務状態の事業体においても、経営の効率化を推し進め、収益率の向上に努めていく。

IV. 令和4年度 計算書類

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 資金収支計算書 | 別紙1のとおり |
| 2. 活動区分資金収支計算書 | 別紙2のとおり |
| 3. 事業活動収支計算書 | 別紙3のとおり |
| 4. 貸借対照表 | 別紙4のとおり |
| 5. 財産目録 | 別紙5のとおり |

別紙 1

1.資金収支計算書

令和 4(2022)年 4 月 1 日から
令和 5(2023)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,800,026,000	3,802,492,074	△2,466,074
手数料収入	61,678,000	59,582,044	2,095,956
寄付金収入	23,362,000	15,831,625	7,530,375
補助金収入	1,399,944,000	1,405,142,551	△5,198,551
国庫補助金収入	808,944,000	798,615,900	10,328,100
地方公共団体補助金収入	422,725,000	433,765,311	△11,040,311
その他補助金収入	168,275,000	172,761,340	△4,486,340
資産売却収入	60,323,000	60,722,530	△399,530
付随事業・収益事業収入	350,506,000	334,101,032	16,404,968
受取利息・配当金収入	27,469,000	27,451,912	17,088
雑収入	180,078,000	187,644,683	△7,566,683
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	486,343,000	452,194,100	34,148,900
その他の収入	1,682,125,994	1,708,577,286	△26,451,292
資金収入調整勘定	△602,984,800	△582,474,073	△20,510,727
前年度繰越支払資金	1,670,923,691	1,670,923,691	0
収入の部合計	9,139,793,885	9,142,189,455	△2,395,570
支出の部			
人件費支出	3,329,054,000	3,292,481,241	36,572,759
教育研究経費支出	1,586,065,000	1,574,388,962	11,676,038
管理経費支出	776,689,000	759,813,488	16,875,512
借入金等利息支出	18,162,000	18,161,504	496
借入金等返済支出	355,400,000	355,400,000	0
施設関係支出	286,137,000	169,901,260	116,235,740
設備関係支出	151,856,000	228,096,650	△76,240,650
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	1,769,054,971	1,815,612,592	△46,557,621
〔予備費〕	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△390,441,466	△502,800,468	112,359,002
翌年度繰越支払資金	1,247,817,380	1,431,134,226	△183,316,846
支出の部合計	9,139,793,885	9,142,189,455	△2,395,570

別紙 2

2.活動区分資金収支計算書

令和 4(2022)年 4 月 1 日から
令和 5(2023)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,802,492,074
		手数料収入	59,582,044
		特別寄付金収入	15,616,995
		一般寄付金収入	214,630
		経常費等補助金収入	1,397,554,551
		付随事業収入	334,101,032
		雑収入	186,770,373
		教育活動資金収入計	5,796,331,699
	支出	人件費支出	3,292,481,241
		教育研究経費支出	1,574,388,962
		管理経費支出	758,268,088
		教育活動資金支出計	5,625,138,291
		差引	171,193,408
		調整勘定等	40,110,253
		教育活動資金収支差額	211,303,661
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	0
		施設設備補助金収入	7,588,000
		施設設備売却収入	400,000
		第 2 号基本金引当特定資産取崩収入	0
		施設整備等活動資金収入計	7,988,000
	支出	施設関係支出	169,901,260
		設備関係支出	228,096,650
		第 2 号基本金引当特定資産繰入支出	0
		施設整備等活動資金支出計	397,997,910
		差引	△390,009,910
		調整勘定等	224,143,811
		施設整備等活動資金収支差額	△165,866,099
		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	45,437,562
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0
		有価証券売却収入	60,322,530
		第 3 号基本金引当特定資産取崩収入	0
		預り金受入収入	1,554,659,285
		立替金回収収入	3,011,945
		仮払金回収収入	23,230,162
		敷金回収収入	0
		小計	1,641,223,922
		受取利息・配当金収入	27,451,912
		収益事業収入	0
		過年度修正収入	874,310
		その他の活動資金収入計	1,669,550,144
	支出	借入金等返済支出	355,400,000
		有価証券購入支出	0
		第 3 号基本金引当特定資産繰入支出	0
		収益事業元入金支出	0
		預り金支払支出	1,559,725,482
		立替金支払支出	706,971
		仮払金支払支出	23,340,162
		小計	1,939,172,615
		借入金等利息支出	18,161,504
		過年度修正支出	1,545,400
		その他の活動資金支出計	1,958,879,519
		差引	△289,329,375
		調整勘定等	4,102,348
		その他の活動資金収支差額	△285,227,027
		支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△239,789,465
		前年度繰越支払資金	1,670,923,691
		翌年度繰越支払資金	1,431,134,226

別紙 3

3.事業活動収支計算書

令和 4(2022)年 4 月 1 日から
令和 5(2023)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	3,800,026,000	3,802,492,074	△2,466,074
		手数料	61,678,000	59,582,044	2,095,956
		寄付金	23,362,000	16,195,761	7,166,239
		経常費等補助金	1,392,295,000	1,397,554,551	△5,259,551
		国庫補助金	808,944,000	798,615,900	10,328,100
		地方公共団体補助金	415,076,000	426,177,311	△11,101,311
		その他補助金	168,275,000	172,761,340	△4,486,340
		付随事業収入	350,506,000	334,101,032	16,404,968
		雑収入	179,204,000	186,770,373	△7,566,373
		教育活動収入計	5,807,071,000	5,796,695,835	10,375,165
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	3,331,137,000	3,294,563,681	36,573,319
		教育研究経費	1,999,913,000	1,988,620,061	11,292,939
		管理経費	812,016,000	795,582,786	16,433,214
		徴収不能額等	6,820,000	7,095,850	△275,850
教育活動支出計		6,149,886,000	6,085,862,378	64,023,622	
教育活動収支差額		△342,815,000	△289,166,543	△53,648,457	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	27,469,000	27,451,912	17,088
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	27,469,000	27,451,912	17,088
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	18,162,000	18,161,504	496
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	18,162,000	18,161,504	496
	教育活動外収支差額		9,307,000	9,290,408	16,592
経常収支差額		△333,508,000	△279,876,135	△53,631,865	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	11,030,000	11,429,529	△399,529
		その他の特別収入	23,097,000	22,441,810	655,190
	事業活動支出の部	特別収入計	34,127,000	33,871,339	255,661
		科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	3,639,445	△3,639,445
		その他の特別支出	2,487,000	2,480,400	6,600
	特別支出計	2,487,000	6,119,845	△3,632,845	
	特別収支差額		31,640,000	27,751,494	3,888,506
[予備費]		10,000,000		10,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		△311,868,000	△252,124,641	△59,743,359	
基本金組入額合計		△432,571,000	△213,646,190	△218,924,810	
当年度収支差額		△744,439,000	△465,770,831	△278,668,169	
前年度繰越収支差額		△6,611,797,488	△6,611,797,488	0	
基本金取崩額		0	6,663,088	△6,663,088	
翌年度繰越収支差額		△7,356,236,488	△7,070,905,231	△285,331,257	
(参考)					
事業活動収入計		5,868,667,000	5,858,019,086	10,647,914	
事業活動支出計		6,180,535,000	6,110,143,727	70,391,273	

別紙 4

4.貸借対照表

令和 5(2023)年 3 月 31 日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	(14,481,958,096)	(14,574,593,273)	(△92,635,177)
有形固定資産	< 12,872,938,877 >	< 12,916,257,294 >	< △43,318,417 >
土地	4,352,171,857	4,352,171,857	0
建物	6,432,979,441	6,651,369,202	△218,389,761
その他の有形固定資産	2,087,787,579	1,912,716,235	175,071,344
特定資産	< 0 >	< 0 >	< 0 >
その他の固定資産	< 1,609,019,219 >	< 1,658,335,979 >	< △49,316,760 >
流動資産	(1,568,388,813)	(1,823,172,703)	(△254,783,890)
現金預金	1,431,134,226	1,670,923,691	△239,789,465
その他の流動資産	137,254,587	152,249,012	△14,994,425
資産の部合計	16,050,346,909	16,397,765,976	△347,419,067
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	(2,057,203,695)	(2,322,304,579)	(△265,100,884)
長期借入金	1,421,450,000	1,688,000,000	△266,550,000
その他の固定負債	635,753,695	634,304,579	1,449,116
流動負債	(1,442,155,891)	(1,272,349,433)	(169,806,458)
短期借入金	266,550,000	355,400,000	△88,850,000
その他の流動負債	1,175,605,891	916,949,433	258,656,458
負債の部合計	3,499,359,586	3,594,654,012	△95,294,426
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	(19,621,892,554)	(19,414,909,452)	(206,983,102)
第 1 号基本金	19,175,892,554	18,968,909,452	206,983,102
第 2 号基本金	0	0	0
第 3 号基本金	0	0	0
第 4 号基本金	446,000,000	446,000,000	0
繰越収支差額	(△7,070,905,231)	(△6,611,797,488)	(△459,107,743)
翌年度繰越収支差額	△7,070,905,231	△6,611,797,488	△459,107,743
純資産の部合計	12,550,987,323	12,803,111,964	△252,124,641
負債及び純資産の部合計	16,050,346,909	16,397,765,976	△347,419,067

別紙 5

5.財産目録

令和 5(2023)年 3 月 31 日現在

I	資産総額	16,050,346,909	円
	内 基本財産	12,878,827,877	円
	運用財産	3,171,519,032	円
II	負債総額	3,499,359,586	円
III	正味財産	12,550,987,323	円

区分	金額
資産額	
1. 基本財産	12,878,827,877 円
土地	206,867.19 m ² 4,352,171,857 円
建物	67,592.86 m ² 6,432,979,441 円
教具・校具・備品	10,577 点 1,033,024,357 円
図書	132,022 冊 546,824,465 円
その他	513,827,757 円
2. 運用財産	3,171,519,032 円
現金預金	1,431,134,226 円
その他	1,740,384,806 円
資産総額	16,050,346,909 円
負債額	
1. 固定負債	2,057,203,695 円
長期借入金	1,421,450,000 円
その他	635,753,695 円
2. 流動負債	1,442,155,891 円
短期借入金	266,550,000 円
その他	1,175,605,891 円
負債総額	3,499,359,586 円
正味財産(資産総額－負債総額)	12,550,987,323 円